

東京3-1

②

小笠原諸島調査區

森林植生調査書

東京營林局



小笠原諸島調査區

森林植生調査書

附圖壹葉

昭和十四年四月

東京營林局



小笠原諸島調査區  
森林植生調査書

目次

總說	一
第一章 調査地ノ概要	六
第一節 土地	六
一 位置	六
二 地形	八
三 地質 土壤	一四
第二節 氣象	一七
第三節 海流	一九
第四節 人文要説	二一



一	小笠原島ノ発見史	二一
二	住民及産業	二四

一)	住民	二四
二)	産業	二七

第二章	植物區系及植物地理	三二
-----	-----------	----

第一節	植物區系	三二
-----	------	----

第二節	植物地理	四一
-----	------	----

第三章	小笠原諸島調査區森林植生概要	五一
-----	----------------	----

第一節	原生林	五一
-----	-----	----

第二節	森林植生ノ概要	五七
-----	---------	----

一	A 海岸植生	五七
---	--------	----

一)	てりはぼく、はまごう群系	六九
----	--------------	----

一)	Aa はまごう群叢	六九
----	-----------	----

(細橋納)

二)	Ab くさとべら群叢	七〇
三)	Ac てりはぼく、はすのはざり群叢	七一
四)	Ad はすのはざり群叢	七四
五)	Ae ももたまな群叢	七六
六)	Af てりはぼく、ちぎ群叢	七八
七)	Ag かいがんいちび群叢	七九

二	B 山地植生 びろー、たこのき、	
---	------------------	--

	ももたちばな、しやりんばい群叢	八〇
--	-----------------	----

一)	Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢	八〇
----	---------------------------	----

イ	Ba <sup>T</sup> 基準組成區	八四
---	-----------------------	----

ロ	Ba <sup>II</sup> びろー優勢區	八七
---	-------------------------	----

ハ	Ba <sup>III</sup> たこのき優勢區	八九
---	---------------------------	----

ニ	Ba <sup>IV</sup> しやりんばい優勢區	九一
---	----------------------------	----

ホ	Ba <sup>V</sup> ひめつばき優勢區	九三
---	--------------------------	----

ヘ	Ba <sup>VI</sup> あかてつ、いすのき優勢區	九四
---	-------------------------------	----



二)	Bb	もくたちばな、うどのき群叢	九六
三)	Bc	もくたちばな群叢	九八
四)	Bd	もくたちばな、やろーど群叢	一〇〇
五)	Be	もくたちばな、しやりんばい群叢	一〇一
六)	Bf	ちぎ、しろてつ群叢	一〇三
七)	Bg	やつで、ひさかき、いはうとぎいちご群叢	一〇五
八)	Bh	びろー純叢	一〇六
九)	Bi	たこのき純叢	一〇七
十)	Bj	つるあだん純叢	一〇九
十一)	Bk	へご、まるはち群叢	一一〇

第四章

第一節

群叢ノ構成

踏査ニヨル調査

一 群叢ノ植物區系

一) 優喬木階

一一三	一一三	一一三	一一三
-----	-----	-----	-----

(柳橋納)

二) 從喬木或ハ喬木階  
 三) 灌木階  
 四) 地表草類階  
 二 平均種數  
 三 密度  
 四 常現種  
 一) 常現種名  
 二) 常現種分布概要

ノ	おほたにわたり	一一五	二	ハ丈しだ	一一七
三	いしかぐま	一二七	四	たましだ	一二九
五	しまふとうかづら	一二九	六	むにん之のき	一二九
ク	うらじろ之のき	一三〇	八	ときはいぬびは	一三一
9	うどのき	一三二	10	まるはやぶにくけい	一三三
11	いぬぐす	一三四	12	はすのはざり	一三五



13	しまいすのき	一三六	14	しましやりんばい	一三七
15	しろてつ	一三九	16	ときばせんたん	一四一
17	せきもんのき	一四二	18	もちのき	一四二
19	ちぎ	一四三	20	いちび	一四四
21	ひめつばき	一四六	22	てりはぼく	一四七
23	ももたまな(しまぼろ)	一四八	24	あかてつ	一五〇
25	もくたちばな	一五〇	26	はまぼつす	一五二
27	くろてつ	一五三	28	むんねずみもち	一五四
29	やろーど	一五五	30	おばていかかづり	一五六
31	おばしまむらさき	一五七	32	しまむらさき	一五八
33	はまごう	一五八	34	をがさはらばちやうじ	一五九
35	しまぎよくしんくわ	一六〇	36	くさとべら	一六〇
37	たこのき	一六一	38	えだうちちみざさ	一六三
39	くろがや	一六四	40	をがさはらびろー	一六四
41	ちくせつりん(ばいけいりん)	一六六			

(欄橋納)

### 三 特徴植物

## 第二節

### 標準地調査

#### 一 標準地ノ概況

#### 二 林木階ニ關スル調査

##### 一 本數 材積 種數

##### 二 林木階ノ構成

イ	Ac	てりはぼく、はすのはざり群叢	一八三
ロ	Ad	はすのはざり群叢	一八五
ハ	Af	てりはぼく、ちぎ群叢	一八五
ニ	Ba <sup>r</sup>	びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい	一八六
ホ	Ba <sup>b</sup>	びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい	一八六
ヘ	Bb	群叢 (あかてつ、いすのき) 區	一八八
		もくたちばな、うどのき群叢	一八九



ト	Bc	もくたちばな群叢	一九四
チ	Bd	もくたちばな、やろーど群叢	一九五
リ	Be	もくたちばな、しやりんばい群叢	一九七
三		灌木階ニ関スル調査	一九八
一)		本數 種數	二〇一
二)		灌木階ノ構成	二〇三
四		地表草類ニ関スル調査	二一一
一)		種別常現度	二一四
二)		草木本ノ種數及本數歩合	二三四
三)		常現種	二三八
四)		常現度級ニ對スル種數配分	二三一
五		摘要	二三五
一)		各階ニ於ケル主木、從屬木ノ生態	二三五
二)		標準地調査ニヨル特徴植物	二三八

(補綴)

第五章

植生連續ニ關スル考察

二四〇

目次了



小笠原諸島調査區  
森林植生調査書

總說

小笠原ハ二〇餘ノ小島嶼ヨリナリテ地積ノ過半國有林ナリ

各島嶼ハ比較的廣キ區域ニ分布シ 所生森林ハ氣候地理條件ト共ニ頗ル特色アル熱帶林ヲ形成ス

茲ニ本區域ヲ小笠原諸島調査區トシ 森林植生ノ各項調査ヲ遂行シ之カ資料ニ基ク研究ヲ以テ本調査書ヲ作製ス

本諸島ノ發見領有ハ比較的近年ニ行ハレ（後ニ詳記ス）  
僅少ノ開墾地ヲ除キテハ悉ク官有地ニ屬シ 林區制



2  
實施後ニ於テモ 伊豆七島等ト共ニ東京知事ニ委任管理  
セラルルコトニナリ 大正一。年始メテ其制ヲ廢シ 父  
島大村ニ小笠原營林署ノ設置ヲ見 全諸島國有林ヲ管理  
セリ

當局ニ於テハ要存置國有林三八。七<sup>ha</sup>九七五九ニ對シ  
施業案ヲ編成シ 昭和二年以來實行中ナリ

今次調査ハ其後追加セラレシ部分ヲ併セ左表ノ如ク  
一 島 四六三三<sup>ha</sup>三五九ニツキ調査ヲ行ヒシモノナ  
リ

### 各島嶼ノ地積

第1表

列島	島名	全面積	民有耕地	其他民有地	國有林	全調査面積
聳島	聳島	347.030	8.960	0.560	240.190	245.400
	煤	186.620	19.290	0.170	96.920	

	嫁	100.250			40.460	52.360
	北	37.010			21.250	30.780
	鯉島	13.880			6.860	
計		684.790	28.230	0.930	405.660	
	父島	524.400	68.900	3.170	390.020	388.716
	兄弟	800.480			793.620	726.674
	父	2453.890	198.920	51.800	1,480,320	1,372,903
	東	29.310			26.060	
	西	47.810	0.890		43.420	39.140
	南	27.960			28.220	
	瓢	7.920			5.380	
	孫	15.420			15.000	
	人	4.630			3.790	
計		3,911.400	268.690	54.990	2,785.810	
母島		2,117.640	641.610	24.540	1,349.760	1,180.226



向	135.730				132.140	130.6810
姉	172.740	6.600	0.120		87.730	
妹	146.520	21.000	0.110		69.430	
平	123.390	21.240	0.230		48.390	
二子	30.840				36.790	
鰹	7.720				5.580	
鳥	3.380				3.380	
丸	6.190				2.800	
計	2,744.130	690.450	25.000		1,735.980	
小笠原群島	7.340.320	987.370	80.700		4,927.450	
硫黄	536.740	67.860	9.690		481.370	457.6800
北硫黄	2018.940	562.090	224.190		1,449.000	8.7800
硫黄	376.330				367.930	
計	2,938.010	629.950	233.880		2,298.300	
西ノ島	24.690				25.000	

中島島	212.800			212.800	
南島島	119.010			26.980	
小笠原合計	10.628.810	1,617.320	314.580	7,490.530	4,633.3359

調査方法ハ既往調査區同様

大正十五年山林局発行

國有天然調査方法ニ依ル

實查ノタメ昭和十年五月二十一日東京芝浦ヲ出発シ

途中八丈島ニ寄港五月二十四日父島上陸以來各島ノ踏査

ヲ遂ケ同年九月十一日父島大村二見港出帆同月十四日

東京着 一一七日間ヲ以テ此行ヲ終ヘタリ

外業ニ從事セルハ技手二名ナルモ 調査書ノ作製ハ専

ラ技手一名之ニ當リ昭和十四年三月完成ス



# 第一章 調査地ノ概要

## 第一節 土地

### 一 位置

小笠原トハ小笠原、硫黄兩列島ノ總稱ニシテ大小二四ノ島嶼ヨリナル太平洋上

北緯 自二四度一四分一七秒 至三〇度五二分三九秒  
東經 自一四〇度五二分三九秒 至一五四度〇分〇秒

ノ間ニ碁布シ 島嶼ノ

群集狀ヨリ最北部ヲ智島列島 次ハ父島列島、母島列島、最南部ヲ硫黄列島ノ四列島ニ區分セラル  
伊豆諸島ト南洋群島トノ間ニアリ 東京ヲ距ル五二八

哩 最短距離ニアル伊豆鳥島ヲ距ルコト二三一哩ナリ

日本各地ト比較スルニ南端南鳥島ハ台湾中央部台中市邊ニ當リ 冲繩縣ノ西表島 石垣島ト同緯度ナリ

父島ハ冲繩本島ノ北方ニ相當シ

母島ハ同島中部ト同緯度ニシテ 北限近キ智島列島中

ノ北之島ハ奄美大島ト同緯度トス

各島嶼ノ緯經度表

第2表

島名	北			緯			東			經		
小笠原島	24	14	47	—	30	02	00	140	52	39	—	154 00 00
智島列島	27	29	41	—	27	42	56	140	05	38	—	142 12 16
父島列島	27	02	03	—	27	10	31	142	09	29	—	142 14 23
弟島	27	09	30	—	27	10	31	142	10	51	—	142 11 38
兄島	27	06	24	—	27	09	33	142	11	40	—	142 13 36



父島	27° 02' 03"	-	27° 05' 45"	142° 10' 37"	142° 13' 07"
母島列島	26° 32' 51"	-	26° 42' 25"	142° 07' 09"	142° 07' 09"
母島	26° 36' 19"	-	26° 42' 25"	142° 07' 09"	142° 10' 42"
向島	26° 36' 09"	-	-	-	-
硫黄列島	24° 14' 47"	-	24° 48' 58"	141° 16' 12"	141° 27' 43"
硫黄島	24° 45' 10"	-	24° 48' 12"	141° 20' 08"	141° 17' 16"

二 地形

伊豆七島 八丈島 小笠原「マリヤナ」諸島ハ北々西ヨリ南々東＝一四。〇。料＝亘リ點綴シ七島「アーク」小笠原「アーク」 「マリヤナアーク」ト呼ヒ合シテ七島「マリヤナアーク」ト称セラル 別＝七島山脈（「ナグマン」） 小笠原彎（小川博士） 七島「マリヤナ」 造山

帯（徳田博士）等ハ名称存ス

七島「マリヤナアーク」ハ新シキ褶曲山脈ニシテ之ヲ貫リ富士火山脈ハ伊豆半島 富士山、ハヶ嶽等ヲ過キ本州孤＝直交ス

小笠原列島ハ「アーク」外側ヲ硫黄列島ハ内側部ヲ形成ス 更＝外方（東）＝ハ六、〇〇〇一八、〇〇〇米ノ「マリヤナ」海溝及ヒ日本海溝、深淵連リテ存ス

各島嶼ノ地積ハ最大ノ父島カニ四五三「ヘクタール」ニ過キス 之ニ次キ 母島、硫黄島、兄、賀、弟島ヲ主ナルモノトス

地形ハ一率ナラス 旧火山地質ヨリナル賀島、父島、母島諸列島ハ三〇〇米ー四五〇米ヲ以テ最高トス 賀島列島ハ北之島、賀島、媒島、嫁島等ヨリナル 北之島ハ海岸断崖ヲナシ上部ハ緩斜地ナリ 賀島ハ父島ヲ距ル三九哩＝平島ト呼ハレ 海拔五〇一



六〇米ノ低平地ニシテ所々ニ基岩ノ露出ヲ見 島内火山  
小富士山ノ二丘アリ  
媒島ハ贅島ノ南東三哩 沿岸絶壁ヲナシ、島内屏風山、  
劔山ノ諸峯アリテ起伏甚シ 中ニ臺地巽平ヲ見ル  
嫁島ハ沿岸絶壁 上部ハ低平原ナリ  
父島列島ハ父、兄、弟ノ三島ヲ主体トス 父島ハ南北  
八料 東西五料 海拔三二一メートルノ中央山ヨリ山脈四方ニ  
走ル 西海岸ノ巽湾初寝浦 天之浦ニ面シ急ナルモ大村  
部落扇浦小港ニ向ヒテハ稍々緩ナリ 海濱ノ一部河ノ沿  
岸ニ小平地存スルモ 他ハ殆ント岩石露出山岳地ヲナス  
大村湾ハ島ノ西北部ニ深ク湾入シ 交通軍事上ノ要津ニ  
當リ旭山、中央山等ニヨリ三方圍繞セラレ 主部落大村  
扇浦其海岸ニ位置ス 父島ノ北方兄島ノ瀬戸ナル小灘ヲ  
経 兄島指呼ノ間ニアリ 全島殆ント岩石地ニシテ断崖ヲ  
以テ終リ 崖下磯濱附近ニ少々平地ヲ見ルノミナリ

分水嶺ハ島ノ中央ヲ南北ニ走ル 兄島ノ北 弟島ノ瀬  
戸ヲ越エレハ弟島ニツク 四周急崖ヲ以テ繞ラサレ 南  
ニ黒濱 北ニ北ノ鼻ノ砂地濱ヲ有スルノミニシテ内部ハ  
天海、次郎、三郎ノ諸峯稍々西側ニ相並ヒ 地勢ハ概シテ  
東ニ傾ク

母島列島ハ母島ノ他向島、平島、姫島、姉妹等八属島  
ヨリナル 母島ハ父島ヨリ南三二哩ノ洋上ニアリ 南北  
一四料 東西二一四料 島ノ概貌ハ一山岳ノ如シ 中央  
ノ最高テ乳房山トイフ

分水嶺ハ著シク東ニ扁セルタメ 東方ハ断崖ニ終リ  
西方ニ斜面展開ス 南ト北ニ冲港、北港ノニアリ

向島ハ一ニ前島トモ呼ハレ冲港湾ノ前面ニ見ラル 全  
島亀甲狀ニシテ 臨海部ハ急ナルモ島内ハ緩斜ナリ

平、姉島ハ共ニ低平ナリ

妹島ハ島ノ中央ニ小溪アリ 其兩側ハ急斜山峯巡ル



硫黄列島ハ硫黄島（中硫黄島）南硫黄島 北硫黄島ノ  
三島ヨリナル新期火山ナリ  
硫黄島ハ父島ヲ距ル一七六哩 島内ハ南端ニ噴出セル  
褶鉢山ヲ除キ殆ント平坦 高臺地ニシテ島ノ周リハ一般  
ニ砂濱ノ発達著シク或ハ内陸ニ續キテ砂丘狀ヲナス所少  
カラス 火山噴出ハ今尚續ケラレ 耕地、草原ニモ屢々  
經五一一〇米ノ微小噴口現ハル 地盤ハ軟質ノ凝灰岩ニ  
ヨリ形成セラレ 風雨ニヨル侵蝕自由ニシテ 通路ハ小  
谷間ヲナセリ 島内各地ハ数段段立ニ分タレ 尚隆起ヲ  
繼續シツツアリ  
南硫黄島ハ硫黄島ノ南三三哩 海岸ヨリ直クニ岩石ト  
ナリ九〇〇ル余ニ及フ一山岳地ニシテ 船着、登攀容易  
ナラス  
北硫黄島モ亦一座ノ孤山ニシテ沿岸何レモ断崖ニ臨ム  
山峯ハ南北ニ二分シ南ヲ神峯 北ヲ青ノ峯トイフ

神峯ノ頂上部ハ三萬坪ト名付クル緩斜地ヲナス 硫黄  
島ノ北四四哩ノ位置ニアリ  
以上ノ如ク各島ハ地積小岩石地 急斜地ナルタメ水流  
ノ発達極メテ微弱ニシテ 父島ニ於テハツ瀬川 母島ニ  
於ケル冲村川ヲ數フルノミナリ

各島興ノ海拔高

第3表

列島	島名	山名	高(米)	列島	島名	山名	高(米)
父島	大 山		88.4	東 島			91.8
兄 島	屏 風 山		154.9	南 島	東 山		56.7
	天 海 山		229.0	境 嶽			443.5
	廣 根 山		191.1	乳 房 山			462.6
	母 島		66.9				136.8



見返山	253.9	斗島	57.2
西島	99.8	姪島	112.7
父島	299.0	妹島	216.1
鰐躰山	268.0	姉島	116.5
旭山	307.9	北硫黄	802.0
夜明山	321.1	硫黄	167.0
中央山	227.3	南硫黄	918.0
三明山		摺鉢山	

### 三 地質 土壤

地質ハ火山岩ヨリ構成セラレ一部珊瑚礁(鳥島)ヨリナル  
 智島、父島、母島ノ三列島ハ第三紀ノ初期ヨリ中期ニ亘  
 リ活動セル火山ニヨリ成立シ 硫黄列島ハ第四紀ノ火山  
 ニ當リ 中硫黄島摺鉢山有史以後ノ噴出ヲ見タリ

父島ノ旧火山岩ハ所謂無人岩ト称セラル 一種ノ輝石  
 岩ナリ 父島ニ於ケル層序ハ上層ヨリ集塊岩―凝灰岩―  
 無人岩 母島ニ於テハ堅質石灰岩―凝灰岩―粗粒凝灰岩  
 (貨幣石層)―輝石安山岩ニシテ 母島ハ父島ヨリモ旧  
 期ニ属ス

兩列島トモ海底火山ニシテ今日ニ至ル迄隆起陷没ヲ數  
 回繰返セリ 即チ母島石門山 父島南端ノ珊瑚石灰岩ノ  
 存在及母島貨幣化石層ノ産出之ヲ證ス

硫黄列島ノ地質ヲ見ルニ北硫黄島 南硫黄島ハ集塊岩  
 質ノ輝石安山岩ヨリナリ 中硫黄島ハ主ニ黄色軟質凝灰  
 岩ヨリナル 然シテ基盤ハ輝石安山岩ヨリナルモノ、如  
 シ

元來摺鉢山、元山ハ二獨立火山タリシモノカ其後地変  
 ニヨリ連絡セルモノナリ 現在↓元山ノ高地點ニモ凝  
 灰岩上枝珊瑚ノ着生ヲ見 島周圍ニ能ク発達セル砂濱ト



其ニ隆起極メテ新期ナルヲ知ルヘシ  
 本島火山ハ尚餘燃熄マサルモノニシテ島面自然狀態ハ  
 砂漠區 熱地區 岩層地區 森林地區等ニ區分セラル  
 熱地區ハ高熱地中熱地ト分タル 前者ハ地下三〇厘ニテ  
 九〇度C 後者ハ四〇度Cノ高溫地狀態ナリ 而シテ高  
 熱部ハ不安定ニシテ所ニ移轉スルヲ認ム  
 斯ク地熱高溫ニ加フルニ氣溫高溫ナレハ飲用水ノタメ  
 コンクリート用ニ滿セル天水ハ常時微溫狀ヲ保テリ  
 土壤ハ赤褐色ニシテ粒子細微水溫濕ニ遭ヒテ著シク粘  
 質トナリ 乾燥スレハ堅結シ龜裂ヲ生ス 一般熱帶產ノ  
 ラテライトト同視セリ 氣候ノ關係上一般ニ腐植質  
 チ含ムコト少キモ石門山其他ノ鬱林下ニハ可ナリノ腐植  
 質堆積セリ

出

大正十一年四月一日 東京帝國大學地質學部 地質學科 地質學科 地質學科

第4表

氣 溫	
月	日
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	平均
17.65	17.40
18.29	20.53
22.78	25.47
27.16	27.19
26.82	25.46
22.68	19.41
22.57	

最 高 氣 溫	
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	平均
20.66	20.46
21.50	23.74
25.80	28.68
30.93	30.53
30.29	28.74
25.80	22.35
22.79	

最 低 氣 溫	
1	2
2	3
3	4
4	5
5	6
6	7
7	8
8	9
9	10
10	11
11	12
12	平均
14.49	14.19
15.18	17.68
20.16	22.78
24.17	24.66
24.22	22.88
20.01	16.47
19.7	

濕 度

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----



70.8	71.2	74.1	80.2	84.1	84.7	81.1	82.6	82.5	82.1	78.6	73.1	78.8
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

降水量												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
95.8	85.7	108.2	121.2	200.5	133.6	96.6	164.0	140.3	151.2	151.9	135.5	132.1 (1584.6)

雨天日数												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
17.1	15.2	15.2	14.7	17.7	12.7	13.4	17.2	16.9	18.2	17.3	19.2	16.1

第5表

最多風向												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
N	N	N	S	SSW	S	E	E	E	E	NE	N	

## 第二節 氣象

父島ノ平均気温ハ七、八月ニ於テ二七度ノ最高ヲ示シ  
二月一七度四テ最低トシ 平均ニ二、五ナリ 概シテ気温  
狀況ハ冲縄南部ニ類似シ一、二ノ特質ハ台湾南部ニ比スハ  
ギモノアリ

絶対最高気温ハ三四、九（大正五、七、一六） 東京ノ三六、六度  
（明治一九、七、一四） 八丈島ノ三二、八（大正一、二、八、一三）  
那覇三五、五（大正五、七、二一）ニ比シ著シク高度ナラス

平均気温ハ冲縄南部ニ等シク 石垣島ノ二三度ヨリ稍  
低温ニシテ那覇ノ二二度一 台北ノ二一度六ヨリモ高  
温ナリ 一月平均気温ハ石垣島 台北ヨリ高温ニシテ七  
八月ハ鹿兒島縣最南部ヨリ稍、高キモ 冲縄ノ二八度  
ニ比シ可ナリ低温ナリ  
即チ本島ハ冬期暖ク 夏期凉気ニ富ム



年較差ハ僅カ九度六ニシテ我内地ノ二〇度一五度ニ  
比シ極メテ少ク唯台灣ノ二、三地（例之恒春七度五）ニ  
其例ヲ知ルノミナリ

年雨量ハ一、五〇〇。一、七〇〇。耗ニシテ東京ヨリ稍  
少ク伊南諸島ハ丈島ノ三、〇〇〇。一、四〇〇。耗ニ比シ約  
半量ナリ我南洋領ハ「サイバン」島ノ一、七九二耗「パラ  
オ」及「ヤルド」島ノ三、五〇〇。一、三、七〇〇。耗ナルニヨリ  
、小笠原ハ其少量地ニ比スルモ更ニ少ク多雨地ノ二分  
ノ一ニ過ヤス雨天日數ハ一日數回來ル驟雨アルタメ  
〇、一耗以上一九三日一耗以上一三〇。余日間ヲ算ヘ可ナリ  
多シトイフヘシ

雨量配布状態ヲ見ルニ一月一四月ハ一ヶ月一〇。耗内外  
ハ少雨期ニ當リ五一一一月ハ比較的多雨期ナルモ乾雨  
期ヲ區分スル程度ナラス  
氣候區ハ東亞「モンsoon」區域ニアルヲ以テ一二月

ヨリ三月迄ハ北風多ク四月ヨリ六月ニカケテハ南風多  
ク七月ヨリ一〇月迄ハ東風多シ尚「カロリン」マリ  
マナニ「発セル」颱風ハ九月ヨリ一〇月ノ間北東へ進行シ  
本島ヲ見舞フ最近ハ昭和二年一〇月一日ニ毎秒三六、三  
米秒記録ヲ最大トス  
氣候型式ハ勿論海洋氣候ニシテ「ケツパン」ニ從ハ  
ハ温帶多雨氣候トナル「ズーパン」ニヨレハ熱帶トナル  
「ミラー」Miller (1931) ノ區分ニ從ハ八年平均二一度  
以上ニシテ高温氣候 Hot climate ニ當リ其中乾雨期明  
カナラサル熱帶性海洋氣候ナリ

### 第三節 海流

小笠原流<sup>海</sup>ヲ第一トシ他ニ黑潮ノ分流アリ小笠原海  
流ハ東徑一四〇度北緯二五度ヲ中心トスル環流ニシ



テ「マリヤナ」ノ東テ通り 小笠原ノ西側ニ至リ（夏期ハ東側ヲ通ル）東径一三七度——一三八度 北緯三〇——三二度ニテ西流トナリ「フィリッピン」北西部ニテ黑潮ニ合流ス

黑潮ハ一ニ日本海流ト稱セラルル北太平洋ノ主流ニシテ赤道地帯ニ発生シ 東ヨリ西ニ流レ臺灣ノ東西、沖繩ノ西ヲ通り 奄美大島、大隅間ニテ本土ノ東側ニ移リ、大吠崎ニ達シ ココニテ方向テ東ニ換ヘ 北緯四〇度附近ヲ北米ニ向ツテ進行ス 而シテ豆南諸島ニハ八丈島ト伊豆ノ間ヲ一晝夜五—五。哩ノ速度ヲ以テ通過シ 小笠原ノ東側ニテ消失スル一支流アリ

黑潮カ氣候上ニ與フル影響ハ冬期ハ「シベリア」ヨリ來ル北西寒風ハ海流上ノ暖氣ヲ陸地反對側ニ追ヒヤル爲メ本土ニ於テハ 黑潮ハ氣候上昇ニ影響少シトイフモ 小

笠原島ハ却テ島ノ位置ノ關係上可ナリ冬季氣溫高昇ニ效アルモノノ如シ

#### 第四節 人文要説

##### 一 小笠原島ノ発見史

発見史ノ大畧ヲ年代順ニ列記スレハ左ノ如シ  
一五九三年（文祿二年）……小笠原貞頼ノ発見ニ始マル、然シ乍ラ此探險ノ事實ハ疑問トスル点尠カラス

一六七〇年（寛文一〇年）二三邦人（紀州及阿波人）ノ漂流渡島セシモノアリ

一八二三年（文政八年）……英國測量船「プロツサム」號來航 二見港ニ投錨シ附近ノ測量ヲナシ 全島ニ「フランシスベリー」 Francis Bailey ノ名ヲ附シタリ



一八二八年(文政一一年)露國軍艦「ユツケ」號來ル  
 一八三〇年(天保元年)漂流白人五名 布哇土人一七名  
 上陸 父島ノ奥村ニ住居シ 漁農ニ從事ス 之本島開拓  
 ノ嚆矢トス

一八三五年(天保六年)……米國「ペルリ」提督 軍艦ニ  
 テ下田ニ向フ途中琉球ヨリ父島ニ到着ス(彼ノ紀行記ヲ  
 見ルニ琉球探險ヲ了ヘ自ラ目的ヲ以テ 小笠原探險ヲ試  
 ミシモノニシテ偶然ノ來航ニアラス) 「ペルリ」提督ハ  
 上陸後 當時生存セル米人「セーボレー」ト契約ヲ結ビ  
 一植民政府ヲ設立シ 島民(白人九名「カナカ」土人ニ  
 名)ニ家畜種苗ヲ交附セリ

一八六二年(文久二年)……徳川幕府ノ外國奉行派遣セラル  
 、文久六年一二月七日浦賀出帆一九日父島着 二年二月  
 一。日母島ヲ巡檢 三月九日歸航ニツキ一五日下午田ニ到  
 着ス 一行ハ父島廟浦ニ日本政府ヲ開キ 各諸島ニ父

母、弟兄、媒等家族名式ノ命名ヲ下セリ

一八七五年(明治八年)……我官憲派遣ヲ見完全ナル領有  
 トナル 翌九年小笠原事務所カ開廳セラレ 一〇年ニハ  
 同島在勤官ノ任命ヲ見 明治一三年ヨリ東京府ノ所轄ト  
 ナレリ

硫黄列島カ世ニ出テタルハ父、母島ヨリ遙ニ遅レ一セ  
 八四年(天明四年)「ゴア」Gore ニ指揮サレシ「レゾリエ  
 ウシヨン」號 Resolution ニ依リ発見セラレタルニ始マル

而シテ三島ヲ Sulphur island (硫黄島) San Augustino  
 island (南硫黄島) San Alessandro island (北硫黄島) ト命  
 名セリ 我國ハ明治二四年領有テ公ニス

次ニ絶海ノ孤島 南鳥島ハ一八九六年(明治二九年)  
 中之鳥島ハ一九〇八年(明治四一年)何レモ邦人ニヨリ  
 発見サレシモノナリ



## 二 住民及産業

### 住民

小笠原島ニ來島セル最初ノ人々ハ主ニ「マリヤナ、カナカ」等漁獵民族ニシテ 休養ノタメニ上陸セシモ時ニ越年セシモノモアリタリ 永住ヲ目的トセル第一回移民ハ一八三〇年伊國人「ジョン、マザロー」ノ率ヒシ一團ニシテ米人「ナサニール、セーボレー」等白人五名 布哇土民（カナカ土人）一七名ヨリナリ「シヤルリン島」ニ渡ル目的ニテ航行中標着セシモノナリ

此等外人ハ文久年間ニハ一九戸 三六名ヲ算ヘ 明治八年ニハ一五戸 七九人（内母島一戸三人）トナリ 明治一五年我國ニ歸化ス 今モ尚父島奥村歸化人部落トシ主ニ漁業ニヨリ生活ヲ營ム

邦人ノ移住ハ文久元、二年ノ幕府巡檢司 外國奉行 水野筑後守一行渡島ノ折 小花作之助（作助トモイフ）外ニ三残留シ 同二年八月ニハ幕府ノ移民計畫ニ依リ八丈島ヨリ三八名ノ來島ヲ見タリシカ 其後世情騒然トナリ 文久三年ニハ官民一同内地引揚ヲ見ルニ至ル 後漸ク明治八年一月小花氏一行再遣セラレ島情ノ明カナルニ從ヒ開拓移民ヲ見ルニ至ル

島内官廳ノ開始ハ明治九年一月三日扇浦ニ於カル大久保内務卿ノ名ニヨル「開拓小笠原島之碑」ハ明治一〇年一月同所ニ建設セラレ 今日尚島内ノ史蹟トシテ世人ノ注意ヲ惹ク 一四年三月ニハ渡航者ニ對スル免許令ノ布カレ 又開墾規則等ノ施行ヲ見ルニ至レリ

島民ハ八丈島ヨリ移リ來ル者大部ヲ占メ 他静岡縣、宮城縣、冲繩縣等内地沿岸漁業民ノ留マリテ住メル者少カラヌ



全島住民ハ昭和八年一月末ニハ六、一七七人アリ過  
去ノ人口動靜ヲ記スルニ明治八年 七一名（外國人）  
三十七年 三、九一〇人 四〇年 四、一五三人 大正元年  
四、八六七人 大正六年 五、五五九人 一一年 五、七二九  
人 一四年 五、八一八人ヲ算ス  
昭和八年調査ノ島別人口ハ  
 賀島 七人 煤島 七人 弟島 三七人  
 父島ハ大村三、四〇七人 廟村 五四〇人  
 袋沢村一四一人  
 母島ハ北村 四二七人 沖村一四〇七人  
 姉島 一人 姪島 四人 北硫黄島八九人  
 硫黄島一、〇三三人 南島島三三三人ナリ  
 歸化人種ハ明治三十九年一一人 大正元年一二〇人 六  
 年八五人 一一年七二人 一四年七三人（男三四三人）  
 口減少ス

## 産業

其人種ハ英人最モ多ク米 佛 獨 葡 西「カナカ」  
土人ヨリナル 當初經濟力強大ナリシモ現在ハ衰微シツ  
ツアリ 彼等ハ日英兩語ヲ使用シ 最近邦人トノ雜婚行  
ハルルニ至ルモ氏名ハ今尚洋名ヲ襲用スル習慣存ス

小笠原ノ主産業ハ漁業ナリ 交通不便且ツ市場ヲ距ル  
コト遠キタメ製造漁業ヲ營ム 一時珊瑚採取旺ナリシカ  
近海殆ント取盡セル状態ナリ

土地生産業ヲ見ルニ最古ノ産業ハ糖業ナリ 開拓當時  
第一回移民ジョン・マザレー一行（天保年間）及ヒペルリ  
（嘉永年間）等種苗持來リ 明治一一年頃ヨリ印度 瓜  
哇産品種ノ耕作ニ移レリ 最近勞賃ノ騰貴 地力ノ減退  
ニ基キ臺灣其他主産地ノ競争ニ堪ヘス



糖業ノ大勢ハ第六表ニ示ス如ク 最盛期ニハ作付反別  
一。町ヲ超過シタリシカ 現在ハ僅カニ硫黄島 北  
硫黄島 母島ノ各島嶼ノ一部ニ栽培セラルルニ過キス  
「バナナ」ハ明治四〇年頃最モ盛大ナル生産物ナリシカ萎  
縮病ノ被害 台湾産ニオサルル等今日ニ於テハ殆ント移  
出ヲ見ス  
斯シテ土地産業ハ明治三〇年頃ヨリ熱帯氣候ヲ應用シ  
冬氣野菜ノ栽培業起リ 其後技術向上並ニ船運便利トナ  
リ 昭和九年ニハ栽培面積一七〇町 生産額三四万圓ニ  
達シ 本島産物ノ首位ニ上ルニ至ル  
果樹ノ栽培ハ歴史極メテ旧キモ顯著ナル発展ヲ見ス  
熱帯性觀賞植物栽培ハ往年多數有志及島吏ノ盡力ニ係ル  
移入熱帯植物ヲ基トシ氣候 地ノ利ヨリスルモ有望事業  
ナリ  
硫黄島ニテハ「コカ」 「デリス」 「レモン草」等ノ藥用ハ

香料植物ノ栽培ハ甘蔗栽培ト共ニ主産業ナリ  
本島産業一般ハ島 當局ノ熱心ナル指導監督アルニ拘  
ラス 近代の飛躍ヲ見サルハ技術經營上ノ欠缺ノ他 島  
民ノ島情 資本ノ不足 暴風被害等ノ諸因ニアルモノノ  
如ク思料セラル

糖業ノ大勢

第6表

年 別	作付反別(歩)	砂糖産額(市)	砂糖價格(市)
明治十五年	9,000	5,500	363
同 二十年	250,200	143,051	7,582
同 二十五年	427,900	850,000	38,254
同 三十年	5,788,800	2,739,530	128,590
同 三十五年	9,270,404	2,129,227	116,360
同 四十年	7,760,200	2,440,609	332,270



大正元年	8,335.900	2,531.050	304.853
同 六年	11,277.500	5,123.726	566.516
同 十一年	11,651.210	3,163.922	420.651
同 十四年	10,003.000	3,841.749	595.752

昭和二年及八年移出額 (圓單位)

第1表

種 別	昭和二年	昭和八年
蔬菜果實	33,000	284,446
砂糖	305,000	81,905
藥用植物	.	57,654
觀賞植物	.	16,401
鮮魚類	96,000	39,475
其他	95,000	89,052

鯨油	14,000	16,117
鯨肉	.	57,861
鯨肥料	.	3,833
鯨糞	13,000	2,031
牛豚	.	2,610
其他	222,000	50,083
計	778,000	701,467



## 第二章 植物區系及植物地理

### 第一節 植物區系

本島植物ニツキテハ凡ソ百年以前ヨリ内外多數ノ學者ニヨリ研究セラレ最近ニハ主トシテ東京帝大理學部植物學教室ニ於テ研鑽セラレツ、アリ 其内大部ノ研究ヲ遂行シ或ハ遂行中ノ人々ハ服部廣太郎一九〇五年（明治三八年）中井猛之進 津山尚 豐島恕情（元營林署長）岡部正義（林業試驗場員）ノ諸氏ナリ

現時尙再檢ヲ要スルモノ多ク將來自生種數 植物地理ニツキ種々ノ新資料ヲ提供スルニ至ルヘシ

自生種ト認メラルルハ九三科 二五六屬 四〇七種ナリ

リ 近時發表セラレシ諸氏ノ論著ヲ見ルニ豐島恕情「昭和一三年林業試驗報告」ニヨレハ九三科 二六〇屬 四一五種 岡部正義 昭和一三年三月小笠原島所生植物調査ニヨルニ九三科 二五七屬 四〇一種アリ

### 小笠原島自生植物一覽表

第8表

番 號	科 名	自 總 數		特 産		番 號	科 名	自 總 數		特 産	
		屬 數	種 數	屬 數	種 數			屬 數	種 數	屬 數	種 數
1	リウビンタイ	2	2	1	1	26	クスノキ	4	8		6
2	ハナヤスリ	1	3	1	1	27	ハナハギリ	1	1		
3	コケミノブ	1	8	2	2	28	シ	1	1	1	1
4	ゴ	2	3	2	2	29	ナ	2	2		
5	カラボシ	28	56	1	24	30	ベンケイササ	1	3		



二 寄 署 治 了 種

6	フサシダ	1	1		31	ユキノシタ	1	1	
7	ゼンマイ	1	1		32	トベラ	1	5	5
8	ヒカゲリカヅラ	1	2		33	マンサク	1	1	1
9	イハヒバ	1	2		34	イバラ	4	8	6
10	アツバタシ	1	1		35	マ	10	11	3
11	マツ	1	1		36	カタバミ	1	4	1
12	コセウ	2	4		37	アシルダ	3	6	5
13	ニレ	2	2		38	センダシ	1	1	
14	クハ	2	4		39	ヲカトラダ	4	6	4
15	イラクサ	2	3		40	モクノキ	1	5	3
16	ビヤクダシ	1	1		41	ニシキギ	1	1	
17	ヤドリギ	1	1		42	ムクロジ	2	2	1
18	タデ	2	2		43	クロウメモギ	1	1	
19	アカザ	1	1		44	ダダラ	1	1	
20	ヒメユ	2	3		45	ホルトノキ	1	2	2

21	オシロイバナ	2	2		46	シナノキ	1	3	1
22	ツルナ	1	1		47	アヲヒ	4	9	4
23	スベリヒユ	2	3		48	ツバキ	2	2	2
24	ナデシコ	4	5		49	オトギリササ	1	1	
25	ウマノアサガサ	2	2		50	スミレ	1	1	

2.

51	キク	1	1		73	ナス	4	5	4
52	ギンナギ	1	1		74	ゴロハグサ	3	4	
53	グミ	1	1		75	ハマウツボ	2	2	2
54	シクンシ	1	1		76	ハマナギ	1	1	1
55	テニシク	1	3		77	オホバコ	1	1	
56	ノボタシ	1	1		78	アカネ	6	10	7
57	アカバナ	1	2		79	スヒカヅラ	2	2	2
58	ウコギ	1	2		80	ウリ	1	1	1



種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
数	1	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	21	25	27	28	30	37	56	計												
属	46	29	4	7	...	1	...	...	1	2	...	1	...	...	1	...	...	93													
種	30	24	14	7	4	2	3	1	1	2	1	...	...	...	1	...	...	93													

第9表

一科種數最多ハウラボシ科ニシテ次テ禾本科  
 科 かやつりぐさ科 らん科 まめ科 あかぬ科 ひる  
 がほ科等ナリ 又内地諸地方ニ比シ あふひ科 こけし  
 のぶ科 くすのき科 いばら科等ハ種數多シ  
 九三科ノ屬種ニ對スル數的關係次ノ如シ

近世ニ於テ船舶其他ニ依リ 移入歸化セル植物中ニテ  
 山野ニ自由ニ繁殖スルモノ 尠カラス  
 主要ノモノテ掲クレハ ぎんごうくわん、せいりんべ



んげいさう、むらさきかたばみ、えのきあふひ、やはす  
 かづら、じゆずさんご、だんどく、にちにちさう、しゆ  
 うがかつり、ねむりぐさ、しやうじかうさう等ナリ  
 栽植=供セラルル移入種ノ主ナルモノハ 木麻黄 硫  
 球松「ゴカ」相思樹等存ス

自生種ノ生育形別種數ハ

第10表

半齒植物	10科	79種
種子植物	83"	328"
裸子植物	1"	1"
被子植物	82"	327"
一年生植物	1873"	237"

白生種四〇七種中 五屬 一九九種ハ特産種ニ屬ス  
 其中木本ハ一一一種ヲ算シ 中八九種ノ多數ハ固有種ト  
 認メラル

父島列島 母島列島 硫黄列島ノ三列島間ノ特産種ヲ  
 擧ケンニ

父島列島特産種

てりはこぶがし むにんとびら しまかなめもち  
 をがさばらかげいちご しまみつばきいちご 八丈  
 いちご をがさばらごしゆ むにんいぬつげ まる



みのばまばう むにんふともも むにんつつじ う  
ちだしくろき ちちしまくろき

### 母島列島特産種

おほやまいちぢく せきもんのき むにんくろき  
ははじまとびら

### 硫黄列島特産種

がくばな いわうとうきいちご やへやまはまなつ  
め しまばまざう いわうとうふよう おうがすと  
のき ぼそばやろーど とくびやくこう

父島列島ハ種數豊富ニシテ特産種モ多ク 最初此處ニ  
區系カ成立セルト見ラル

生育形別組成ハ岡部正義ノ調査ニヨレハ多年生草本

一七八種 四四・三九%、二年生草本八八種 二一・九五  
%、灌木五五種 一三・七二%、喬木四二種 一〇・四七%  
小喬木二七種 六%七三、蔓形類一一種 二%七三等  
ヨリナル

自生木本ハ殆ント常緑樹ニシテ落葉樹種ニハせんだん  
しまばう、むにんでいこ、しまむくろじ、あかうざん  
せう、むにんえのき、おがさはらごは(以上喬木) む  
にんあをかんび(灌木)ノ八種アリ

## 第二節 植物地理

自生種四〇七種ノ邦内分布状況ヲ見ルニ 台湾ト共通  
スルモノ一七〇種 四一%、硫球三四%(一四〇種)、  
九州三二%(一三二種)、本州南部二一%(八五種)、



本州中部ニ〇%（ハニ種）四國一八%（セ三種）本州北部一ニ%（五一種）北海道六%（ニ六種）トナリ南日本トノ共通種多シ

本島植物區系ニ関スル「エングラー」他諸學者ノ見解ヲ見ルニ大要次ノ如シ

# エングラー

## 一 北帶

イ 亞極北區

ロ 中部亞細亞區

ハ 溫帶東亞區

## 二 旧熱帶

イ 季節風地區

1. 熱帶台灣地方

2. 琉球地方

3. 小笠原地方

一 亞細亞口 東亞熱帶及南部溫帶區

ノ台灣一部 中部南部日本一部 奏嶺以南支那地方

三好學博士ハ全日本ヲ北 中 南ノ三帶ニ區分シ 小笠原ヲ南帶ニ含マシム（最新植物學下卷昭和六年） 吉井博士ハ日本植物區ヲ南ヨリ熱帶植物區 亞熱帶植物區ヨリ亞寒帶植物區迄五區分シ 小笠原ハ 琉球 台灣ト共ニ熱帶植物區ニ入レ 同島植物相ハ熱帶雨林ノ不完全ナルモノト見做セリ（植物學大要昭和八年） 矢部博士ハ大體「エングラー」ニ一致シ小笠原ハ南日本區ノ一部トシ 然シ區系上ノ見地ヨリ台灣ト共ニ旧熱帶馬來植物區系ニ屬セシメリ（岩波講座概説植物地理昭和五年） 神谷辰三郎又前説ニ同シ（植物地理學昭和八年） 本多博士ノ日本森林植物帶説ハ寒帶ヨリ熱帶迄 4 = 區分シ 本諸島ハ琉球以南ト共ニ熱帶トセリ（改正區木森林植物帶論



4版大正一一年)  
服部博士ハ當時セ。科 一六四屬 二二。種ノ自生種  
ヲ研究シ 固有種ハ一三。六%ニ達スル一屬(シロテツ屬  
一三。種ヲ認メ 一般ニ洋島<sup>植</sup>物相ノ固有種一六%一五。  
%ニ當ルトイフ通説ニ達セサルハ「フロラ」ノ起原新シキ  
ニ歸セラルヘク 一屬ニ對シ一、三種ヲ示ス「モノタイプ」  
らん科植物ノ寡少ハ洋島性ヲ示スト論セリ  
琉球 台湾「ポリネシア」ニ普通ナル紅樹林ノ缺除ハ  
持來サルル機會ナキニ非ラス 寧ロ海岸地形ノ該植生ニ  
不適ニ歸セシメ 生育別ニ見テ熱帶ニ限ルモノ六一%、  
熱帶ヨリ亞熱帶ニ及フモノ一八%、亞熱帶ヨリ溫帶ニ亘  
ルモノ二一%ヲ區分シ 本島植物ハ熱帶ニ屬スト結言ス  
(一九。八年(明治四一年)小笠原諸島ノ植物地理學的硏究)  
中村博士ハ昭和五年小笠原島ノ植物概觀ヲ公ニシ八八  
科 二二。屬 三二。種 六變種ヲ記セリ 内五屬ハひ

めたにわたり屬 しろてつ屬 むにんやつで屬 しまう  
つば屬 わだんのき屬 一四九種 四變種即チ四六%強  
ノ固有種ヲ擧ケ 本島植物ノ植物地理ニ言及シ 屬ノ分  
布ハ特有三屬(しろてつ屬 むにんやつで屬 わだんの  
き屬 きぶし屬) 東亞共通六屬(かなめもち屬 つげ  
もどき屬 きぶし屬 ゆづりはわだん屬等) 東亞馬來  
共通六屬(たぶのき屬 いす屬 しやりんばい屬 ひめ  
つばき屬 ていかかづら屬 にはいぐさ屬)「ポリネシ  
ア」共通一屬(さぼりーやし屬) 馬來濠州「ポリネシ  
ア」共通二屬(たちのき屬 ばちやうじ屬)ニシテ他ハ汎  
熱帶的或ハ汎世界的ノモノト認メ 之ヲ總括シ本諸島ハ  
東亞馬來區ニ入ルモノト論ス

(一) 熱帶ニ共通四種  
はすのはざり、

はうちはのき、てりはぼく、



もんぱのき

(一) 亜細亞熱帯産一〇種

でいこ、しろつぶ、ときばせんだん、むくろじ  
やまあき、こんたんもどき、やへやまあきを  
ばながさのき、くさとべら ばまぼう

(三) 琉球 台湾 日本南部共通種八種

へご、しらげてんのうめ、しましやりんばい、  
八丈いちご、もくとちばな、いそまつ、くろて  
つ、つるあだん

(四) 琉球 台湾 支那共通一種  
あかてつ

以上ノ分布状態ヨリ本区系ヲ 東亞馬來前衛植物帶ニ  
當テ 從來ノ東亞植物區系 五區分テ一二區分トシ小  
笠原ヲ独立的ニ取扱フ (日本生物地理學會一卷第三號)

同博士ノ近著東亞植物 (岩波全書昭和一〇年)ニ於テ  
一二區分法ヲ採リ 共通本本ノ地理的分布ヲ調査シ

琉球台湾一九種 安南支那一四種 比島馬來一二種  
南 洋 一種 日本列島一六種ヲ區分シ 本島植物

區系ノ成立時代ハ 洪積世中葉以前ニシテ原体ハ 東亞  
馬來半島ナルヲ論セリ

岡村博士ハ海藻相ヲ研究シ 小笠原ハ我カ日本ノ五區  
分中 第三区ニ入レ 本區ハ日向大島ヨリ 野間崎ニ至  
ル九州南端 琉球 台湾ヲ包含スル地域ニシテ 大体亞  
熱帶性ナルヲ明カニセリ (海産植物ノ地理的分布 岩波

講座 岡村金太郎 昭和六年)

本島生物ニ関スル綜合的觀察トシ 更ニ動物學ノ研究  
方面テ一瞥センニ 黒田博士ハ特産哺乳類 をがさばら  
おほこりもり 並ニ類似種屬ヲ精査シ 本種ハ濠州区中  
「ポリネシア亞區」ニ産スルモノニシテ 他ニハ「フィリ



ツピン」ニ一種ヲ見ルモノナレハ 小笠原及硫黄列島ハ「ポリネシア」印度馬來兩亜區ノ中間性トモ見ラレヨリ「ポリネシア」亜區ニ近シトイヘリ（日本生物地理學會々報第一卷第三號八七頁）鳥類學者叔山徳太郎氏ハ長年ノ研究ヲ結ヒ（同會報一七頁）所産陸島中 留島ノ數ハ旧北區 濠州區ノ順トナリ 特有屬及種ハ東洋區系ニ多ク 特有亞種ハ 主ニ旧北區ニ多キヨリ之本島カ末タ日本島孤ト連絡セサル以前ニ「フアウナ」母体カ東洋區系中ノ印度支那亞區ヲ傳ヒ 移リ來リ 其後 火山線ノ活動ニヨリ「七島マリヤナーク」完成セラルルニ及ヒ旧北區系及濠州區系（主ニ「ミクロネシア」ヲ通り）來ルモノナリ

岡田博士ノ陸棲爬虫類研究ニヨレハ 特産をかさばらやもりハ西印度「メキシコ」大洋洲 南太平洋諸島 印度洋諸島カ原產地ニシテ 或ハ人為的輸入ト見ラルヘク

更ニ一種おがさばらとかげハ「アフリカ」東西沿岸 印度洋諸島 南太平洋諸島ニ近似種見ラレ「ポリネシア」或ハ南太平洋島嶼系ニ近キヲ知ル

黒田徳米ノ陸棲貝類研究ニテハ東洋系少ク 原始太平洋型ナルヲ明ニシ 昆虫相ニツキテハ尙研究充分ナラサルモノニテ見ルニ

江崎悌三ハ 原体ヲ太平洋區系ノ「ポリネシア」亜區ニ屬スルモノト認メ 其後輸入セラレタル 東亞細亞ト混淆區系ト見做セリ

古川晴雄ハ直翅類ヲ研究シ 純粹ノ旧北區系ト解セラレ

鹿野忠雄ハ甲虫類研究ニ於テ日本ニ最モ關係深ク 次テ「ポリネシア」ニ酷似ストイフ

以上生物地理研究ヲ綜合スルニ 本島植物區系ハ概括的ニ 熱帶植物トイハルルモ 要素ノ組成ハ 本島地史



ト共ニ古ク東亞馬來ノ「ポリネシア」系ヲ擁シ一方  
 さばぎやうヘオホハマギヤウノ屬 菊科木本（わだん  
 のき）等ノ顯著ナル太平洋島嶼形式要素ヲ入レ極メテ多  
 様性ナリ 又南方系要素タル さばりーやし屬（ノヤシ）  
 ノ實地分布ハ 新期火山地（硫黄列島）ニ欠ク等ノ事實  
 等ヲ併セ考察スルニ 區系原體ヲ印度馬來地方ニトリ  
 第二次ニ「七島マリヤナーク」ノ地理確定ト共ニ 南  
 北諸系統輸入セラレ 現在所生ノ混和區系ヲ 形成シタ  
 ルモノナルヘキモ未タ残サレシ問題尠シトイフヘカラス

### 第三章

#### 小笠原諸島調査區森林植生概要

##### 第一節 原生林

現時最モ老齡ナル林分ハ當局ニ於テ 母島石門 桑木  
 山保護林トシ保存セララルル約三〇haニ過ヤス 他ハ小喬  
 木林 灌木地 耕地 岩石地ナリ

其往古テ顧ルニ無人島時代寄港セシ内外人及ヒ最モ旧  
 キ住民タル 歸化人ハ等シク 全島海濱ヨリ山頂ニ至ル  
 迄鬱蒼タル密林ヲ以テ蔽レシト言ヒ傳ヘリ

明治一〇年頃官廳設置ト共ニ 森林開墾ニ對スル 保

護取締施行セララルルニ至ルモ 最初ノ移住者ハ全ク天産  
 物採取ヲ以テ生活ノ資ニ充テ 先ツ優秀材ノ伐採移転夥  
 シク 加フルニ傳統的ナル農法ハ耕地及其近傍ニ野火ノ



汎行ヲ見ルニ至レリ  
耕地ハ主ニ甘蔗栽培用ニシテ明治三〇年以後 三〇年間  
ニ亘ル糖業盛時ノ燃料ニ供セララルモノ夥シキ量ニ達セ  
リ

明治三九年頃ニハ現存原生林タル石門山 桑木山ニ對  
シ ぐは せんだん いちびノ伐出シニ五ヶ年間 一〇  
数名ノ木挽 仕事手 雇傭セラレタリトイフ

母島ニ於ケル中央部 農耕地 父島ニ見巷ヲ巡ル立等  
現在最モヨク開拓セラレシ所ニモ 或ハ岩石地ニ於テモ  
之ハノ巨根 木性羊齒痕跡ノ存在スルカ之ヲ以テ豊島惣  
情民ハ前記往時ノ大森林時代ヲ肯定シ 現在ノ乾燥瘠悪  
ナル地況ハ一ニ森林滅亡後ニ來レル急變ニ歸セシムヘシ

ト説明ス(林業試験報告三六號小笠原島ノ植生並熱帶有  
用植物ニ就テ一四頁昭和一三年 豊島惣情)

然レ乍ラ現林況 氣象 地況等ノ諸矣ヲ考察スルニ石

清氏

門山原生林分ノ主林木ハうどのき もくたちばな しま  
ほるとのき(ちぎ) テリはばまぼう(いちび) くら  
てつ等ニシテ下層木ハもくたちばな大部ヲ占ム  
又中老林ニハもくたちばな純林ヲナス所多ク 地床ニ  
ハもくたちばな最モ多ク 之ニおほたにわたり しまぎ  
よくしんくわ おほばていかかづら えだうちちぢみざ  
さ をがさはらしゆすらん きのぼりしだ いしかぐま  
ちくせつらん等ニヨル密叢ヲナス  
最高ハ二〇米ニシテ一ニ一六米級ノモノ最多ナリ  
胸高直径ハ一〇一ニ〇厘ノ中 小径木多ク 中ニハハ  
一〇〇厘ニ上ルモノアリ

蓄積ハ相當リ四〇〇<sup>m³</sup>ヲ最高トシ 樹種別ニ見レハ

うどのき 三三% もくたちばな 二〇%  
ち ぎ 一五% い ち び 八%  
くらてつ 七%ヨリナル



以上ノ内 もくたちばな うどのき しまほるとのき  
くろてつノ四種ハ 最後ノ林相構成種ト見ラレ  
てりばよく もくにん之のき ひめつばきハ老林ニ限り常  
在スルモノニアラス ひめつばきノ如キハ後退相ニ顯著  
ナリ

而シテ往時選伐セラレシ優秀樹種ハとわ いちび せ  
んだん やろーど等ニシテ通性ハ群生スルモノニアラス  
シテ 寧ロ混在種ト認メラルモノナレハ 現在ノ母島  
原生林ハ往時ノ原生林ノ形骸ニアラサルヘク可ナリ  
選伐ニヨリ變化ヲ受ケタリト雖モ尚原生林ト認メ得ヘシ  
選伐優秀木モ二五%以上ニ上ルト考ヘラレス 從テ元ノ  
原生林ハ現在林相ト同様材積順位 うどのき もくたち  
ばな 本数順位 もくたちばな第一位ナルハ不動ナルハ

元原生林ノ林相區分ヲ今日案出スルハ困難ナルモ現在

母島石門原生林地方並ニ他島嶼林相トテ併セ見ルニ實地  
ハウどのき他大木ヲ混スル喬大木林ト もくたちばな純  
林トノ二種カ區別セラレ 硫黄列島森林ノ研究ヨリハ  
しまほるとのき(ちぎ) おいばしろてつ原生林(喬大木  
林並小喬木林)ヲ導キ得

斯ク原生林ノ多種性ヲ認ムレハ兎角ク石門山一部ニ現  
存スル大ナルうどのき もくたちばなヨリナル 最高次  
原生林ノミニ着眼シ 全島嶼之一色ニ鬱林ヲナセリトハ  
考ヘ得ラレス 之ヲ伐採野火トイフ點ヲ見ルモ 殆ント  
各島唯一回ノ伐採ニヨルモノナルヘク 中ニハ始メヨリ  
開墾不適當モ存セシナルヘク 敢テコノニ猛火全島ヲ襲  
ヘリトハ想像シ難ク 又航路船着場ノ關係上無人島全般  
ニ亘リ父、母兩島同様濫採セラレシヤ疑問トス  
然レコノニ前記ノもくたちばなヲ主トスル或其類似林  
相ヲ原生林ノ範圍トスレハ各島嶼往古ノ原生林分布ト口







今回ノ調査ハ都合ニヨリ各島嶼精度同一ナラス 特ニ  
 避遠ニシテ船運テ欠ク硫黄列島 就中森林トシテ調査ヲ  
 要スル南 北硫黄島ハ調査不充分(中硫黄島ハ耕地荒砂  
 地多シ)ナルタメ 一部資料不足セルモ 一先ツ左ノ如ク  
 森林植生類別ヲ試ミタリ  
 吾人ハ本島森林景觀ヲ目シ 純熱帶林トイハンヨリハ  
 之ヲ亞熱帶林トイフヲ可ナリト認ム  
 區形組成上 單子葉木本 木性 羊齒ノ混在ハ一般潤  
 葉樹林ニ比シ頗ル特異ノ景觀トイフヘギモ 主林木ハ琉  
 球 南日本ニ生スル亞熱帶的亞素及東亞馬來植物區系  
 中ノ海岸性ノモノナリ  
 蔓莖類ノ繁茂ハ ちがさばらしらたまかづら ぱな  
 がさのき むにんていかかづら等著シキモ 局部ニ純叢  
 ナナス つるあだんヲ除キテハ我内地ト格段ノ差ヲ認メ  
 難シ

林内樹幹着生ノ うちはごけ類 しゝらん くりはら  
 ん きのぼりしだ等ノ羊齒類 蘭科植物ハ可ナリ普通ニ  
 見ラル 之ヲ要スルニ本島植生ハ熱帶林ト見レハ 最モ  
 海洋性ノ山地林ナリ  
 眞正熱帶林ハ馬來地方ノ *Pterocaryaceae* 森林ヤ「ジ  
 ヤバル」ノ藓林ヲ指スモノニシテ 本島ニハ地形上 氣候  
 上ヨリスルモ斯カル景觀ハ求メカタシ

### 小笠原諸島森林植生類別

#### 亞熱帶降雨林

びろー たこのき てりはぼく もくたちばな  
 しやりんばい群系團

#### A 海岸植生



てりはぼく はまごう群系

Aa はまごう群叢

Ab くさとべら群叢

Ac てりはぼく はすのはざり群叢

Ad はすのはざり群叢

Ae ももたまな群叢

Af てりはぼく ちぎ群叢

Ag かいがんいろび群叢

B 山地植生

びろー たこのき もくたちばな しやりんばい

群系

Ba びろー たあのみ くらてつ しやりんばい

群叢

標準組成区より良し

Ba<sup>II</sup> びろー優勢区

Ba<sup>III</sup> たこのき優勢区

Ba<sup>IV</sup> しやりんばい優勢区

Ba<sup>V</sup> ひめつばき優勢区

Ba<sup>VI</sup> あかてつ いすのみ優勢区

もくたちばな うどのき群叢

もくたちばな 群叢

もくたちばな やろーど群叢

もくたちばな しやりんばい群叢

ちぎ しろてつ群叢

やつで ひさかき いわうとうきいちご群叢

びろー純叢

たこのき純叢

つるあだん純叢

へごまるはち群叢



A 群系ハ諸島海岸ノ磯濱ニ隈ナク分布シヨク防風林ヲ形成ス。てりはばくはすのはざりもったまなノ三種ヲ主体トシコノ林相ニ先行セルはまごうくさとべらヨリナル灌木叢ヲ含マシム

但シ中硫黄島ニテハてりはばく主林木トナレル Af 群叢島カ中央部ニ現ハル即該本島ハ火山島ノ隆起ニヨリ出来構成土壤砂地ナル特殊環境ヲ形成スルニ依ルコノ Af 群叢ハ南北硫黄島ニ多ヤ内地植生 Bf ちぎしろてつ群叢ト海岸林トノ中間ニ當ルモノナリ

本群系中てりはばくはすのはざりもったまなノ主林木ハ喬大密林ニシテかいがんいちびハ北硫黄島海岸ニ灌木密叢ヲナシ他ノはまごうくさとべらハ密或ハ疎生低灌木性ナリ

B 群系ハ海岸ニ発達スル A 群系ヲ除ク全部ニシテ

岩石性海岸ノ Bi たこのき群叢ニ始マリ内陸ハ普通喬木森林植生ニシテ特殊ノモノニ南、北硫黄島山頂部ニハ Bg やつで、むさがき、きいちご群叢ノ灌木植生存ス此ノ中ニハへご、まるはち小喬木林 (Bh) つるあだん純叢 (Bj) びろー純叢 (小喬木 Bh) 等ノ特殊ナルモノ及一般ニ最モ廣ク分布スル Ba ノろてつ、しやりんばい等ノ小喬木林母島石門原生林ヲナス Bb もくたちばな、うどのき喬大木林ト之周囲ニ存スル もくたちばな純林 (Bc) カ母島ノ一部ニ片影ヲ認メ硫黄列島ニハ Bf ちぎ、しろてつ群叢 (喬大木及小喬木林) 存シ他原生林 (或ハ準原生林) ト一般小喬木林トノ中間性ニ當ル Bd Be もくたちばな、やろーど群叢 もくたちばな、しやりんばい群叢ノ區別ヲ見ル

諸群叢中純喬木性ナルハ Bc Bf ノ二群叢ニシテ Bh 葉性羊齒林 Bg Bi Bj 三群叢ハ單子葉林 Bg ハ純



灌木性 他ハ小喬木林ナルヲ常態トシ 岩石地、乾燥地  
ニテハ低灌木性トシ現出ス

終リニ一言熱帶降雨林ノ語義ヲ明ニ置ク

河田氏ハ其著 森林生態學講義 (昭和七年版 三五二―

三五四頁)ニ於テ 本島及台湾琉球ノ一部ヲリユー

ベル氏ノ多雨林木本植生 *Pluvialignosa* ト認メ 熱

帶多雨林 *Tropischer Regenwald* (正宗氏之ヲ降雨林ト

譯ス 植物地理學七六P 昭和一一年) 亞熱帶多雨林

*Subtropischer R. W.* ト呼ハルハヤト論セリ

然シ乍ラコノ多雨林ニ降雨林ハ *Rubel* ノ外 *B. Diels*

ノ見解ハ紅樹林 濕原 (*Diels*) 等ニ對比セラルル潤澤

ナル水濕環境ナルタイプ

依テ之ニ小笠原森林ヲ當テルコトハ適當ナラサル如シ

多雨林ノ範疇外ニアル本島森林ヲ 日本語式ニ多雨林

降雨林トイフ階級ヲ想定シ 乾燥地ナラサル海洋性

環境水分中位ノ範圍ニアル氣候條件ヲ降雨林トイフ字義

ニ表現セントスルモノナリ 強ヒテ *Rubel* 分類ヲト

レハ *Laurialignae* 照葉喬木林中ノ熱帶性ニ最モ近イモ

ト解セラル可シ

# 小笠原事業區群叢別各島別面積

(1)

第11表

島名	Aa	Ab	Ac	Ad	Ae	Af	A計
北				0.15			3,5600
智	3.09	0.32					
嫁					2.67		4,1200
弟	1.20	0.25					21,7424
兄	10.2931	6.7793	2.70		1.95		24,5729
西							



父	2.9549	6.93	4.52	10.168	84.9579
母	76.1495	3.6784	1.11	4.02	2.00
向	2.00				
北疏					
中疏					8.78
合計	16.5831	86.4737	13.3084	5.78	18.808
				8.98	149.7332

(2)

島名	Ba <sup>I</sup>	Ba <sup>II</sup>	Ba <sup>III</sup>	Ba <sup>IV</sup>	Ba <sup>V</sup>	Ba <sup>VI</sup>	Bb	Bc	Bd	Be	Bf	Bg	Bh	Bi	Bk	Bj	B計
北													0.90				0.90
簪	73.79	1.46	0.07							17.68			1.63	7.07			106.70
嫁													2.65	5.35			8.00
弟	8.28	29.22	22.92	11.40	17.66	3.10		1.75	22.47	9.95			4.17				128.92
兄	30.22	33.22			12.24	26.77		4.09		2.20			0.60	0.90			340.24
西			0.20														0.20

父	2100894	42.7342	298.6922	115.40	78.28	31.51		7.04		54.98			5.05				843.5938
母	7.66	16.97	42.9281	115.6193	5.14		3.029	191.8666		16.9436			18.29	0.11	4.96		610.5256
向	4.55	45.27	13.95						2.06				1.382		4.679		282.15
北疏											42.53	16.163	24.96				
中疏																	
合計	334.5874	113.8742	378.7603	242.4673	113.32	291.3800	30.29	204.7466	22.53	214.526	42.53	16.783	24.96	4.88	5.779	46.90	2400.8594

(3)

島名	森林草生	推移地帶	岩生地推移地	遙生地	草生地	岩草地	造林地	岩石地	崩壞地	苗圃	貸地	官舎敷	澤敷	漫用地	道敷	合計
北				7.95				21.93			0.07					30.7800
簪				116.24				18.83								245.4000
嫁	6.92				48.8877		44.71	40.66	154.4086		3.70		2.122			52.3600
弟									1.6233							388.7116
兄	114.6202				13.8994	5.3936	10.81	213.8897	2.7924				3.9027			726.6794



西	文	母	同	北	中	合計
	2271141	371235	240	399305	482497	1529
	112657			95125	420988	2355
				420988	0.37	0.10
				1.91	169.51	0.514
				3.01	58307	98399
					0.18	0.116
					0.819	0.03
					0.55	0.334
					0.11	1372.9003
					457.6800	1180.2236
					130.6810	4633.3359
					8.7800	

# 一 A 海岸植生てりはぼく、はまごう群系

## 一 Aa はまごう群叢

はまごうハ常緑蔓莖灌木ニシテ海岸砂地 時ニ臨海山地ノ第一次侵入者ナリ

本種ハ屢ニ純叢トシ分布ス

常現種ハ一種 ばまごうノミニシテ從屬的ニギやうギシバ、めひしば、之のきあふひ、はまなたまめ、いがかやつり等ノ草本 たこのき、くさとべらノ如キ特有木本ヲ混生シ 或ハおほはまおもと、おほはまぎきやう、すなづる、すなぎさ等ノ砂地生植物混生ス 然レテふんばいひるかは、すなぎさ、すなづる等ハ散生群落ヲナシ 海岸林ノ前方砂地ニアルカ普通ナリ

ニ本群叢ノ分布ハ各島嶼ニ見ラルルモ 國有林内ニテ著



シヤハ賀島 弟島 兄島 向島 中硫黄島等ナリ 各島  
純海岸ニ分布スレト 中硫黄島ニ 限り稍内部ノ砂原ニモ  
生ス

豊島怨情ハ之ヲ轉移荒原植物群叢ト呼ヒタリ  
うハ砂地ニアリテハ匍匐莖ヲ以テ蔓延シ 飛砂ヲ柳止シ  
小砂丘ヲ形成シ漸次他草木ヲ混生スルニ至ル  
岩礫地ニテハ裂間又ハ礫間ニアル少量ノ土壤ニ発生シ  
岩礫地ヲ被覆ス 砂地ニアラサルモ立地乾燥セル所ニハ  
點生若シクハ小群落トシテ生ス

二) Ab  
くさとべら群叢

くさとべらハ三米ニ未タサル矮小灌木ニシテ密ニ叢生シ叢下蔭濕ナルタメ共生程度ニハ他種ヲ混セス時ニ疎生ストニ未タ殆ニ純叢ヲ形成シテ分布ス

くさといへら、他 其間隙ニ點生スル ばまぼつす常現種  
ニシテ他左ノ如キ水草添加ス  
ももたまな、たこのき（以上木本） すなごさ、ばま  
なうたまめ、かたばみ（以上草本）

本群叢ハ各島嶼ニ分布スルモ時ニ母島ニ顯著ナリ  
普通海岸ニ限ラルルモ時ニ内陸空地ニ侵入スルモノ  
アリ 中硫黄島ニテハ砂丘林植物群叢ノ初期優占種ト  
認メラレ 于島原砂地ニ多シ

Ab とさとべら群叢ハ Aa はまごう群叢ト共ニ次ノて  
りはぼく、ももたまな、はすのはざりノ純海岸喬木林ノ  
前衛的位置テ占ム 即チ汀線ヨリ ぐんばいひるがほ、  
すなぐさ、すなづる散生群落↓ Aa はまごう群叢↓  
Ab とさとべら群叢↓純海岸喬木林ノ順序ニ配列ス

三) Ac  
てりはばく、はすのばざり群叢



常緑喬木てりはばくテ主トシ之ニはすのはざり及  
落葉性ノももたまな混スル植生ニシテ又てりはばく純  
叢テナスモノ少カラス平坦ナル砂地ニ成立ス  
本群叢ノ水平的構成ハてりはばく最前線ニアリは  
すのはざり、ももたまなハ其後方ニ多シ層的ニハ上層  
ハ三種共ニ生シ下層ハてりはばく、はすのはざり多  
ヤモももたまなの発生多カラスももたまなハてりは  
ばく、はすのはざリニ比シ好陽荒地性ナルヲ以テ庇蔭  
度高ヤ本林床ニテハ発生不適ナル如シ  
本植生ハ樹高一七一八米ニ達スルモノ多キモ中ニ  
ハ幼小喬木時代ノモノ尠カラス兄島、父、母島ノ諸島  
ニ見ラレ漢家附近ニアルハ大木點生シ樹下ハ裸地ニ  
シテ灌木地表類ヲ止メス總計面積一三九餘ニ過キス  
次ニ詳細各地調査ヲ記述スルニ  
優喬木階ハてりはばく最多ニシテももたまな、はすのは

ザリノ三種カ常現種トナリ殆ント他種ヲ混セス  
從喬木階ニハてりはばく多ク又はすのはざり、もも  
たまな常現種トナルモももたまなハ點生狀ナリ他  
常現度高キモノニハヤマアサ、たこのきの二種ヲ見時  
ニしやりんばい、いちび、やろーどテ見ルコトアリ  
喬木階即チ幼齡林ノ上層ハてりはばく過半ヲ占メ  
之ニももたまな常現種トシテ加ハリはすのはざリハ常  
現度3ナリ他むにん之のきの如キ山地樹種混淆ス  
灌木階ハてりはばくの発生良シク之ト生活力強キ  
たこのき常現種トナリ又はすのはざり所々ニ生スルモ  
ももたまな或ハヤマアサ、しまむとせい、凡ばやぶにつ  
けい、やろーど等ノ樹種ハ全ノ上部林冠ノ疎生部ニ生立  
スルノミ  
地表草類ハ林縁ニ多キとさとべらカ常現種ナルノミニ  
シテ他ニ一種ちぢみざさカ注意セラル



尚ニ、三テ掲クレハてりはばく、はすのはぎりノ喬木種又ハ耐陰強キスなれしは、ていかかづら砂地先行性ノばまごう、すなごさ、つばくさ等ヨリ組成セラルてりばばくハ本島産樹木中有用ナルモノニ屬シ 活着宜シク生長迅速ニシテ以前ヨリ人工植栽用ニ供セラレ海岸林トシテ住居ノ防風 防潮用ニ重視セラレ 亦内陸ニテモ圃場周縁ハ必ス本種ヲ列植シ 数米ノ高ヲ保持セシメ防風林トシテ仕立ラルル

#### 四) Ad はすのはぎり群叢

はすのはぎりハ Ac Ae 等純海岸喬木林中 常ニ附道スルモ亦賀島 父島 母島ニ於テハ純叢トシテ現ハレ顯著ナル海岸林ノ一植生ナリ 然シ面積少ク集計六haニ未タス重ヤ事見重

構成状態ヲ見ルニ 優喬木階ハ他ノ海岸林ト同様ニ單純ニシテ はすのはぎり最モ多ク 副的ニ可ナリノてりはばくト少量ノもまたまな共ニ常現種トシテ生シ從喬木階ハ極メテ疎ニシテ點生スル はすのはぎり常現種トナリ他 てりはばく、やまあさヲ見 稀ニもまたまな、もくたちばな、たこのき、くろてつ、まにんえのき生ス

灌木階モ亦極ク疎生シ はすのはぎり一種常現種トナリ 次ニてりはばくノ稚樹稍々多ク 所ニヨリびろう(母島桐濱)やろーど、たこのきノ如キ耐陰力強キモノ散生ス

地表草類ニハ常現種ナク ちぢみざさ、めひじは、スなれしは、きけまん、てりはばく、八丈しだ、すなごさ、びろー等ノ草本 時ニ見ラルルノミナリ



## 五) Ae ももたまな群叢

本植生ハももたまなヲ主トスル一海岸林ニシテ弟、兄、父、母島ニ分布ス 島周急崖地ノ凹地ニ少面積宛生シ 喬木密林ハ容易ニ遠望ニヨリ 島表面ノ岩石地小喬木山岳林ト判別シ得ラル 箇所数甚タ多ク 面積亦海岸喬木林ノ首位ニアリ

優占種ももたまなハ枝極擴張セルモ密立スルコト少ク 林下射入光線多クタメ 下層ニハ山地小喬木種、蔓莖草、羊齒類カ 他海岸林ニ比シ多ク生ス

植生高ヲ見ルニ半ハ優喬木層ヲモケ半ハ幼齡ニシテ 喬木層ヲ以テ上層トス

優喬木階ハももたまな純林ニ近ク常現種トナリ 他ニハすのばざり稍々多数ト 小数ノてりはばく生ス

次ニ下層從木階中常現度最高ニハたこのきニシテ

てりはばく増シ ももたまなト共ニ常現種トナリ 尚ハすのばざり、しやりんばい、ももたまな、くろてつ、やろーどノ小喬木種混生ス

喬木階ハ一幼齡林ニ主木ももたまな最モ多ク 之ト點生セル もにん之のき、びろー 常現種トナリ又 ももたまな、しやりんばい所々ニ生シ やろーど、くろてつ、てりはばく等ノ発生ヲ見ル

灌木階ハたこのき一般ニ多ク 獨り常現種(常現度5)トナリ 次ハ常現度3以下ノ ももたまな、をがさばらもくまを、ももたまな、てりはばく、しろてつ、しやりんばい、びろー等ノ數種アリ

地表草類階ハ疎生ニシテ 常現種ヲ缺キ常現度3ノモノニ ちぢみざさ、もにんすすき、くさとべらノ三種カ常現度5ニ 八丈しだ、おにやぶそてつ、おほたにわたり、けはした等ノ羊齒類ハおほばていかかづらす



げ、めひしは、すすめのながびえ、はまごう、おほはま  
おもとヲ生ス

前記ノ如ク本種ハ比較的陽性ニシテ地床ニむにんす、  
キテ從ヘル 尚幼年灌木狀ト植生ヲ認メラル

# 六) Af てりはぼく、ちぎ群叢

本群叢ハ中硫黄島ノ保護林ヲ形成セル大喬木植生ニシ  
テ面積ハヘクタール余海岸ヨリ稍々距タリタル軟質凝  
灰岩ノ平坦地ニ生ス

てりはぼく大部ト少數ノちぎカ優喬木階ヲナシ細密  
ニ見レハ兩種ノ優勢地ヲ分割シ得ラル 中層木ハちぎ  
多ク之ニてりはぼく、うらじろ之のき、しろてつ加ハ  
リ

灌木階ニテてりはぼく多生シたこのき、やへやま

あをき混生ス

地表ニハおほたにわたり、あにんたましだ、八丈した  
等ノ羊齒類多ケレトモ てりはぼく密立スル處ハ おほ  
たにわたり、たこのき疎生ス 林下庇蔭強ヤ砂地ニシテ  
到處一種ノ 横行スルヲ認メタリ  
尚本島ニ於テ耕地ヨリ除外セラレシ岩石地帯ニハちぎ  
小喬木林多ク現ハル

# 七) Ag かいがんいちび群叢

かいがんいちび(やまあさ)ハ諸島嶼ノ Ae ももたま  
な群叢 Ad はすのはぎり群叢 Ac てりはぼく、はす  
のはぎり群叢ノ 諸群叢喬、灌木階構成種トシ発生スル  
モ 北硫黄島海岸ニハはまごう、とさところ等純砂浜性  
植物カ汀線ヨリ三―五米ノ間ニ带状ヲナシ成立シ其ノ



内側ニ匍匐性かいがんいちびニ一三米ノ高サノ密叢ヲ  
ナシテ（僅カたこのき、せんだんヲ混シ）特異ノ一群叢ヲ  
形成ス 面積計上セス

## 二 B

山地植生 びろろ、たこのき、もくたちばな  
しやりんばい群系

### 一

Ba びろろ、たこのき、くろてつ、しやり  
んばい群叢

本群叢ハ母島石門原生林群叢及其周圍植生ヲ形成セル  
もくたちばな植生（各種アリ）及びびろろ、たこのき兩  
純叢等ヲ除クニ 次林並岩石地 乾燥性植生ニ該當スル

五ト八米一般小喬木林ナリ

たこのき、びろろ、くろてつ、しましやりんばい、や  
ろーど、ひめつばさ、こぶかし等ヲ主ナル構成種トシ  
又本島唯一ノ針葉樹 しまむろヲ混ス  
本島森林ノ大部ヲ包括シ 概シテ土壤浅ク岩石 風衝  
地ヲ占メ乾燥ニ傾クモ 尚各地ニ亘リ見ルトキハ 其ノ  
中種々ノ環境差ニ基キ 又植生位相差 Stage = 因リ  
各種ノ群叢異態ヲ認メ得

今茲ニ六ニ區分シ

<sup>I</sup>Ba 基準組成區  
<sup>II</sup>Ba たこのき優勢區  
<sup>IV</sup>Ba ひめつばさ優勢區

<sup>III</sup>Ba びろろ優勢區  
<sup>II</sup>Ba しやりんばい優勢區  
<sup>IV</sup>Ba あかてつ、いすのき優勢區

トスル

本群叢ニハ他群叢中欠如シ 或ハ小數ナル下記ノ種群  
アリテ特色強調セラルヲ識ルひめつばさ、針葉小喬木



いすのき、しやりんばい、ひめつばき等ノ特有小喬木  
種ト呼フ可キモノナリ

$Ba$  群叢ニ屬スル  $Ba$  —  $Ba$  ノ六區ヲ常現度3以上ノ  
種類ニツキ比較スルニ

$Ba$

基準組成區ハしやりんばい、くろてつ優勢カニシ  
テたこのき稍々少シ

$Ba$

びろー優勢區ハやろーど、びろー多クたこのき  
少シ

$Ba$

たこのき優勢區ト

$Ba$

しやりんばい優勢區ハ甚々ヨク類似シ 僅カニ  
たこのきの優勢度ヲ以テ區別セラル

即チ  $Ba$

ハたこのき著シク多シ 而シテ共ニびろーノ混

淆率少シ

結果ヨリ推セハ 寧ロ兩區ヲ合スル方可ナル

ベシ

$Ba$

ひめつばき優勢區ハ  $Ba$  區ニ似ルモひめつば

き激増シ見分ケラル 亦のやし多キカ注目セラレ たこ

のき、やろーど稍々減セリ

$Ba$

あかてつ、いすのき優勢區ハ  $Ba$  = 近似スルモ

標記種群多ク 且ツ本區ノ典型的組成ハ 灌木層ニ於テ

顯著ナリ

$Ba$

$Ba$

兩區ハ上層部比較的疎生ス

一般ニ各區ヲ通シ

灌木階ハ甚々疎生シ ねずみもち

ハ本灌木階ニ限定セラルル特徴種ナリ 又丸ばやぶにく

けいハ從屬種トシテ存ス



イ Ba<sup>T</sup> 基準組成區

此區ハくろてつ、しやりんばい、ねずみもち、ひめつばき、こぶがし等ノ混淆小喬木林ニシテ びろー、たこのき散生ス 環境比較的適潤地ヲ占メ Ba 群叢中最良林ニ屬ス

賀島ノ平坦部ノ大部 文島中央高地ニ多ク他 弟、兄、母、向島ノ諸島ニ少許分布ス 本区ハ普通小喬木林ヲナシ ヨク鬱閉シ密林ナルモ時ニ灌木狀ヲナス

喬木階即ケ上層部ニハしやりんばい最モ多ク くろてつ (以上常現度 5) ひめつばき、やろーどとたこのき びろー (以上常現度 4) ノ六種常現種ヲ數ヘ之ニ次ク常現度 3 ノモノニハ はつばき、もくとちばな、いちび、丸ばやぶトくけい、こぶがしノ五種アリ 灌木階ハしやりんばいカ喬木階ニ引續キ常現種トシ

Ba<sup>T</sup> バラ〜たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢  
各區主要種ノ比較

第12表

	基準組成區		ビロー優勢區		タコキ優勢區		シリバ優勢區		ヒメツバキ優勢區		ササバ優勢區	
	Ba <sup>T</sup>	喬	Ba <sup>T</sup>	木	Ba <sup>T</sup>	木	Ba <sup>T</sup>	木	Ba <sup>T</sup>	喬	Ba <sup>T</sup>	木
シリンバイ	O <sub>f</sub>	tr	tr	O <sub>R</sub>	tr	O <sub>f</sub>	O <sub>N</sub>	tr	O <sub>f</sub>	O <sub>f</sub>	O <sub>R</sub>	tr
クロテツ	O <sub>v</sub>		+	O <sub>R</sub>	+	O <sub>v</sub>	O <sub>v</sub>		O <sub>v</sub>	O <sub>v</sub>		O <sub>R</sub>
ビロウ	+		O <sub>R</sub>	O <sub>a</sub>	+	+	O <sub>f</sub>		+	+		
ヤロード	+		O <sub>v</sub>	O <sub>v</sub>	+	+	O <sub>N</sub>		+	+		
タコノキ	+			O <sub>R</sub>		O <sub>f</sub>	O <sub>a</sub>		O <sub>v</sub>	0	+	
ヒメツバキ	tr		+	O <sub>R</sub>					O <sub>f</sub>		O <sub>v</sub>	O <sub>v</sub>
イタビ				O <sub>v</sub>		O <sub>v</sub>				+		
ネズミモク				O <sub>v</sub>		O <sub>v</sub>						



[illegible]

常現度 5=0, 4=+, 3=, 1 符號ヲ用エ

組成ニ他ニ  
ねずみもち、丸ばやぶにくけい、びろー、  
たこのき、もくたちばなノ五種重要種トシテ存ス

即ケ喬灌木ヲ通シ原生林ニ多キ  
もくたちばなカ從  
屬種トシ生ス  
ねずみもちハ乾、濕兩地ニ耐ヘ特徴灌木  
ト見ラル

地表草類階ハ地面ヲ被ヘル　むにんていかかづら一種  
常規種ニシテ之ニ左ノ四種ヲ重要種ニ加フヘシ  
すげ類、たましだ、之だうちちぢみざさ、しらたま  
かづら

□  
 $Ba^{\pi}$   
びろー優  
勢方品

おがさばらびろーハ幼時最モ庇蔭ニ耐ヘ生長スルニ  
及ヒ乾燥地 適潤地ニ生シ 風衝地ニモ生育ス  
適潤地 肥沃地ナル場合ニハヤろーどもをたぢはな



多クナリ 風衝地ニハしやりんばい、丸ばいすのき、くろてつ増加スル傾向アリ

向島ニハ周邊ヲ残シ全部 本植生ニシテ 父島ニハ周邊及中央高地ニ見ラレ 弟島ニテハ中央部ニ甚タ多ク 兄島ニモ周邊ニ多少分布ス

普通小喬木林ナルモ一部ハ灌木狀ナリ

喬木階ハびろー、やろーど (常現度5) しやりんばい、ひめつばき、もくたちばな、くろてつ (常現度4) カ常現種ニシテ 他ニハはつばき、たこのき、丸ばやぶにくげい、こぶがし、之のき、いちび、しろてつノ七種アリ  $Ba$  = 比シ著シクもくたちばな、やろーどカ増加シ立地可ナリ多濕トナルヲ證ス

灌木階ニハしやりんばい、びろー、やろーど常現種ニナリ つるあだん、もくたちばな、くろてつ、丸ばやぶにくげいハ數種多ク生シ 亦喬木階ニ準シ  $Ba$  ヨリハ一

層土壤深ク適潤地生ノモノ増加ス

灌木狀ヲナス低植生ノ上層ハびろー、くろてつ、たこのき、しやりんばい、いちび、やろーど、あかてつ、丸ばやぶにくげい、ハ種常現種トナリ 幾分乾燥性ナリ

地表草類階ハ疎生ニシテえだうちぢみざさ一種常現種ニシテ之ニ たましだ、しらたまかづら、むにんていかかづらカ加ハルコト  $Ba$  區地表ト同様ナリ 本區ハ  $Ba$  基準組成區ニ比シ びろー、やろーど、ひめつばき多キヲ認ム

ハ  $Ba$  たこのき優勢區

たこのきハ草生地 海岸地 荒地ニ早期植物トナリ一般小喬木ノ林衣帶トシ純叢ヲナスモ前述ノ如ク林内庇蔭地ニモ生シ 又乾燥立地ニ於テ本種カ優勢ナル小喬木混



消林ヲ形成ス

父島ニハ中央部及最縁區部ヲ除キ本区ノ分布ヲ見 Ba 群叢中最モ廣シ

弟島ニハ中央部、他母、向、西島ノ諸島ニ分布ス

合計面積 Ba ヨリモ多ク Ba 群叢中ノ首位ニアリ

植生構成状態ハ喬木階ニたこのき、しやりんばい、くろてつ、びろー（以上常現度5）やろーど（常現度4）ノ五常現種アリ 常現度3ノモノニハ左ノ七種ヲ見ル

ひめつばき、丸ばやぶにくけい、はつばき、之のき、うらじろい<sup>い</sup>のき、もくとたちばな、いちび、しろてつ灌木狀林ノ上層木ハたこのき、しやりんばい、やろーど、くろてつ等ハ喬木階ニ引續キいちび、もくとたちはなト共ニ常現種トナル

灌木階ニテハしやりんばい一種常現種ニシテ次ニも

とたちばな、びろー、しろてつ多ク生ス

地表草類階ハ之だうちぢみざき、ていかかづら

兩種常現種ニシテ他むにんすゝき、たましだ、すげ等ヲ見ル

基準組成區ニ比シ喬木中たこのき、しろてつ、うら

じろ之のきヲ増シひめつばきハ却テ減ス灌木階ニハいちびカ増ス地表草類階亦 Ba<sup>1</sup> Ba<sup>2</sup>區ニ類ス

ニ Ba<sup>1</sup> しやりんばい優勢區

風衝地 礫角地ニヨク生ス 其分布ハ弟島ノ高地 兄

島ニ見ス 父島ニテハ二見港ノ東部及中央部ニ可ナリ

廣ク分布シ 母島ニテハ中央ヨリ外レタル島縁植生トシテ最も重要ナルモノナリ

喬木階ニハしやりんばい及くろてつ、たこのき（常現



度5) いちび (常現度4)ノ五種カ常現種トナリ 常  
現度3ノモノニハ左ノ四種アリ

ひめつばき、丸ばやぶにくけい、びろー、せんだん  
Ba Ba Ba 各區ヨリモびろー、もくたちばなノ発生

少クせんだんノ如キ特殊樹種及いちび著シク増加ス

他區ニ比シ樹高低キ灌木相ヲナスモノ多ク 調査箇所

數ハ喬木相ニ五ヶ所ニ對シ 灌木相ハ一四ヶ所ノ多キニ

達ス 一四箇ノ灌木相中ノ木本常現種ハ しやりんばい

、たこのき、くろてつ、しろてつ(以上常現度5)も

くたちばな、やろーど、いちび、ねずみもち、びろー(

以上常現度4)ノ九種アリ 中ねずみもちハ 灌木性ニ

シテ しろてつ、もくたちばな、びろーノ増加注意セラ

ル

灌木階ノ構成ハしやりんばい、ねずみもち兩種常現  
種ニシテ他 みるばやぶにくけいもくたちばな稍多

シ

地表草類階ハ ていかかづら一種常現種ニシテ之ニ次

キ左ノ二種多シ

えだうちちぢみざさ、すげ類

ホ Ba ひめつばき優勢カ區

土壤條件就中 土層深キ處ニ現ハル 時ニ純叢ヲナス

母島桑木山ニハ老喬木林ヲ見ルモ特例ニシテ 他ハ何

レモ小喬木林ナリ 且植生連續上二次林ナルコト明カナ

リ

本區ハ重要植生ノ一ニシテ 分布島嶼ハ兄、弟島ノ中

央部ニ少シク 父島ニテハ中央部及縁邊ニアリテ稍多

ク 母島ニハ桑木山ニ少許現ハル

構成狀態ハ母島喬大木林カ 優喬木ひめつばき 從喬



木階もくたちばなヨリナル 一般小喬木狀林ニテハひめ  
つばき断然多ク他ニ僅カノしやりんばい、びろー常現種ニ  
シテ 常現度3ノモノニテこのき、こぶがし、くろて  
つ、やろーど、いちびノ五種ヲ見ル

灌木階ハしやりんばい一種常現種ニシテ 他ねずみも  
ち、丸ばやぶにとけい、おゝばしまむらさき、もくたち  
ばな等アリ

地表草類階ニハ常現種ナク たましだ、すげ類、しら  
たまかづらノ三種 常現度3ナルヲ主草トス

林下乾燥シ他區ニ多キ ちぢみざさ、ていかかづら  
減少ス 然レトモ <sup>II</sup>Ba たこのき優勢區ニ多キ むにんす  
くき少キハ本種カ海岸ニ多キ性質アルモノナレハ <sup>II</sup>Ba、  
<sup>IV</sup>Ba 區ノ分布位置ニヨルナルヘシ

へ <sup>II</sup>Ba あかてつ、いすのき優勢區

極メテ風衝劇甚ナル乾燥環境ニ分布ス 然モ土壤浅キ  
緩斜平坦地ニ多ク見ラル 樹高低ク 灌木叢ヲナスモノ  
ト 小喬木林ナルモノト相半ス

兄島ニハ中央部ヲ主トシ大約セ。%ヲ占ム 他僅カ  
父、弟島ニモ現ハルルモ 母島列島ニハ見ス

小喬木林狀ナルモノノ上層ハいすのき、ひめつばき  
（以上常現度5） あかてつ、くろてつ、びろー、のや  
し、いちび、ばちやうじ（以上常現度4）ノ多種常現種  
アリ

其灌木階ニハあかてつ一種常現種ニシテ 他しやりん  
ばい、いすのき、たこのき、ねずみもち、ひめつばき  
等多シ 灌木叢狀ヲナス木本部ハ あかてつ純叢ニ近  
クいすのき、くろてつ、しやりんばい、ひめつばき（以  
上常現度5）及たこのき常現度ナリ



即チ本區ノ典型的ナルハ風衝地ノ 灌木叢ニ於テ認め  
ラレ 小喬木林トナル及ヒびろー、のやしヲ増シ たこ  
のき等クナレリ

地表草類階ハくろがや一種常現種ニシテ 次ニへらあ  
んぺらみ稍々多ク共ニ甚タシク密生スル場合アルモ亦  
著シク疎生スル所モ甚カラス

## 二) Bb もくたちばな、うどのき群叢

山岳林中ノ最適潤環境ニ生スル植生ナルモ現時分布區  
域ハ 母島石門山國有林ヲナス三〇ヘクタールニ過キス  
且ツ過去ノ濫採ヲ承ケ形態構造完全ト認め難シ  
詳細ハ林分調査及前段原生林ノ項ニ記述セシ處ナルモ  
踏査ニヨリ各階構造ヲ統計スルニ

優喬木階ニハうどのき、ちぎ、もくたちばな、せんだ  
んノ四常現種アリ

從喬木階ニハもくたちばな、うどのきヨリモ多クナ  
リばちやうじ（以上常現度五）及ちぎ、せんだん  
（以上常現度四）等五種常現種存ス

灌木階ハもくたちばな甚タ多数ニシテ之ニいぬぐす

（以上常現度五）うどのき、しまぎよくしんく  
わ（常現種四）ノ四種常現種ニシテ他 くろてつ  
、しろてつ、お、やまいちぢく等多數生ス

以上概觀スルニうどのき、もくたちばなカニ主要種ト  
見ラル

地表草類階ハ大形羊歯 おゝたにあたり、匍匐性ノ

ていかかづら（以上常現度五）いしかぐま、ふ  
とーかづら、もくたちばな、ちぢみざさ、ちとぜ  
つらん（以上常現度四）等比較的多次生ス



構成種中、むにん之のき、くろてつ、うどのき、しまはるとのき（ちぎ）等ニハ板根ノ発達著シ、うどのきハ大木多ク胸高直径一米ヲ超ス。過去ニ代採セラレシハ根株ハ根部直径四米ノ大ヲ有スルモノアリ。

三) Bc もくたちばな群叢

母島ニハ本群叢カ最モ廣ク分布シ。中央部約三〇%ニ及フ。石門山原生林ヲ中心トシ、土壤深キ適潤環境ニ生ス。母島ノ外文島ノ中央部及兄、弟島ノ諸島ニモ極メテ僅ニ指摘セラル。もくたちばなノ純叢ニ近ク小喬林或ハ灌木叢ヲナスモノニシテ上、下層共本種ノ発生數著シ。下層ニハ後述スル如ク稚樹簇生シ、相當リ一〇〇萬本ニ達スル所アリ。

本群叢ハ位置環境、組成狀態ヨリ見ルモ位相上 Bb もくたちばな、うどのき群叢（喬大木林）ノ次位ニ來ルモノト認メラル。

喬木階ハもくたちばな過半ヲ占メ、之ニ次キ常現度ろノ之のき、いちび、くろてつ、おほばしまむらさき、しやりんばい、ちぎ、しろてつ、うどのき等存ス。灌木叢中ノ大本モ同様ニもくたちばな純叢ニ近ク、更ニしろてつ常現度高キハ注意セラル。他常現種ニいぬぐす、しまむらさき、しやりんばい、ときはいぬびハノ四種ヲ見ル。

灌木階即チ喬木林ノ下層木ハ、もくたちばな各所ニ見ラレ、もくまを、つるあだん、しろてつ、やつで、しまぎよくしんくわ等生ス。

地表草類階ニハおゝたにわたり、ちぢみざさニ種常現種ニ現ハレ、他にいていかかつあ、八丈しだ、たましだ、け



ほしだ、いしかふま、きのぼりしだ等比較的庇蔭下ニ生  
スル羊齒類多シ

四) Bd もくたちばな、やろーど群叢

本群叢モ亦濕潤地ニ生スルモノニシテ もくたちばな  
やろーどヲ主要種トシ數種ヲ隨伴ス

林木ノ高サハセー八米ヲ有スル喬木林ト灌木叢トアリ  
弟島ノ南、北兩端ニ多ク一部向島ニ分布ス

喬木階ニハ もくたちばな最モ多ク之ニ疎生セルたこ  
のき(以上常現度5) やろーど、くろてつ、おゝばしま  
むらさき、うらじろいのき、しやりんばい、丸ばやぶに  
とけい等カ主要組成種トナル

灌木叢ヲナス上層部ハ もくたちばな甚タ多ク之ニやろ

ーど、しやりんばい、たこのき、之のき、びろー(以上  
常現度5)及もたまな等カ常現種ナリ 内もくたちば  
な、やろーどノ増加ト ももたまなノ存在カ注目セラル  
灌木(喬木林下)階ニハときばいぬびは常現度5ニシ  
テ 更ニ次ノ五常現種ヲ主ナルモノトス  
もくたちばな、しやりんばい、丸ばやぶにとけい、  
たこのき、やろーど

地表草類階ハちぢみざさ一種常現種ニシテ一般ニ疎生  
ス

五) Be もくたちばな、しやりんばい群叢

本群叢ハ一般小喬木混淆林 Baト Bc もくたちばな群  
叢トノ中間性植生ナリ



母島ニ多クニ。〇%ヲ占メ Bc 群叢ノ外周ニ連ル他 父  
兄、弟、賀島ノ諸島ノ最モ濕潤地ニ産ス 喬木林ヨリ  
モ却テ灌木叢ヲナス丈低キモノ多シ

喬木階ニハしやりんばいカ多ク 之ニモくたちばな、  
くろてつ（以上常現度5）及たこのき、やろーど（以上  
常現度4）ノ五種常現種ナリ

木本階ニ於ケルハもくたちばな略々しやりんばいと等  
量ニシテ 之ニ加へくろてつ、たこのき、しろてつ、やろ  
ーど（以上常現度5）びろー、之のき、あかてつ、ねず  
みもち、しまぎよくしんくわ（以上常現度4）等ヨリナル

灌木階ハもくたちばな、しまぎよくしんくわニ種常現  
シ しやりんばい、ねずみもち、びろー、くろてつ、た  
このき等多ク混ス

地表草類階ニハ常現種四種

ーとしていかかづら、ちぢみぎさ、おゝたにわたり、へ丈した等アリ

ハ式ノ變態ヲ具セザル

六) Bf ちぢ、しろてつ群叢

しろてつハ一般小喬木混有林ノ組成種トシ 父、母島

列島ノ各島嶼中ニ見ラルルモ ちぢハ父島列島ニテハ點  
生シ主ニ 母島以南ニ多シ（Bc もくたちばな群叢中ニ

硫黄列島ニ於ケル概況ハ 中硫黄島ハ土地平坦農耕地

化シ 其残存小林相カ ちぢ林ニシテ南、北硫黄島ニテ  
ハちぢテ主トシ しろてつテ從屬トスル植生ナリ

從喬木階ハしろてつ甚タ多數ヲ占メ ちぢ、うらじろ  
之のキヲ混ス

灌木階ハ上層ノ庇蔭強キタメ著シク疎ニシテ僅カニ  
ひさかき、がくばな等見ラル

地表草類階ハおゝたにわたり、たましだ兩種ノ繁茂著

シ



北硫黄島ニ最モ廣ク分布スルハ五米前後ノ幼林ニシテ  
Bf ちぎ、しろてつ幼群叢トイフヘシ

構成状態ハ喬木階ハちぎ、しろてつノ他まるはちヲ加  
ヘ陽地ニ疎林ヲナス

灌木階ニハちちしまやつで、もくまを、ひさかき、と  
きはぬびは、しろてつ等ヲ生ス

地表草類階ハたました、ほらしのぶ、すげ、ちぢみぎ  
さ、八丈すゝき、きんもうゐるので疎生ス

本群叢ハ硫黄列島 山岳林ノ極盛相ニ相當スルモノト  
認メラル 然シテ組成種ニ母島原生林ノうどのき、もく

たちばな全ク分布セサルハ植生分類上 種々考察スヘキ  
點ナルモ 現實植生ハ原形ヲ止ムルコト少ク 之ヲ適確

ニ把握シ以テ歸級ヲ明ニスルコト困難ナリ  
又硫黄列島ニハ賀島、父島、母島三列島ニテ重要種ナ

ル左ノ數種ヲ見出サスちみやぎ、おんたにわたりの八丈した等

びろー、あかてつ、しやりんばい、ひめつばき、い  
すのき、のやし、やろーど

セ) Bg

やつで、ひさかき、いわうとうきいちご  
群叢

本群叢ハ一米内外ノ灌木叢ヲナス植生ニシテ 北硫黄  
島ノ最高部(海拔八〇〇米) 桧峯ノ緩斜地帯 俗稱三萬  
坪ニ現出ス 面積ニ〇haアリ (南硫黄島ニモ見ル)

やつで多ク いわうとうきいちご、ひさかき 亦主要組  
成種ナリ 他まるはち、がくばな、をがさはらもくまを  
等混生ス

地表部草本ノ繁茂ハ可ナリ著シク たました、きんも  
うゐので、みづすぎヲ主ナルモノトス 既述ノ如ク 小

連



笠原諸島ニハ他ニ灌木叢狀ヲナス植生尠カラサルモ南、北硫黄島所生ノ灌木叢ハ正シクハむにんやつで、むにんひさかき、いわうとうきいちごト稱シ此構成要素ハ他島嶼ニハ欠如スルカ或ハ珍稀局部生ノモノナレハ（母島乳房山風衝地若干現ハル）此形相ト共ニ重視スヘキモノト思料セララル

ハ Bh ビロー純叢

智島、嫁島、兄島ニ分布スルモ面積五haニ未タス海岸近キ草生地ノ比較的濕潤部ニ出立シ四一六米ノ單幹ニ廣キ掌狀葉ヲ着ケタメニ林内暗濕トナリ殆ント無毛上狀ニシテ僅カ之のきあふひ、ばかとりぐさ、おくとにわたり、きけまん等カ乾燥部乃至林縁ニ稀生ス

通常灌木層 喬木層ニたこのき混入シ又外圍ニ周縁帶ヲナス

而シテ本群叢中次第ニ他ノ喬木種やろーど、もくとちばな、しやりんばい、いちび等普通木本移來侵入ニヨリBd もくとちばな、やろーど群叢ニ遷ルモノト思推セラル

九 Bi たこのき純叢

本純叢ハ向島 智島 嫁島ニテハ本島海岸縁リニ分布シ環狀ヲ形成ス北ハ智島列島ヨリ最南硫黄列島ニ至ル各島嶼ニ汎布ス

本種ハ草生地 岩石地等ノ乾燥地ニテ一般小喬木林ニ先行スル性アルタメ内陸ニモ生ス始メ海岸草生地中



丈低キ半球形ノ團狀密叢ヲナシ次第ニ帶狀ニ擴張シ丈高クナリテハ一般小喬木林ノ林縁帶ヲ形成ス 共ニ極メテ特殊ノ景觀ヲ呈ス

構成狀態ヲ詳査スルニ

喬木階ハたこのき大部ニくろてつ、びろーノ少量ヲ常現種ニモケ他 しやりんばい、しろてつ、之のき、ももたまなノ數種混入ス ソノ下層灌木ヲナスハ しやりんばい（常現種）くろてつ、くろてつたこのき、やろーど等ニシテ 林内ハ著シク濕氣ニ富ム

未タ灌木叢時代ノモノニアリテハたこのきノ他 極メマテ少量ノしやりんばい、くろてつ、しろてつ、あをがんびヲ含ム

地表ニハちぢみざさ、すすきノ少量ヲ認ムルニ過キス  
モテ 濕氣ニ富ム裸地トナルモノ多シ

# 十) Bj つるあだん純叢

本種ハ父島中央山等ノ小喬木林 密林部ニハ點々之ヲ認メラルモ 群生部ハ母島ニ限ラル 舟木山上部ニ蔓延シ密叢トナル 其面積一五ha 東方「大崩レ」ノ嶮岸トナル常緑ノ蔓性木本ニシテ分歧多ク 延長數米ヨリ數十米ニ達ス 濕潤ナル環境ヲ好ミ 喬木幹ニ纏繞シ 其附着部位ヨリ 樹幹ヲ腐朽セシメ且ツ上層ニ登リ密葉ヲ以テ陽光ヲ遮蔽シ 逐ニ樹体ヲ枯死轉倒セシム  
斯クシテ全山一本モ止メサル つるあだん純叢ヲ形成ス 但シ木性羊齒 やつで等ハ抵抗力強ク つるあだん純叢中 小群落トシテ残存セルヲ散見ス  
本群叢ノ内部ハ蔭濕ニシテ 他種侵入シ得ス 寧ろ分布區域擴張ノ傾向アリ 只林縁或ハ疎生部ニ もくとちばな、ときはいぬびは木本散生シ 地上ニハたました



、ゆのみねしだ等ヲ見ルノミ 林業上著シキ障害物ナル  
 モ 性強軟ニシテ之ヲ撲滅スルハ容易ナラス  
 往時本島ニ渡リシモノ之ヲ熱帯産藤ト誤認シタルモ  
 小笠原ニハ絶ヘテ藤類ノ発生ナシ

二) Bk へご、まるはち群叢

へご、まるはちハ父、母島及其屬島ニ多少見ラレ 北  
 硫黄島 南硫黄島ニ顯著ナリ 通常小喬木林ニ點生スル  
 モ 母島ノ一部及北硫黄島ニテハ一群叢ヲ形成ス  
 父、母島ニアルハ澤沿ノ荒地ヲ占メ へご多ク まる  
 はち之ニ混生スル 初期植生ニシテ 北硫黄島産ハまるは  
 ち純叢ナリ

母島桑木山ニ於テヤコノハノ平方米ノ標準地ヲトリ調査シ

タルニへごハ胸高直径一〇一二〇種 樹高二四米(第  
 一號地ハ小ナリ)ニシテ 樹幹ニししらん着生シ 地表  
 ニハけほしだ多ク いしかぶま、おぼたにわたり、たま  
 しだ等生ス

第13表

調査地	ヘゴ	アルハチ	グダシキ	ヒツバキ	イチビ	シロチツ	ヒハキビ	計
第一號地	25	2	4	1	7	1	7	47
第二號地	17	2	3	3		3		28

※ トキハノミハハハ 叢生セル各一本一本ヲ計算シタルナリ

北硫黄島ニ於テ本群叢ハ主要植生ノ一ニ屬シ 可ナリ  
 しろてつテ含ミ 他いわうとうふよう、むにんえのきテ  
 混生スル程度ノ まるはち純林ヲナス へごハ甚タ少シ  
 まるはちハ樹高五―六米ニ達シ可成り密林ヲナシ 上



部ハ三萬坪ノ灌木植生ニ 下部 中腹或稍々下部迄續キ  
 四六ねアリ 下層ニもくまを、ときはいぬびはやつで、  
 ひさかき等生ス

地表草類階ニハきんもうおので、たましだ、おゝたに  
 わたり等ノ羊齒類及すげ類ヲ見ル

タノ島系ノ山國高直全一。平二。野木樹地ニ一四米ノ深

## 第四章 群叢ノ構成

### 第一節 踏査ニヨル調査

#### 一 群叢ノ植物區系

#### 一) 優喬木階

各群叢中樹高優喬木階ニ達スルハ海岸林 山岳林ト  
 毛極メテ少數ナリ 本階ニ現ハル種數ハ少數ニシテ一  
 科ニテ 數種ヲ含ムモノヲ見ス

#### 二) 從喬木或ハ喬木階



海岸林ハ組成單純ニシテ 一科三種以上ノモノナク  
とすのき、あふひ科等稍々優勢カト見ラルルノミ 即チ

他ノ純叢 灌木植生ニテハへご、あふひ科等稍々顯著

ナリ 而シテ山岳林主植生ノ第二位ニハ へんろうだ、  
あふひ、あかね科等來ル

又種数ヲ見ルニ第一位とすのき科 五―三種 第二  
位カ 四―三種ノ如ク 日本内地山岳林ノ二。數種以上  
ニ上ルニ比シ甚タシク少數ナリ

### 三) 灌木階

海岸林モ尚組成單純ナルタメ 格別顯著ナル科ヲ見ス  
喬木階ト同様僅カ、とすのき科 あふひ科多キヲ認ム  
山岳林モ亦喬木階ト同様ニ とすのき科最モ多ク 次

ニ來ルニあかね科ニシテ科ナリ

第一位ハ六―三種 第二位 五―三種 ニシテ少數  
ナルコト喬木階ニ同様ナリ

而シテ純叢部ハ組成單純ニシテ顯著ナルヲ見出し得ス

### 四) 地表草類階

以上一―三ノ木本諸階カ甚タシク單純ナルニ比シ  
地表草類階ノ第一位ハ二。種以上 第二位 一。―七種  
等 日本内地山岳林ニ比シ敢テ遜色ヲ見ス

海岸林乃至山岳林純叢ニ於テモ 顯著ナル科ヲ認め得  
木本諸階ニ比シ多彩ナリ

第一位ノ科別ニヨリ類別スルニ

一、うらばし科 第一位



Af Ba<sup>T</sup> Ba<sup>II</sup> Bb Bc Bd Be Bf Bg  
 Bj Bk

2. 禾本科 第一位

Aa Ab Ac Ad Ae

3. 莎草科 第一位

Bi

是ニ依テ見ルニ山岳林ノ大部ハ、うらばし科第一位  
 ニシテ海岸林ノ大部ハ禾本科第一位ナリ 内除外例  
 トナル海岸林ノ Af テリはばと、ちぎ群叢ハ既記ノ如  
 ク中硫黄島ノ中央部ニ位置シ景觀、構造トモニ山岳林ニ  
 近似セルモノニ係リ 他ノ除外例ハ Bk | Bi 等純叢部  
 ニシテ之等ハ海岸草生地帯ヨリ森林ニ推移シツツアル

特殊ノモノナリ

第二位ヲ見ルニ海岸林諸群叢ニテハ、うらばし科來リ

山岳林ハ Ba 群叢及 Be Bf Bg Bi Bk 群叢等ニテ

禾本科 莎草科ナルヲ認メ Bb Bc Bd 等ノ諸群叢ニ

テハ、とすのき、あかね科等ナルヲ知ル 即チ前者ノ

環境ハ岩石 乾燥地等ナルカ 又伐採其他ニヨル自然的

ニ又人為的ニ影響ヲ受ケタルニ次林ノ状態ニ該當スル

モノニシテ 後者ハ原生林及ヒ其近似植生ナリ

即チ地表草類全般ヲ通シ 位相低次ナル場合ハ禾本草

科優勢ニシテ 位相高次トナルモノハうらばし科優勢ト

ナリ 之ニ次チ禾本科植物ノ組成%大トナル

海岸林ハ禾本科第一位ニ、うらばし科カ第二位ニシテ

地表草類ノ繁生ニハ不適立地ナリトイフヘシ



二 平均種數

優喬木階ニ達スル群叢ハ原生林 海岸林ノ二、三ニ限  
 ラレ 其ノ種數ハ一一種ノ範圍ニシテ  
 從喬木階ハ五一一三種ノ間ニアリ 本島現實植生  
 ハ最上層カ喬木階トナルモノ最モ廣ク 其ノ平均種數ハ  
 四乃至一一種強ニシテ稍尠シト見ラル  
 灌木階モ略々同様ニ五一一種ニ過キスシテ甚タ少キ  
 方ナリ

地表草類階ハ四一一三種ノ間ニアリ 平均一種ニ充タス  
 普通内地山岳林ニ比シ各階共種數少シ 而シテ灌木階ハ  
 通例喬木階（内地從喬木階）ニ比シ四〇%—五〇%以  
 上増加スルニ 本島ニ於テハ殆ント増加ヲ認メス

三 密度

各階ノ密度ハ唯二、三ノヶ所ヲ調査セシノミニシテ  
 其ノ平均狀態ヲ摘発スルニ左ノ如シ

第14表

群叢	優喬木階	從喬木階	灌木階	地表草類階
Ac	2.9	2.3	2.5	1.0
Ba <sup>I</sup>		3.9	1.9	2.8
Ba <sup>II</sup>		3.8	2.2	2.8
Ba <sup>III</sup>		3.7	1.8	3.2
Ba <sup>IV</sup>		3.5	2.0	0.5
Ba <sup>V</sup>	3.0	4.0	1.0	0.1
"		4.7	1.3	2.2
Bb	3.5	4.0	1.5	1.0



Bc	4.0	1.5	2.0
Be	4.2	2.0	1.3
Ba	5.0	0.1	0.1

海岸林 Ac たりはばく、はすのはざり群叢ハ疎林ニシテ各階ノ密度ハ上層程大ナリ 諸島内分布最モ廣キ小喬木 Ba — Ba<sup>π</sup> びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢ハ比較的疎ナルモノト 著シク密ナルモノトカアリ 前者ハ尚位相低次ノモノニシテ Ba<sup>T</sup> Ba<sup>π</sup> Ba<sup>ノ</sup>一部之ニ當リ ソノ地表草類階ハ可ナリ密度大ナリ 石門桑木山原生林 (Bb 群叢) ハ上層密度大ナルモ一層從喬木階密トナリ 再ヒ灌木階 地表草類階ト下ルニ從ヒ疎生ス

Bc Be 群叢等 もくたちばなヲ主トスル 二次林ハ上層甚タ密ニシテ灌木 地表草類階モ亦相當密度ヲ保ツ

Bi たこのき純林ハ上層完全ニ遮蔽セラレ 下層部ハ甚タ微弱ナリ 内地山岳林ニ比シ 優喬木階ハ同密度カ或ハ稍々疎ニシテ 從喬木階ハ甚タシク密トナリ 小喬木林ノ上層(喬木階)ハ内地山岳林ノ同程度カ 若クハ密度大ナリ

灌木階ハ内地ニ於テ見ラルルヤサ、ねまがりだけ 或ハしやくなげ科等ノ本階特有種ノ繁生スルコナク 且上層部林冠ノ被覆厚キタメ暗蔭ニシテ特殊ノ場合(海岸林)ニテ除キ極メテ疎ナリ

地表草類亦著シク疎ナルヲ普通トスレトモ Ba<sup>π</sup> たこのき優勢区或ハ Ba<sup>T</sup> Ba<sup>π</sup> 等ノ如キ草生地ヨリ 小喬木林ニ移リテ尚時日ノ經過短キ乾燥地植生ニテハ密度高キモノアリ

密度ハ全般ニ亘リ調査セサルニヨリ尚種々特異例多カルヘキモ以上ニテ日本内地温帯林 暖帯林植生ト相違ア



ル本島特有相ヲ察知シ得ル如シ

#### 四 常現種

各群叢中六一%以上ノ箇所ニ現出スル種類即チ常現度4(六一—八〇%) 五(八一%—一〇〇%)ニ該當スルヲ常現種トス 全地域ヨリコ、ニ四〇種ノ總常現種ヲ得タルヲ以テ左ニ各群叢ニ於ケル分布狀況ヲ觀察シ、本諸島植生ノ構成ヲ攻究セントス(詳細ハ別冊小笠原諸島調査区常現種分布表参照)

#### 一 常現種名

うらばし科 おほたにわたり、ハ丈しだ、いしかど  
ま、たましだ

にせう科	ふらとうかづら
にれ科	むにん之のき、うらじろ之のき
くは科	ときはいぬびは
おしろいばな科	うどのき
くすのき科	丸ばやぶにとけい、いぬぐす
はすのはざり科	はすのはざり
まんさく科	まるばいすのき
いばら科	しましやりんばい
へんろふ科	しろてつ
せんだん科	ときばせんだん
たかとうだい科	せきもんのき
もちのき科	もちのき
ほるとのき科	ちぎ
あふひ科	いちひ
つばき科	ひめつばき



おとぎりさう科	てりはぼく
しんんし科	ももたまな
てんんわ科	あかてつ
やぶこうじ科	もくたちばな
さくらさう科	はまぼつす
あかてつ科	くろてつ
ひひらぎ科	むにんねずみもち
けみちたう科	やろーど、ていかかづら
くまつつら科	おゝばしまむらさき、しまむらさき
あかね科	をかさはらばちやうじ、しまぎよくしんくわ
くさとべり科	くさとべり
あだん科	たこのき
禾本科	えだうちちぢみざさ
かやアミ科	くろがや
じゆる科	をがさはらびるー

しらん科 ちとせつらん(ばいけいらん)

以上三三科 四〇種

数的関係ヲ見ル = うらぼし科 四種 くまつつら科

三種ヲ主ナルモノトシ 一科ニシテ二種含ムモノ左ノ如

シ  
にれ、くすのき、けふちくたう、あかね科等四種アリ  
四〇種中 八種ハ草本ニシテ 三二種ハ木本ナリ

## 二) 常現種ノ分布概要

おほたにわたり

本種ハ高サ一米餘ニ達スル 無又大葉ノ羊齒ニシテ  
廣ク全島ニ分布シ 地床ニ多ク 又林内喬木ノ樹又ニ着  
生樹株或ハ岩上ニ生シ 最モ特色アル草本ナリ



本島ニテハ内地向觀賞用ニ 硫黄島ニテハ牛ノ飼料ト  
 シテ利用セラル 各群叢ニ繁生スル程度ハ中硫黄島 Af  
 テリはばく、ちぎ群叢ニ夥シク密生スルモ 統計ヲ欠ク  
 テ以テ 他群叢ヲ查察スルニ之カ常現種トシ分布スルハ  
 左ノ三群叢ナリ

1. Bb もくたちばな、うどのオキ群叢

2. Bc もくたちばな群叢

3. Be もくたちばな、しやりんばい群叢

即チ第一ハ母島桑木山原生林ニシテ之ヲ以テ觀レハ本  
 島ニテハ老密林程良ク生シ もくたちばなノ多キ位相高  
 次ノ植生ニ増加スルヲ認ム 本種ノ生スル所鬱閉強ク  
 光線尠ク 稍濕氣ヲ帶フ

以上三群叢以外ハ常現度2以下ニシテ Bi たこのオキ  
 群叢 Ba あかてつ、いすのオキ群叢ニテハ乾燥著シク  
 疎林多キタメ常現度1ナリ

海岸林ニテハ Ac テリはばく、はすのはぎ群叢一部  
 ノ如キ稍々多生スル處アルモ 一般ニ発生尠キカ 或ハ  
 全ク生セス

2. 八丈しだ

本種モ亦諸島到ル處ニ生スル四ノ種前後ノ羊齒ナリ  
 Be とくたちばな、しやりんばい群叢ニテハ常現種トナ  
 リ 之ニ次キ Bb もくたちばな、うどのオキ群叢 Bc も  
 とくたちばな群叢 Bd もくたちばな群叢等ニ常現度3  
 テ示ス 之ニヨリ觀ルニ本草木亦庇蔭地ヲ好ムタメ位  
 相高次ノ植生ニ多キヲ認ム 他各群叢ニ多少宛生ス  
 但シ Aa Ab 等純海岸灌木植生中ニハ之ヲ欠ク

3. いしかぐま

本種ハ草本階ニアル重要羊齒ニシテ Bb もくたちばな



、うどのき群叢ニテ常現種トナリ 之ニ次キ *Be* もくた  
ちばな、しやりんばい群叢及 *Be* もくたちばな群叢  
ニ於テ常現度3トナル 他海岸林 山岳林中廣ク少量  
完分布ス

4. たましだ

本諸島ニ廣ク分布シ 比較的開潤地ノ陽地ヲ好ミ地上  
及岩石ニ生ス 一般ニ群生シ莖地面ニ纏索ス 調査ノ結  
果ヲ見ルニ *Bh* へご、まるはち群叢ニ常現種トシ多生  
シ 之ニ次キテ多キハ *Ba* びろー、たこのき、くろてつ  
しやりんばい群叢及 *Be* とくたちばな、しやりん  
ばい群叢 *Be* とくたちばな群叢等ナリ *Ba* 群叢中  
ニテハ *Ba* びろー優勢區 *Ba* 基準組成區 *Ba* たこ  
のき優勢區 *Ba* ひめつばき優勢區等ニ多シ 他海岸林  
ノ一部林 *Bd* もくたちばな群叢ヲ除キ多少各群叢トモ  
發生ス

發生ス

5. しまふーとうかづら

本種ハ本島特産種ニシテ地表ヲ匍匐スル蔓莖類ナリ  
海岸林ニ殆ント見サルモ 山岳林ニテハ各群叢ニ廣ク分  
布ス 常現度ハ普通低キモ *Bb* とくたちばな、うどの  
き群叢ニテハ常現種トナル

6. むにんえのぞき

本島固有ノ落葉喬木ニシテ石門山 桑木山原生林 其  
他ニハ高大木トナリ 又小喬木林トシテ各島嶼ニ廣ク生  
ス

優喬木階トシテハ桑木山 *Bb* もくたちばな、うどの  
き群叢中ノ主要種ナリ  
從喬木階ニ於テ亦同様ナルモ 更ニ海岸喬木林中ニ現



ハルへAc Ad Ae 群叢一般小喬木林中ニテハ Ae も  
もたまな群叢ニテ常現種トナリ

木本トシ調査セル Bd Be 兩群叢中又常現種トナリ  
之ニ次テ Ba やろーど優勢區 Ba たこのき優勢カ

區 Bc もくたちばな群叢 Bd もくたちばな、やろー  
ど群叢 Be もくたちばな、しやりんばい群叢

Bi たこのき純叢等廣ク海岸林ト 山岳林トテ問ハス  
位相ノ高低ヲ論セス

密林ト疎林 乾濕ニ關係ナク普遍的ニ生ス

7. うらじろ之のき

本島固有ノ常緑喬木ニシテ各島嶼ニ生ス 其最モ著シ  
キハ元畑地 屋敷ニ生スルモノニシテ生長極メテ旺盛ナ

リ  
優喬木中ニハ之ヲ見ス 從喬木階トシテ僅カ Bb し

ル  
たちばな、やろーど群叢ニ多ク 後者ニテハ常現種トナ

8. ときはいぬびは

本種ハ固有種ニ屬シ 各列島ニ亘リ生ス 多クハ灌木  
程度ノモノニシテ 多少小喬木或ハ從喬木階ニ達ス

灌木階及木本階ニテハ Bc もくたちばな群叢 Bb も  
くたちばな、うどのき群叢 Bk へご、まるばち群叢、

三群叢ニテ常現種トナリ Ba たこのき優勢カ區 Be  
もくたちばな、しやりんばい群叢ニテハ常現度3ニシテ

、他ハ各群叢トモ常現度2、或ハ常現度1ノ程度ニ分  
布ス

小喬木或ハ從喬木階ニ達スルモノ亦多クノ群叢ニ見ラ  
レ 中 Bb もくたちばな、うどのき群叢 Bd もくたち  
ばな、やろーど群叢ニハ稍々多キヲ認ム



9.

うどのき

本島固有種ニシテ島産樹木中最巨大ナルモノナリ

母島桑木山原生林中ノ主林木ニシテ 本種ノ存在ハ本島  
植生連續ヨリ見レハ 著シク進行セル植生ニ於テ始メテ  
現ハレ原生林ニ於テ著シク増加ス

優、從喬木階ニ於テ見ラルハ 唯母島石門山 Bb も

くたちばな、うどのき群叢ニシテ殊ニ 優喬木階ニ於テ

同群叢ノ過半ヲ占ム

小喬木林中ニハ Ba やろーど優勢區 Ba たこのき

優勢區 Be もくたちばな、しやりんばい群叢ノ Be

もくたちばな群叢等少數ノ群叢ニ生シ 中 Bc 群叢ニハ

可ナリ多數見ラル

木本階、灌木階ヲ通シ本種ヲ生スル群叢ハ又上記諸群  
叢ニ限ラレ中 Bb もくたちばな、うどのき群叢ニ於テハ

上層部ニ引續キ常現種ナリ

10.

まるばやぶにくけい

本島固有種ニシテ革質葉ヲ有スル常緑喬木ナリ

本種樹高ハ小喬木、從喬木階程度カ限度ニシテ 優喬木  
階ニ達スルヲ見ス

從喬木階ニテハ海岸林中ノ Ac Ad Ae 群叢中ニ混

在シ 石門山 Bb もくたちばな、うどのき群叢ニハ稍々  
多シ

小喬木林ニテハ各群叢ニ亘リ分布スルモ就中 Ba やろ

ーど、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢及 Bd

もくたちばな、やろーど群叢ニ多ク 最後、Bd 群叢

ニテハ常現種ナリ

灌木 木本階ニハ喬木階ニ等シク多ク Bd もくたち

ばな、やろーど群叢 (灌木) Ba びろー優勢區 (



木本ニ於テ常現種トナリ 次テ Ba やろーど、たこの  
き、くろてつ、しやりんばい群叢 Be もくたちばな  
群叢中常現度3ヲ示シ 他諸群叢ニ混生ス

11. いぬぐす

本島固有ノ常緑喬木ニシテ各列島ニ生ス

樹高階ハまるばやぶにくけいと同様高キハ從喬木 喬木

階ニ達シ 低キハ灌木階 木本階トナル

從喬木階ニテハ Bb もくたちばな、うどのき群叢及

海岸林ニ多少存ス

喬木階ハ各群叢ニアルモ 何レモ多カラス

木本階ニテハ Be もくたちばな、しやりんばい群叢

Bc もくたちばな群叢ニ多ク 後者ニテハ常現種ナリ

灌木階ハ Bb もくたちばな、うどのき群叢ニ於テ常

現種ニシテ 他各群叢ニ見ラルルモ何レモ尠シ

以上分布状況ヲ通覽スルニ本種ハ位相高次ノ植生ニ増  
加スル傾向ヲ認ム

12. はすのはざり

海岸砂濱地ニ集團ヲナシ生シ一四―一五米ノ喬木トナ  
リ 各列島ニ分布ス

優喬木階ハ Ad はすのはざり群叢中ニテ純林ヲナシ、

他 Ac テリはばく、はすのはざり群叢ニ常現種トナル

更ニ Ae ももたまな群叢ニモ尠カラス

從喬木階ハ Ac Ad 兩群叢中常現種ニシテ Ae 群叢

中ニモ多シ

喬木階ニハ Ae 群叢ニ多ク生ス 又本種ハ灌木階ニモ

見ラル Ad ニ多數生シ常現種トナリ Ac 群叢ニモ多

ク亦 Ae 群叢中ニ混生ス

即チ Ad はすのはざり群叢ハ優、從喬木、灌木階ヲ通



シ 本種夥多ニシテ Ac たりはばく、はすのはざり群  
叢ニテハ 優喬木及灌木階ニ多生シ 從喬木ニテ常現種  
トナリ 又地表草類階ニテハ微細稚樹トシ生ス

13.

しまいすのき

本種ハ小喬木ニシテ本島固有種ナリ 喬木階及灌木  
階ニ生ス

灌木階ニ於テハ一、ニ他群叢ニ見ラルルモ 喬木及木本  
階ニテハ山岳林中、Ba びろー、たこのき、くろてつ、  
しやりんばい群叢ニ特有ナリ 中 Ba あかてつ、いす  
のき優勢區ニテハ常現種ニシテ 其ノ木本階ニ著シク多  
シ之ヲ見レハ本種ハ岩石地、乾燥地ニ特ニ分布セラレ  
、Ba びめつばき優勢區ニ稍々多ク見ラルル  
灌木階ハ喬木階ヨリモ分布群叢多キモ Ba あかてつ  
いすのき優勢區ヲ除キテハ何れモ少數混生スルニシテ

14.

しましやりんばい

本種ハ臺灣ト共通スル喬木ナリ

本島ニテハ到處ニ生シ 蓄積第一位ナリ 全林ノ凡ソ  
一五%ニ達ス 澤通りノ無風地帯ニテハ他樹ト共ニ伸  
長シ稍々喬大トナル

從喬木階トシテハ海岸林及母島石門山原生林ノ各地ニ  
見ラレ 特ニ海岸林中 Ae ももたまな群叢ニ多キハ注  
目セラル

喬木階中ハ Be もくたちたばな、しやりんばい群叢  
及 Ba もくたちたばな、やろーど群叢ニテ常現種ナルモ  
他ハ Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群  
叢ノ五區中 常現種トシ存スルヲ識ル可ク 即チ Ba 群  
叢ノ特徴種ト目セラル 前者 Be Ba 兩群叢ハ Ba 群叢



= 最も類似セル植生ナルニヨリ 亦多生ヲ見ル  
 他  $Bc$  もくたちばな群叢  $Bi$  たこのき純叢  $Ae$  も  
 もたまな群叢等ニ常現度3ヲ示ス 以上ノ中最モ多キ  
 ハ  $Ba$  基準組成区  $Ba$  たこのき優勢区  $Ba$  しやり  
 んばい優勢区及  $Be$  もくたちばな、しやりんばい群叢  
 等環境乾燥性ノモノニアリテ過半ヲ占ム  
 木本階ニテハ  $Ba$  群叢各區  $Bc$  もくたちばな群叢  
 $Ba$  もくたちばな、やろーど群叢  $Be$  もくたちばな、し  
 やりんばい群叢ニテ常現種ナリ 且ツ常現度ハ 喬木階  
 ニ於ケルヨリモ高シ  
 灌木階ニテハ  $Ba$  群叢各區  $Bd$  もくたちばな、やろー  
 ど群叢  $Bi$  たこのき純叢中常現種ニシテ 他海岸林  
 (  $Aa$   $Ab$  = 灌木植生ヲ除ク ) 及山岳林全群叢ニ巨ル  
 地表草類階ニテ亦各群叢ニ生スモ  $Bd$  もくたちばな、  
 しやりんばい群叢ヲ除キテハ多カラス

以上ノ如ク本種ハもくたちばな、やろーど、ふろてつ  
 ト竝 島内小喬木林ノ四重要種ニシテ更ニたこのき、び  
 ろーノ單子葉木本ヲ加ヘ 本島森林ノ特色種ナリ

# 15. しろてつ

しろてつ屬ハ (*Boninia Planch*) 本島固有屬ノ  
 一ニシテ三種アリ 然シ區別容易ナラス 概況調査ニテ  
 ハ3者合セテ一トス

母島原生林中ニハ多少 優喬木階ニ列スルモ 他ハ小  
 喬木狀ナリ

喬木階ヲ見ルニ北硫黄島  $Bf$  ちぎ、しろてつ群叢  
 ニテ最モ多量ノ重要種ナルモ ココニハ統計ナキヲ以テ  
 他植生ヲ通覽スルニ各群叢ニ廣ク分布スルト常現種ニ  
 達セス 左記群叢ニ多キヲ認ム



Bi Be Bc Ba Ba

びろー優勢區  
たこのき優勢區  
もくたちばな群叢  
もくたちばな、やろーど群叢  
たこのき純叢

木本階ニテハ分布群叢少クナルモ 多量分布群叢増  
加ス 即チ Ba<sup>π</sup> しやりんばい優勢區 Bc もくたちば  
な群叢 Be もくたちばな、しやりんばい群叢ノ三  
群叢中常現種トシテ存シ 他 Bi Ba<sup>π</sup> Ba<sup>T</sup> 群叢中  
常現種<sup>3</sup> ナリ 之ヲ要スルニしやりんばいノ多キ乾燥  
陽地ニ多量生ス

灌木階ハ山岳林全般ニ亘リ Ba<sup>π</sup> たこのき優勢區 Bb  
もくたちばな、うどのき群叢 Bc もくたちばな群叢  
Bi<sup>π</sup> たこのき群叢等ニテハ稍<sup>ニ</sup>多キヲ認ムルモ常現種ト

ナルモノナシ

地表草類階亦同様ニシテ 各群叢極メテ少量宛生ス

16. ときはせんだん

本種ハ廣ク東亞暖熱帶ニ産スル落葉喬木ナリ

優喬木階ニテハ石門山 Bb もくたちばな、うどのき群叢

中常現種トシテ存ス 同群叢ノ從喬木階ニハ著シカラス

一般小喬木林中ニハ海岸林ノ一部及山岳林全般ニ亘リ

生スルモ 概シテ多カラス 中左記群叢ニテハ常現度

3 テ示ス

Be Bd Ba

しやりんばい優勢區  
もくたちばな、やろーど群叢  
もくたちばな、しやりんばい群叢



木本階又喬木階ニ準シ <sup>カ</sup>Ba びろー優勢區ニテ常現度  
3 テ示スモ他何レモ常現度2以下ナリ  
灌木階ハ更ニ常現度低シ 但シ各群叢ニ亘リ分布ス

17. せきもん のき

本種ハ大戟科木本ニシテ母島ノ特産喬木ナリ

分布群叢ハ Bb もくたちばな、うどのき群叢 Bc も

くたちばな群叢 Bk へご、まるばち群叢等原生林ヲ

中心トシ僅カニ生育ス

Bb 群叢ニテハ 從喬木階ニ於テ常現種ナルモ他ハ點生

セルノミ

18. もちのき

もちのきハむにんもちのき、しまもち及あつばもち  
のきハ津山氏新研究ニ、三種アリテ共ニ固有喬木ナリ

本調査ニ於テハ 3 者合シテ一ト見做ス もちのきハ

喬木階ニテハ Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやり

んばい群叢ノ各區 Bc もくたちばな群叢 Bc たこのき

純叢等ニアルモ 何レモ少量混生ニ過キス

木本階ニテハ更ニ分布群叢トシ Bc もくたちばな、

やろーど群叢 Be もくたちばな、しやりんばい群叢

等ニ及ヒ Be 群叢ニテ常現種トナルモ 其他ニハ多カラ

ス

灌木階ハ以上ヨリモ稍々少ク 地表草類階ニモ一、二

之ヲ認メラル

19. ちぎ

しまはるとのき及ちぎノ二種ヲ含ム共ニ固有種ナリ

母島 Bb とくたちばな、うどのき群叢 優喬木階ニテハ

常現種トシ、うどのきニ次ク多量種ナリ



又從喬木階中ニモ常現種トシテ生ス コノ他喬大木トシテハ北硫黄島 Bf ちぎ、しろてつ群叢 中硫黄島 Af たりはばく、ちぎ群叢ノ主要種ニシテ之ニ依リ見ルニ南方程増加ノ傾向著シ

喬木階ニテハ Ba びろーたこのき、くろてつ、しやりんばい群叢ノ各區 Be もくたちばな群叢 Be もくたちばな、しやりんばい群叢等ニ混生シ Be もくたちばな群叢ニテハ常現度 3 = 上ル

灌木 木本階中亦各群叢ニ亘リ生スルモ顯著ナラス然シ北硫黄島 Bk へご、まるばち群叢ニ於テハ常現種ナリ

## 20. いちび

あふひ科ニ屬スル本島固有常綠喬木ニシテ然モ貴重用材種ナリ 各列島ニ見ラル 母島原生林地帯ニテハ喬

## 樹大木トナル

本調査ニテモ同 Bb もくたちばな、うどのき群叢中優喬木階中常現度 3 = 達ス

從喬木階ニテハ Bb 及海岸喬木林中ニ存スルモ多カラ

ス 喬木階ニテハ廣ク各群叢ニ分布シ 殊ニ Ba びろーたこのき、くろてつ、しやりんばい群叢中優勢ニシテ其ノ Ba しやりんばい區 Ba あかてつ、いすのき區ニテハ常現種ナリ 他 Be もくたちばな群叢 Be もくたちばな、しやりんばい群叢中ニ稍々多キヲ認ム

木本階ニテハ尚増加シ Ba びろー優勢區 Ba たこのき

優勢區 Ba しやりんばい優勢區ニテ常現種トナリ 他海岸林ヲ除キ多生ス

灌木階ハ海岸林、山岳林共ニ各群叢ニ生スルモ特ニ多量ナルモノナシ



21、ひめつばき

本島固有種ニ屬スル常緑種ナリ  
父、母列島ニテハ列處繁生スル重要林木ナルモ 硫黄列島ニハ之ヲ認メス

總蓄積ハしやりんばい、もくたちばな、くろてつニ亞キ第四位ニアリ

優喬木階トシテハ母島桑木山ニひめつばき群叢（Baトス）ヲナシ 喬木階ヲ見ルニ常現種トシ Baびろー

、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢各區ニ多ク、即チ Baひめつばき優勢區ヲ始メ Baあかてつ、

いすのき優勢區 Ba基準組成區 Baびろー優勢區等ノ大部ニ亘リ 残余ノ Ba群叢 Ba區及 Beも

くたちばな、しやりんばい群叢カ常現度3トナリ他山岳林各群叢中混生ス

木本階ニテハ各群叢ニ亘ルモ特ニ Ba群叢中ニ多ク、

就中 Ba Ba兩區ニ高度ノ常現種トナル

灌木階トシ亦山岳林全般ニ分布スルモ其ノ量多カラス

22、てりはぼく

本種ハ東亞熱帶 濠洲 太平洋諸島嶼産喬木ナリ

本島ニテハ海岸林トシテ 最モ重要ナルモノナルモ 中

硫黄島ニテハ殆ント内陸部全般ニ及フ

潮風ニ抗スルコト強ク 土壤深ク 多濕ナル場合ニ生

長最モ良シ 地況ニヨリ内陸ニモ生育シ 諸島耕地ノ防

風帶トシテ到處小圃場ノ周圍ニ植栽セラル

優喬木階ヲ見ルニ Acてりはぼく、はすのはぎり群

叢ハ過半本種ノ占領セルコロニシテ 之ニ次キ Adは

すのはぎり群叢中常現種ナリ 他 Aeもたまな群

叢ニモ見ラレ 全海岸喬木林ニ生ス 中硫黄島ニテハち

ぎト共ニ生シ Afてりはぼく、ちぎ群叢ヲ形成ス



從喬木階トシテハ Ac、Ae 兩群叢中常現種トナリ亦  
Ad 群叢ニ少カラス

喬木階ニテハ (小喬木林ノ上層) Ac 群叢中純林狀  
ヲナシ多少 Ae 及山岳林ナル Ba びろー、たこのき、  
とろてつ、しやりんばい群叢ニ生ス

灌木階ノ生育狀態ハ Ac 群叢ニ於テハ過半ヲ占ムル常  
現種ニシテ 他 Ad、Ae 兩群叢ニ生ス  
又海岸林中ノ地表草類階ニ混生ス

23.

ももたまなへしまぼう

太平洋ニ於ケル熱帶諸島及印度洋諸島ニ自生スル落葉  
喬木ナリ

小笠原ニテハてりはばく、はすのはざりト共ニ海岸林  
ヲ構成シ 各列島ニ産ス

~~優~~喬木階ニハ Ae も見たまな群叢カ本種ノ純林ニ近ク

又 Ac てりはばく、はすのはざり群叢 Ad はすのはざ  
り群叢ニ於テ常現種ナリ

從喬木階ハ Ae ももたまな群叢ニ甚タ多ク Ac てりは  
ばく、はすのはざり群叢ニテ常現種ナリ Ad はすのは  
ざり群叢ニ生ス

喬木階ヲ見ルニ Ae 群叢ニ甚タ多ク Ac 群叢ニ亦  
常現種ナリ 更ニ他ノ海岸樹種ト異ナリ 山岳林ノ各  
群叢ニ少量宛生ス 中海岸地ニ多キ Bi たこのき群叢  
中稍ニ多キヲ認ム

木本階ニテハ Ae 群叢カ其純林狀ヲ呈シ Aa はまご  
う群叢 Ab とさこべら群叢及内地山岳林 各群叢ニ廣  
ク生シ Bd ももたちばな、やろーど群叢ニ於テ常現  
種ナリ

灌木階ニ於テハ海岸林及 Ba びろー、たこのき、とろ  
てつ、しやりんばい群叢ニ混生ス



地表草類階亦同様ナリ

24. あかてつ

本種ハ父、母列島ニ生シ 硫黄列島ニハ産セス  
外地ニハ南支那、臺灣、琉球ニ分布ス

優喬木階ニハ認メス 從喬木階トシテハ 海岸林ノ

Ae ももたまな群叢ニ可ナリ多ク生ス 一般ニ小喬木林  
カ廣ク構成要素トシ存スルモ概シテ多生セス

常現種トシ存スルハ Ba あかてつ、いすのき優勢カ

區ノ喬木、木本、灌木階及 Ba びろー優勢區及 Be と

とたちばな、しやりんばい群叢ノ木本階ニ於テ見ラルル  
ノミナリ 乾燥地 岩石地ヲ好ム

25. もくとたちばな

本種ハ台灣、琉球、南日本ニ分布シ 本島ニテハ 硫

黄列島ヲ除ク諸島嶼ニ頗ル多ク生ス 海岸林ノ一部ヨリ

山岳林全般ニ亘リテ生シ 總蓄積ハしやりんばいニ次キ

第二位ニシテ 凡一〇%ヲ占ム

優喬木階ニテハ 母島原生林 Bb とくとたちばな、こ

どのき群叢ニ於テ うどのきト並ニ多ク常現種ナリ

從喬木階ハ Bb 群叢ノ過半ヲ占メ亦海岸林中ニ分布

ス 性陰性ナレハ スク下層木トシテ繁生ス

喬木階ニテハ Bc もくとたちばな群叢カ略純林狀ヲ呈

シ 之ニ次キ Bd もくとたちばな、やろーど群叢 Be

もくとたちばな、しやりんばい群叢 Ba びろー優勢區ニ

於テ常現種トナル 他 Ba たこのき優勢區 Ae ももた

まな群叢 Ba びろー、たこのき、とろてつ、しやり

んばい群叢基準區ニ稍々多ク 其他ノ群叢ニモ多少

之ヲ混ス

木本階ニテハ Bc、Bd 兩群叢純林狀ヲ呈シ Be もと



たちばな、しやりんばい群叢 <sup>II</sup> Ba たこのき優勢區  
 Ba しやりんばい優勢區等ニテハ常現種ナリ  
 灌木階ニ至リテハ Bb、Bc、Bd、Be、ノ四群叢 即ハ  
 位相高次植生ニ限り常現種トナリ 多少 Ba 海岸林ニ生  
 ス

地表草類階又同様ニシテ位相高次植生ニ多ク原生林  
 Bb 群叢ニテハ常現種ニ達ス

26. はまぼつす

此類ニハはまぼつす及ニおハはまぼつすトアルモ 後  
 者ニ屬スルモノ多産ス 前者ハ日本、台湾、琉球ニ産  
 シ 後者ハ本島特産ナリ 調査ニ當リテハ二者一視ス  
 本種ハ海岸植物ニ屬シ Ab とさとべら群叢ニテ常現  
 種トナルモ 他ニハ二、三ノ群叢ニ稀生スルノミナリ  
 (Aa はまごう群叢 Ba 群叢)

27. ころてつ

本種ハ東亞熱帶 亞熱帶ニ産ス 本島ニテハ各列島ニ  
 生ス 大木トナリ 母島 Bb もくたちばな、うどのき  
 群叢ノ優、從喬木階ニ可ナリ多數生ス

喬木階ヲ見ルニ Ba びろー、たこのき、ころてつ、し  
 やりんばい群叢ニ於テハ Ba ひめつばき優勢區 <sup>II</sup> Ba  
 あかてつ、いすのき優勢區ノ二區ヲ除ク四區ト Bb とく  
 たちばな、やろーど群叢 Be もくたちばな、しやりん  
 ばい群叢 Bi たこのき純叢等ニテ常現種トナリ 他  
 ノ群叢ニモ亦混生ス Ba 群叢ニテ常現種トナルルノ  
 ミニシテ多カラサルヲ識ル

灌木、地表草類階共ニ海岸、山岳兩地域植生全部ニ  
 分布スルモ著シク多キヲ認メス 且ツ地表草類階ハ灌  
 木階ニ於ケルヨリ劣勢ナリ



即チ本種ハ向陽地ヨリ原生林ノ如キ蔭濕地ニ及ヒテ  
ヨク生育ス然シ現状ハ何レカトイヘハ若干陽性植生  
ニ著シキヲ認ム

28

むにんねずみもち

本島特産灌木階ニシテ 硫黄列島ヲ除ク各島嶼ニ廣ク  
生ス 一部ハ樹高稍々高ク 喬木部中ニ Ba びろー、  
たこのき、しろてつ、しやりんばい群叢及 Bb もく  
たちばな、うどのき群叢 Be もくたちばな、しやり  
んばい群叢等ノ各群叢ニ稀生ス  
木本階ニハ Ba 基準組成區 Ba Ⅱ しやりんばい優勢  
區及 Be もくたちばな、しやりんばい優勢區ニ於テ常現  
種ナリ

種トナリ 他海岸林ヨリ全森林ニ分布スルモ 特ニ左記

群叢ニ多ク常現度 3 テ示ス

I  
Ba  
II  
Ba  
III  
Ba  
IV  
Ba  
V  
Ba  
Bd  
Be  
群叢

地表草類階ニテ亦廣ク各群叢ニ見ラルモ何レモ稀少ナリ

29.

やろーど

本島固有種ニシテ やろーど及ほえはやろーどトアリ  
テ 後者ハ南、北硫黄島特産ニ属ス 喬大トナルモノ多  
少アリ 海岸林（Ac、Ae群叢）及母島 Bb もくた  
ちはな、うどのき群叢中ノ優喬木階ニ混在ス  
從喬木階ニテハ Ae ももたまな群叢及 Bb 群叢中  
可ナリ混ス

喬木階ニハ  
Ba  
びろー、  
たこのき、  
とろてつ、  
しやり



んばい群叢中<sup>Ⅰ</sup> Ba<sup>Ⅱ</sup> Ba 區ヲ除ク四區ト Bd もくたちはな、やろーど群叢 Be もくたちはな、しやりんばい群叢ニ於テハ常現種ニシテ 次テ<sup>Ⅰ</sup> Ba Bc 群叢等ニ多生ス

木本階ニテハ尚一層増加シ 海岸林ももたまな群叢 Ba 群叢中ノ<sup>Ⅰ</sup> Ba<sup>Ⅱ</sup> Ba 各組成區 Bd Be 兩群叢等 多種群叢中常現種トシ分布ス

灌木階ニテハ海岸林、山岳林ノ各群叢ヲ通シテ分布ス ルモ 唯ニ群叢<sup>Ⅱ</sup> Ba<sup>Ⅰ</sup> びろー優勢區及 Bd もくたちはな、やろーど群叢中常現種タルノミ 地表草類階 亦山岳林ノ各地ニ混生ス 中 Bd 群叢ニ稍、多キヲ除ケハ何レモ見ルヘキモノナシ

30.

おゝばていかかづら

本島固有蔓莖類ニシテ地表ヲ匍匐 群生ス

Bb もくたちはな、うどのき群叢ノ如キ鬱閉林下ト

Be もくたちはな、しやりんばい群叢ノ如キ密度中庸ナル林分中ニ常現種トシ現ハレ 陽乾地ニ屬スル<sup>Ⅰ</sup> Ba<sup>Ⅱ</sup> Ba 等ニモ多ク庇蔭陽乾兩地ニ繁生ス

他海岸林 山岳林各群叢地床ニ著シ

31.

おゝばしまむらさき

むらさきしきふ屬 *Callicarpa* 屬ニハ本種ノ他しまむらさき、うらじろこむらさき等アリ 何レモ本島固有種ナリ

本種ノ通性ハ小喬木ナルモ 母島 Bb もくたちはな、

うどのき群叢ノ一部ニハ 優喬木階トシテ存ス

從喬木階ニハ海岸喬木林中一、二葉生ス 喬木階 Bd

もくたちはな、やろーど群叢ニテ常現種トナリ Bc も

くたちはな群叢ニ稍、多ク認めラレ 他各群叢ニ少數混



生ス

32.

しまむらさき

本種ハ灌木ニ屬シ稀ニ喬木トシテ生ス  
 庇蔭ニ耐ヘ木本階トシ調査セル Bc もくたちばな群叢ニ  
 於テ常現種ナリ Be もくたちばな、しやりんばい群叢ニ  
 可ナリ多ク 他 Ba びろー、たこのき、くろてつ、しや  
 りんばい群叢中稀ニ生ス  
 灌木階ニ於テハ各群叢ニ見ラルルモ何レモ多カラス

33.

はまごう

本種ハ朝鮮 本州 鬱陵島 四國 九州 琉球 台湾  
 等廣ク暖熱帶ノ海岸濱ニ産スル蔓莖灌木ニシテ常緑又ハ  
 落葉性ナリ 我本州ニテハ東北地方ニ及フ 小笠原ニハ  
 頗ル多ク 各島嶼ニ行キ亘ル

著シヤ群生地ハ之ヲ Aa はまごう群叢トシ區分ス  
 海岸林中 Aa はまごう群叢一種 常現種トナリ Ac たり  
 はばく、はすのはざり群叢ニモ生ス 又内陸植生 Ba び  
 ろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢ノ各區ニ  
 點生ス

即チ乾燥地、岩石地ニハ内陸地ニモ之ヲ生ス

34.

ちがさはらばちようじ

硫黄列島ヲ除ク各島嶼ニ分布スル固有種ナリ 最モ多  
 キハ母島ノ Bb もくたちばな、うどのき群叢  
 從喬木階ニテ常現種トナリ 喬木階ニテハ Ba あ  
 かてつ、いすのき優勢區ニテ常現種トナリ 特ニ注目セ  
 ラル 他 Bc Ba 群叢ニ混生ス  
 灌木トシテ廣ク山岳林中ニ存在スルモ量甚タ微少ナリ



35

しまぎよくしんとわ

本種亦硫黄列島ニ産セサル本島固有種ナリ

從喬木 喬木階中 Bb Bc 群叢或ハ海岸林ニ稀ニ生スル

通例灌木階ニ所生ス

灌木階ニテハ Bb もくたちばな、うどのき群叢 Be

もくたちばな、しやりんばい群叢ニテ常現種タリ 又

Bc もくたちばな群叢ニ稍々多ク 他ノ陽地植生ニハ少

シ

36

くさとべら

本種ハ草質灌木ニシテ 汎熱帶性ナリ

本地方ニ於テハ最北ノ智島列島ヨリ 南端硫黄列島ニ及

ヒ 海岸植物トシテ繁生ス

Ab くさとべら群叢ハ本種ノ純叢ニシテ亦海岸林各地

山岳林中 Bi 此このき群叢外各群叢ニ混生ス

地表草類階中ハ Ac てりはばく、はすのはぎり群叢ニ  
常現種トシテ生シ Ae ももたまな群叢ニモ少カラス

37

たこのき

本島固有種ニシテ各島嶼ニ分布汎シ

地表草類階 灌木階 喬木階共 各群叢ニ生ス 内常現種

ナル場合ハ

灌木階

Ac てりはばく、ももたまな群叢

Ae ももたまな群叢

Bd もくたちばな、やろーど群叢

木本階

Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい

群叢中



I Ba 基準組成區  
 II Ba びろー優勢區  
 III Ba たこのき優勢區  
 IV Ba しやりんばい優勢區  
 V Ba あかてつ、いすのき優勢區  
 VI Ba 群叢  
 VII Ba もくたちばな、しやりんばい群叢  
 VIII Ba たこのき純叢

喬木階

I Ba 各區  
 II Ba 各區  
 III Ba 各區  
 IV Ba 各區  
 V Ba 各區  
 VI Ba 各區  
 VII Ba 各區  
 VIII Ba 各區  
 IX Ba 各區  
 X Ba 各區  
 XI Ba 各區  
 XII Ba 各區  
 XIII Ba 各區  
 XIV Ba 各區  
 XV Ba 各區  
 XVI Ba 各區  
 XVII Ba 各區  
 XVIII Ba 各區  
 XIX Ba 各區  
 XX Ba 各區  
 XXI Ba 各區  
 XXII Ba 各區  
 XXIII Ba 各區  
 XXIV Ba 各區  
 XXV Ba 各區  
 XXVI Ba 各區  
 XXVII Ba 各區  
 XXVIII Ba 各區  
 XXIX Ba 各區  
 XXX Ba 各區

從喬木階の海岸林中に見ラレ其内にも Ae ももたまなる群叢

テ常現種ナリ

即チ喬木階ニ最モ多ク灌木、地表草類階ト漸次減少ス  
 然シテ山岳林ニテハ 位相低次ナル程増加ス Bd Bc  
 群叢ニハ之ヲ生セス 陽性初期植生ニ繁榮ス  
 即チ左ノ順序ニ生ス

草原、岩石地 || Bi (たこのき純叢) → Ba (内 Ba  
 たこのき優勢區ヲ首トス) → Be (もくたちばな、  
 しやりんばい) → Bd (もくたちばな、やろーど)  
 ↓ Bc (もくたちばな) → Bb (もくたちばな  
 うどのき群叢)

38. ちぢみざさ

本種ハ硫球及熱帶地方産ナリ 中當地方ニテハ庇蔭地  
 適ニ到處ニ生シ 最モ重要ナル地表草類ナリ



之ヲ常現種ハ <sup>II</sup>Ba びろー優勢區 <sup>III</sup>Ba たこのき優勢區 <sup>Bb</sup> もくたちばな、うどのき群叢 <sup>Bc</sup> もくたちばな群叢 <sup>Bd</sup> もくたちばな、やろーど群叢 <sup>Be</sup> もくたちばな、しやりんばい群叢等ニ現ハル

39.

くろがや

本種ハ他ニ硫球ニモ見ラルル一莎草ナリ <sup>Bb</sup> <sup>Bc</sup> 群叢ノ如キ極度ノ庇蔭地ヲ除キ各地ニ多少分布ス 特ニ <sup>II</sup>Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢 あかてつ、いすのき優勢區ニ於テハ常現種ナリ 即チ兄島ノ中央乾燥地帯ニ多生ス

40.

おがさばらびろー

硫黄列島ヲ除ク各島嶼ニ分布スル固有種ニシテ砂地、濕地ニハ少キモ小喬木林ノ上層ニ挺出し直徑二〇―

三〇Cm 樹高一ミ―八米ニ達シ一米余ノ掌狀葉ヲ傘狀ニ出シ 外觀上本島植生ヲ特色付クルコト著シ 地表草類階ハ各群叢ニ生スルモ <sup>Bd</sup> もくたちばな、やろーど群叢 <sup>Ad</sup> はすのはざり群叢ニ稍々多ク見ラル 灌木階ニテハ一段多クナリ <sup>III</sup>Ba <sup>Bd</sup> <sup>Be</sup> 群叢ニ増加シ <sup>II</sup>Ba びろー優勢區ニ於テハ常現種ナリ 木本階トシテ調査セル植生ニハ一層著シク <sup>II</sup>Ba びろー優勢區ヲ首メ <sup>I</sup>Ba 基準組成區 <sup>II</sup>Ba しやりんばい優勢區 <sup>Bd</sup> もくたちばな、やろーど群叢 <sup>Be</sup> もくたちばな、しやりんばい群叢中常現種トナル 即チ乾陽性地ヨリ 庇濕地共繁生ス 喬木階ハ海岸林及ヒ <sup>Bb</sup> もくたちばな、うどのき群叢 <sup>Be</sup> もくたちばな、しやりんばい群叢 <sup>Bc</sup> もくたちばな群叢 <sup>Ba</sup> しやりんばい優勢區ヲ除キ各群叢トモ常現種ナリ



之ヲ以テ觀レハもくたちばなヲ主トスル密林、原生林  
 =ハ次第ニ減少シ 小喬木時代ノ主要構成種ナリト判  
 得ヘシ

41. ちくせつらん

本島特産ニシテ 母島原生林地方ニ多シ  
 庇蔭強キ裸地ニ生ス Bb もくたちばな、うどのキ群叢  
 =テハ常現種ニシテ附近 Bc もくたちばな群叢 Be も  
 くたちばな、しやりんばい群叢ニモ稀ニ生ス  
 分布狭キモ 原生林地床ニ多生シ重要種ト見ラルヘシ

三) 特徴植物

常現種ノ分布状態ヲ比較シ 群叢ノ特徴ヲ現ハス種類  
 ヲ撰出スルハ表ノ如シ

(1)

第15表

群叢	優 喬 木 階	徒 喬 木 喬 木 階
Aa	ハスゴウ群叢	
Ab	クサトベラ群叢	
Ac	トリハボク、ハスノハギリ	トリハボク
Ad	ハスノハギリ群叢	ハスノハギリ
Ae	モモタスナ群叢	モモタスナ、トリハボク
Af	トリハボク群叢	キギ、トリハボク
Ag	カイガンイキ群叢	
Ba	ビロウ、クロノキ、クロツツ、シヤリンバイ群叢	シヤリンバイ、クロツツ、ビロウ、クロノキ
Ba'	ビロウ群叢	ビロウ、クロノキ
Ba''	ビロウ群叢	ビロウ、クロノキ
Ba'''	タコノキ優勢区	タコノキ、シヤリンバイ、クロツツ
Ba''''	シヤリンバイ優勢区	シヤリンバイ、クロツツ、タコノキ
Ba'''''	ヒメツバキ優勢区	ヒメツバキ、シヤリンバイ



Ba <sup>1</sup>	アカテ、ツキ 優勢 区	イヌノキ、アカテツ
Bb	モクダバナ 群 叢	ウブノキ、モクダバナ、ボクヤラジ、セキモシノキ
Bc	モクダバナ 群 叢	モクダバナ
Bd	モクダバナ 群 叢	モクダバナ、タコノキ、ヤロード
Be	モクダバナ 群 叢	モクダバナ、シヤリンバイ、クロテツ
Bf	ケギ、シロテツ 群 叢	シロテツ、ケギ
Bg	ヤツヂ、ヒサカキ、イワシト 群 叢	ビロウ
Bh	ビロウ 純 叢	タコノキ
Bi	タコノキ 純 叢	
Bj	ツルアダン 純 叢	
Bk	ヘゴ、丸ハナ 群 叢	ヘゴ、丸ハナ

(2)

群 叢	灌 木 本 階	地 表 草 類 階
Aa	ハマゴウ	
Ab	クサトベラ 群 叢	ハマボツス
Ac	テリハボク 群 叢	クサトベラ
Ad	ハスノハギリ 群 叢	
Ae	モモタマナ 群 叢	オホタニタリ
Af	テリハボク 群 叢	
Ag	カイガンイキ 群 叢	
Ba <sup>1</sup>	ビロウ、タコノキ、シヤリンバイ 群 叢	シヤリンバイ
Ba <sup>2</sup>	ビロウ 優勢 区	ケギミザサ
Ba <sup>3</sup>	タコノキ 優勢 区	ケギミザサ
Ba <sup>4</sup>	シヤリンバイ 優勢 区	
Ba <sup>5</sup>	ヒメツバキ 優勢 区	



Ba	アカ、ツキ優勢区	アカツツ、イスノキ	クロガヤ
Bb	モクダバナ群叢	モクダバナ、シタギヨクシンクワ	フートーカズス、イシカグス オホダ=ワタリ、ヤクセツラン
Bc	モクダバナ群叢	モクダバナ	ヤゲミザサ
Bd	モクダバナ群叢	モクダバナ、シタリンバイ トキハハス、ヒハ	ヤゲミザサ
Be	モクダバナ群叢	モクダバナ シタギヨクシンクワ	チイカカヅラ
Bf	ヤギ、シロツツ群叢	ヤツデ、ヒサカキ イワトウキイゴ	タマシダ
Bg	ヤツデ、ヒサカキ、イワトウキイゴ群叢		タマシダ、オトメシダ
Bh	ビロウ純叢		
Bi	タコノキ純叢	シタリンバイ	ススキ、ヤゲミザサ
Bj	ツルアダン純叢	ツルアダン、モクダバナ	タマシダ
Bk	ヘゴ、カハタ群叢	ヤギ、トキハハス、ヒハ、モクダ	タマシダ、キンモウキナデ

171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200

## 第二節 標準地調査

各群叢ノ構成ニツキテハ 林内觀察記録ナル概況調査  
 ノミニヨリテハ完璧ヲ期シ難ク 更ニ入念ニ標準地選  
 定ノ上 測樹諸種ノ計法ニヨル數量ノ計測並ニ細部構  
 成調査ニ進ムノ要ヲ認ム  
 標準地調査ノ成果ハ別冊林況調査簿及ヒ「コードシート」  
 計算表ト「トランセクト」ニ收ム

## 標準地調査林木階別總括表

第16表



群叢	場島名	所林班	面積ha	1ha當(5株止)樹種數				優從喬木比率				極大		
				材積m <sup>3</sup>	本數	優	從	全	材積	本數	材積	高サm		
A c	父島	107	0.2722	392.440	1426	3	5	8	73.1	26.9	14.4	85.6	120	21
A d	母島	215	0.3135	213.898	2051		12	12		100.0		100.0	58	13
A f	中環島	286	1.0030	343.088	545			6		100.0		100.0	102	
Ba <sup>I</sup>	父島	113	0.2570	85.540	3352			21		100.0		100.0	52	11
Ba <sup>I</sup>	父島	113	0.2570	175.116	4928			32		100.0		100.0	44	
Ba <sup>II</sup>	父島	128	0.1801	23.076	1571		19	19		100.0		100.0	22	8
B b	母島	215	0.1502	335.759	3302		16	16		100.0		100.0	130	16
B b	母島	215	0.1775	327.538	4918		21	21		100.0		100.0	76	15
B b	母島	215	0.8317	408.153	2615	5	23	28	200	80.0	25	97.5	142	20
B c	母島	215	0.2030	298.148	5099		16	16		100.0		100.0	46	15
B d	弟島	215	0.1975	60.491	3068		18	18		100.0		100.0	32	10
B d	母島	286	0.1851	34.527	2183		17	17		100.0		100.0	36	10
B e	母島	215	0.1195	141.940	5549		22	22		100.0		100.0	42	12

# 標準地ノ概況

海岸林ハ Ac たりはぼく、Ad はすのはぎり及中疏  
 黄島ノ Af たりはぼく、ちぎ群叢ノ代表三地ニツキ行上  
 本群系中 Ac もたまな群叢ニツキテハ調査ヲ行ハス  
 Ac たりはぼく、はすのはぎり群叢標準地ハ父島大村  
 奥村ニ選定ス 本海岸林ハ平砂地ニシテ 南方浅瀬ヲ  
 經テ二見灣ニ臨ム

背後ハ奥村部落ヲ狭ミ岩地ニツツク長キ带状ヲナシ、  
 幅員五〇米ニ達セサル海岸防風林ナリ 前面ノ浅瀬ハ泥  
 質ニシテ 其一部ハ林内ニ入江トナリ 無數ノ蟹穴アル  
 泥濕地ヲナス

Ad はすのはぎり群叢ハ 母島石門山近ク 東港ニ面  
 セル海岸林ニシテ 林内少シク傾斜シ 前面砂地（くさ



とべら生ス。テ經テ海水ニ臨ミ背後ハ *Bd* もくたちばな  
 やろーど群叢ヲ現ハス急斜地トナル

*Af* てりはばく、ちぎ群叢ハ中硫黄島ノ南部 海岸  
 ヨリ敷料内地ニアリ 殆ント平坦ニシテ土壤ハ砂土ナリ  
 玉名山、保護林ノ一部ニ當ル

山岳林ハ小喬木混雑林 (*Ba* びろー、たこのき、ころてつ  
 、しやりんばい群叢) 中ニ三ヶ所 石門山原生林中三ヶ  
 所 (*Bb* もくたちばな、うどのき群叢) テ精査シ 原生林  
 ノ究明ニ努メ 次キニ原生林ヨリ遷レル二次林ト見ラル  
 ル *Bc* もくたちばな群叢、*Bd* もくたちばな、やろーど群  
 叢ニツキテハ弟島及向島ニ於テ 又 *Be* もくたちばな、し  
 やりんばい群叢内一ヶ所ノ標準地ヲ求メ 以テ大畧山岳  
 林ノ主要植生ヲ悉ス

未調群叢ニハ北硫黄島 *Bf* ちぎ、しろてつ群叢及各  
 純叢等アリ 以下少シク之カ説明ヲ加ヘントス

*Ba* びろー、たこのき、ころてつ、しやりんばい群叢

*Ba* 基準組成區ハ父島北東部旭山國有林ニ於テ行フニ  
 ケ所 (内一ヶ所ハ施業案係調査) 連續緩斜地ニシテ通稱  
 旭平トイフ 附近ニ於ケル 優良林分ニ屬ス 多少もく  
 まおーノ造林木ヲ含ム

*Ba* あかてつ、いすのき優勢區

此ハ父島ノ中央部 (稍々北ニ當ル) 中央山、桑木山國有  
 林ニテ行フ 林地ハ東方ニ緩斜ス

*Ba* 標準地ヨリ南部ニアリ 共ニ本島分水嶺ノ東側台地  
 テ占メ稍々東海岸ニ近ク存ス

*Bb* もくたちばな、うどのき群叢

當石門山ノ東側ハ一率急傾斜面ヲナスモ 西側ニハ上ノ

段 中ノ段 下ノ段ナル 三段ノ明カナル段岳ヲ形成ス

上ノ段最モ廣ク 下ノ段之ニ次キ 中ノ段ハ下ノ段ニ

至ル途中ニ該當ス



調査地ハニヶ所ヲ下ノ段中ノ老齡木ノ混交林中ニトリ  
 一ヶ所ハ上ノ段ノ稍々下方部ニトル 最モ老齡林分ナリ  
 Bc もくたちばな群叢

石門山上ノ段ノ上方部ニテ行フ

Bd もくたちばな、やろーど群叢

一ハ弟島ノ北方中央部ニシテ小澤ニ沿ヒ緩斜シ林相ハ同  
 島ノ最良林ナリ

二ハ向島北西端ノ緩斜地ニシテ 本島内最モ蓄積豊富

位相高次ナル所ナリ

Be もくたちばな、しやりんばい群叢

石門山 下ノ段ノ下方部ニ於テ調査ス

## 二 林木階ニ關スル調査

樹高階ニ對スル本數表 (1ハツル當リ)

第17表

群叢	5—7	8—14	15—20	21以上	計
A c	73.1	49.2	19.9	.7	142.9
A a	113.6	91.5	.	.	205.1
A f	.	.	.	.	54.5
B a'	307.2	28.0	.	.	335.2
B a'	.	.	.	.	472.8
B a'	156.6	.5	.	.	157.1
B b	260.3	69.2	.7	.	330.2
"	232.1	258.6	1.1	.	491.8
"	117.1	137.7	6.7	.	261.5
B c	226.1	280.8	1.0	.	507.9



Bd	292.6	14.2	.5	307.3
"	206.4	11.9	.	218.3
Be	543.8	11.1	.	554.9

胸高直径 = 對スル本數表 (179-21 當リ)

第18表

群級	2-6	8-10	12-20	22-30	32-40	42-50	52-60	62-70	72-80	82-90	92-100	102以上	計
Ac	503	180	57	154	88	77	44	18	4				1429
Ad	383	396	775	335	121	35	6						2051
Af		81	209	82	58	52	28	15	13	6		1	545
Ba <sup>1</sup>	1664	900	660	92	20	8	4	4					3352
"	3020	876	692	96	32	12							4728
Ba <sup>6</sup>	833	561	144	33									1571

Bb	1006	852	892	292	140	73	33	33					3302
"	1915	963	1555	293	135	45	6	6					4918
"	843	552	783	240	74	52	24	9	8	13	10	7	2615
Bc	1479	1158	2029	340	49	24							5079
Bd	1392	952	364	46	15				9514 (304)				3073
"	1345	600	211	22	5								2183
Be	2034	2051	1277	102	68	9	8						5549

「本數、材積、種數

「ハクタル」當リ材積ハ林ノ種類ニヨリ異ナル

最少ハ父島 Ba 群叢ノ二三m<sup>3</sup>ニシテ最多ハ母島

石門山原生林一、四〇七m<sup>3</sup>ヲ算シ其ノ比率ハ一、一七五

ヲ示ス 本種ハ最少五四五本(硫黄島 Af 群叢) 最多



五、五四九本（母島 Be 群叢）ニシテ一〇、〇〇〇ノ關係アリ  
 一三、地平均ハ二一八、二六二<sup>3</sup> *m* 及ヒ三、一〇六本六トモナル  
 此數字ハ寧口各島最優良部ノ平均狀態ト見ラルヘシ  
 昭和一一年度施業案檢訂ノ結果ニ據レハ 總面積五、  
 四四七 *ha* = テ 一六九、四二三<sup>3</sup> *m* = シテ平均 三一、一<sup>3</sup> *m*  
 = 過キス  
 一三ヶ所中種々ナル林相區分ヲ樹テ之ヲ比較スルニ  
 海岸喬木林（Ac、Ad、Af）一、三四〇本 三一六、四七  
 五<sup>3</sup> *m* アリ 本數最モ少ク材積豊富ナリ  
 山岳林中石門山原生林（Bb 群叢）ハ二、一六五本 四〇  
 七、一五二<sup>3</sup> *m* = シテ本數少ク蓄積最モ多シ 石門山附近  
 = 於ケル 準原生林（類似原生林）即チ Bb、Bc、  
 Be 三群叢 四地平均ハ四七一二本 二七五、三四六<sup>3</sup> *m*  
 = シテ前者原生林ニ比シ 本數ハ二倍ニ 材積ハ約七割  
 = 當ル

最後ニ本地方ニ最モ廣ク分布スル 小喬木林五ヶ所  
 (Ba<sup>I</sup> Ba<sup>II</sup> Bd 各群叢) ハ二、九八〇本 七五、七五九<sup>3</sup> *m* ナリ  
 此ノ材積ハ上記何レノ林相ニモ劣ル 然シ本數ハ海岸  
 林ノ二倍ニ達シ 山岳原生林ヨリ稍々多キノミニシテ  
 概觀密叢テナスヨリ推セハ林相甚タ可トスル處ナルモ、  
 後述灌木ニ関スル事項ニ説明セル如ク 此種林相ハ樹高  
 最高一〇米未滿 八米前後ニシテ 灌木部（四米以下）  
 カ喬木部ニ比シ多キ幼林ナリ  
 種數ハ六一ニ八種 平均一八種アリ 林相別ニ見ルニ  
 海岸林 八、六種 原生林 二八種  
 準原生林 一九種 小喬木林 二一、四種ナリ  
 以上ヲ内地山岳林ニ比較スルニ（當局管内）  
 石門原生林ハ内地闊葉樹林ノ蓄積豊富ナルモノヨリハ幾  
 分少シ 此ノ理由ノ一トシテ小笠原ニテハ樹高一五一



一六米級ヲ最大トシ 二〇米ヲ越スハ極メテ寥々タルモ内地ニ於ケルハ一四一六米ノ中級ニ屬シ 最上層ハ二〇一三〇米ノ樹高ヲモツニヨル

準原生林 海岸林等本表ノ數値ハ内地普通喬木林ニ劣ラス 次ニ小喬木林 ( $Ba^I$   $Ba^II$  群叢) ハ内地なら幼林等ト蓄積等シキモ 中  $Ba$  群叢カ二三 $m$ 余ノ如キハ甚タシク低位林分トイハサルヘカラス 斯ク小笠原ニテハ普通林分中ノ最モ蓄積多キモノノ例カ以上ノ如ク七五 $m$ ヲ示スモノニシテ 中  $Ba$  群叢二三 $m$ ノ如キ末タ最悪林相ナラス 寧ロ小喬木林ノ常態ト見ラル

本數ハ内地普通林ハ一〇〇本以下 其老林セ〇〇一五〇〇本以下ナルニ比シ 小笠原林相ハ本數著シク多シ 樹種數ハ内地ノ少數部ヨリモ幾分少キ方ニシテ 内地ノ三〇一四〇種以上ニ比シテハ甚タ少數ナリ

## 二) 林木階ノ構成

イ AC たりはぼく、はすのはぎり群叢

標準地面積 〇、二七二二 ha

本林ハ父島ニ於ケル最優良海岸林ニシテ 優喬木階ニハてりはぼく 從喬木階ニハはすのはぎり、てりはぼくと主トス 五 $m$ 以上ノ本數ハてりはぼくヨリモはすのはぎり多シ 總計五種ヨリナリ 構成單調ナリ 灌木階ハてりはぼく大部ヲ占メ 是すのはぎり少シク混ス

優喬木材積ハ全材積ノ七三%ヲ占メ 其ノ内六五%ハてりはぼく 二〇%余カはすのはぎり 一〇%余カもまたまなニ占メラル



從喬木階ノ九。%近クハはすのはぎり 一。%余カテ  
 リはぼくヨリナル 然シナカラ其ノ本數ハ四。%てりは  
 ぼく 六。%はすのはぎりナリ

てりはぼく、はすのはぎり兩種ヲ比較スルニてりはぼ  
 くハ五米以下ニ甚タ本數多キモ 後者ハ同稚樹數ニ本  
 數多カラス 六一一五米迄ハてりはぼくヨリモはすのは  
 ぎりノ方多クナリ 一五米以上ハてりはぼく優勢ナル  
 、ももたまなハ五一八米 ニ七本 一五一二。米ニ八本  
 アリテ 中間ニハ之ヲ見ス

胸高直径ヨリ見シ大畧上記ノ如クてりはぼくハ一。一  
 六。Cmニ亘リ 各直径階ニ三本宛アルモ はすのはぎり  
 リハ一。一五。Cmノ間ニ存シ 徑級大ナル程本數減少ス  
 、ももたまなハ三。一六。Cmニアリ 然カモ一徑級ニ集  
 合スルコトナシ

總材積三九二 $m^3$

本數一、四二六本ヲ算フ

Ad群叢中ノ美林ニシテはすのはぎりハ九。%ニ及フ純  
 林ナリ

他もまたちばな、とろてつ、はまぼう混生ス はすの

はぎりハ五一一。米頃可ナリ多ク 一。米以上ニ於テ激

減シ 最高一三米ニ終ル

徑級ニツキテ見レハ一。一。二。Cm間ハ各階四。本内

外 二。一。三。Cm間ハ二四一一五本アリ 三。Cm以上

ハ漸次減少シ 五。Cmニ及フ

一ha當リ二。五一本 二一四 $m^3$ ヲ算ス

ハ Afてりはぼく、ちぎ群叢



標準地面積 一、〇〇三 ha

中硫黄島ニ於ケル最良林分ニシテ 樹種ハ六種ヨリナル  
 中てりばよくトちぎハ共ニ五〇%ニ及ヒ主木ヲナス  
 然シテ材積ハてりばよくハ〇% ちぎ一五% しろてつ  
 一〇%ヲ算ス

てりばよくハ胸高直径一四―九〇 Cm 中各階均等ニ  
 分布ス ちぎハ一〇―二四 Cm 間ハ三〇―二五本 二六  
 一五〇 Cm ハ一〇本以下ナリ  
 本數一ha當リ五四五本ニシテ甚タ少數ナルモ 材積  
 三四三<sup>3</sup>m<sup>3</sup>ニ達ス

二 <sup>I</sup>Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢

基準組成區

(補遺)

同一林分内ニニヶ所調査ス  
 父島ニ於ケル優良林分ナリ

第一號地 標準地面積 〇、二五〇〇 ha

こぶがし(一ニ四)、ひめつばき(一三ハ)  
 ねずみもち(一五九)、本麻黄 (ハ一造林木)  
 テ主ナルモノナリ 然シ以上ノ内ねずみもちハ細木ナル  
 タメ材積多カラス

材積ハひめつばき、びろー、木麻黄、こぶがしヲ主トス  
 樹高ハ木麻黄カ一四米ニ及ヒ最モ高ク 天然木ハ一〇米  
 テ以テ最高トシ 普通高部ハ八米ナリ

木麻黄ハ六一ハ米頃最モ本數多ク 天然木ハ五mニ最  
 多部アリ 一部六mニ本數多キ樹種アリ  
 胸高直径ノ限界ハひめつばき五〇 Cm びろー二六 Cm  
 木麻黄、こぶがし、ちぎ、もくたちばな等ニ〇 Cmニ及フ



テ大木ノ部トス

一ha當り三、三五二本ニシテ八五m<sup>3</sup>余り蓄積ヲ有ス

## 第二號地

標準地面積 〇、二五〇。〇ha

本地ハ四cm以上ヲ測ル ひめつばき、あかてつ、こぶがし、丸八等ヲ主ナルモノトシ ha當り四、七ニハ本一七五m<sup>3</sup>アリ

材積可ナリ多キ如キモ測樹法ヲ異ニスルニヨリ 正確ハ他ノ例ト比較シ難シ

ホ

Ba<sup>6</sup>びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢  
あかてつ、いすのき區

標準地面積 〇、一八〇。一ha

本林林交島ニ於テハ普通以下ノ林相ナリ

(欄補納)

樹高四米級ニ最モ本數ク五米以上ニ及フハ上層ノ一部ニ限ラレ數種ニ過キス 一ha當り一三、七〇。〇本(ニ米以上)ニシテ内喬木ハ一〇%餘ニ一、五七一本ヲ算ヘ 材積モ亦灌木階ニ三m<sup>3</sup> 喬木階ニ三m<sup>3</sup>ヲ算シ 灌木階ノ方多シ 喬木ハちぎ、ひめつばき、いすのき、あぶろーど、しやりんばい、くろてつ等本數多クシテ 材積ヨリ見レハひめつばき、ちぎ、あぶろーど、いすのき、あかてつ、しまたいみんたちばな、たこのき等ヲ主ナルモノトス 而シテ灌木階ヲ合スレハ あかてつ、いすのきハ他種ニ比シ一段本數多シ 構成狀態ヨリ見レハ 喬木林相ニ至ル間ノ一時的植生ナリト認メラルヘシ

へ

Bbもくたちばな、うどのき群叢

## 第一號地

標準地面積 〇、一五〇。二ha



最高樹高ハうどのきニ於テ一五米ヲ越スモノアルモ  
 しろてつ、やろーど以下殆ント一〇ー一米ヲ最高トハ  
 、五米以上喬木階本數ハ四九六本ニシテ 中もくたちば  
 な六〇% うどのき一五%ヲ占ム

材積ハ反對ニうどのき六〇% もくたちばな二〇%弱  
 トナル うどのき、もくたちばな兩種ヲ比較スルニ樹高  
 階ニ於テハ最高限ノ範圍低ヤタメ 本數分配ニハ顯著ナ  
 ル差異ヲ認メ難シ

胸高直径ヲ見ルニもくたちばなハ遙カニ低階ニテ本數  
 多ク一〇ー三〇Cm間ニ於テハ三〇ー一〇本以下ニ減  
 シ漸ク三〇Cmニ達スル状態ナルモ うどのきハ最低階  
 ヨリ五〇ー六〇Cmノ最大級ニ至ル迄各階四、五本宛  
 平等ニ分配ス

一ha當リ三三〇〇本 三三五七m<sup>3</sup>ノ材積ヲ見ル密林  
 ナリ

(標準地)

第二號地

面積

〇・一七七五ha

本標地ハ極大高カ漸ク一五米ナルハ 第一號地ニ同シ  
 キモ一般高限ハ若干増シ 一ニ一三米ニ達ス 五米以  
 上ノ喬木本數ハ四九〇〇本ニシテ第一號地ニ比シ二〇%  
 弱増加スルモ 材積ハ三二七・五m<sup>3</sup>ト五%程減少ヲ見ル  
 本數ハもくたちばな最モ多ク七〇%餘 うどのき五%  
 餘ヲ占ム

材積ハもくたちばな四〇%弱 うどのき二〇%弱 之  
 ニ次テむくろじ、はつばき、くろてつ等五・六%ニ達セリ  
 樹高階ニ對スルうどのき、もくたちばなノ本數配置ハ  
 第一號地ニ準スルモ 本林ニ於テハうどのき胸高直径最  
 大五〇Cm もくたちばなハ三〇Cmニシテ 其本數ハ二〇  
 Cm迄ニ本數増加ノ傾向アリ



第三號地

標準地面積 〇・八三一七 ha

本林ハ石門山ニ於ケル最優林分ニシテ 第一號、第二號地ト異ナリ 普通高限一四米ニ達シ數種ハ一八一一九米ニ達ス 一五米以上ノ優喬木本數ハ五六本内 ちぎカハ〇%ヲ占ム

從喬木階ハ二一一九本ニシテもくたちばなセ〇% どのきセ% ばちようじ九%カ主ナル種類ナリ

材積ハ優喬木階ハ全材積ノ二〇%未滿ナリ 從喬木階中ノ優位種ハうどのき五〇%近クアリ もくたちばな二〇%餘 ばちやうじ一〇%ヲ見ル

主要四種ノ胸高直径階ニ對スル本數配分ヲ見ルニもくたちばなハ最低階ニ本數増シ三四Cmヲ最大徑トス ばちようじモ亦もくたちばなニ似テ最大徑五〇Cm近ク、タメニ各階本數ハ低階ニ於テ増加スルカ もくたちばな程顯著ナラス

(補遺)

うどのきハ一〇一四Cmニテ一四Cm以下カ若干本數多キモ夫以上ハ各階ニ平等ニ二三本宛分布ス ちぎハうどのきニ似ル 但シ最高限六〇Cmトナル 一「ヘクター」當リ二六一〇本 四〇ハCmノ多キニ達ス 左ニ Bb 第一號 第二號 第三號地ノ三ヶ所及近似植生ヲ比較一覽スルニ

Bb 群叢及 Bc Be 5 地比較

第19表

調査地	本数	材積	平均樹高 (2米以上)	最大樹高	最大直径	備考
第一號地	3303	335.7	8.2	16	130	
同地第三號地ニ對スル比率	1.36	0.82	0.88	0.80	0.92	Bb 群叢
第二號地	4918	327.5	7.3	15	76	
同地第三號地ニ對スル比率	1.88	0.80	0.78	0.75	0.54	



第三號地	2615	408.1	9.3	20	142	比較基準
Bc 同地Bb第三號 地ニ対スル比率	5079	298.1	7.1	15	46	
Bc 同地Bb第三號 地ニ対スル比率	194	0.73	0.76	0.75	0.32	
Bc 同地Bb第三號 地ニ対スル比率	5549	141.9	6.2	12	42	
Bc 同地Bb第三號 地ニ対スル比率	212	0.35	0.67	0.60	0.30	

右ノ表ニ據レハ Bb 群叢ニテハ

平均樹高 最大樹高及最大直径ト材積トノ間ニハ正ノ相  
関關係成立シ 本數ハ逆ニ多キ程材積劣ル傾向アリ  
而シテ此關係ハ石門山森林ノ一部タル Bc Be 兩群叢  
ニモ適用セラル

ト Bc もくたちばな群叢

標準地面積 0.2030 ha

(欄橋納)

本林ノ最大樹高ハ一三一五米ナリ もくたちばな  
九〇%ヲ占メ 之ニ次キせきもんのみ、をがさはらばち  
うじニ一三%ヲ占ム

然テ材積ハもくたちばな八〇%弱ヲ主トシ 之ニばち  
やうじセ%ヲ混ス もくたちばなハ低級種本數多ク三六  
Cmニ及フ ばちやうじハ四〇Cmニ及ヒ 各階毎本數ハ  
平均ニ配布ス

之のき、しまむらさき、ちぎ等ハ中級以上ニ限ラル樹種  
ナリ

一相當り五〇セ九本 材積ハ二九八m<sup>3</sup>アリ

チ Bd もくたちばな、やろーど群叢

第一號地 弟島 面積 0.1975 ha



本林中造林「木麻黄」ハ一五米ニ達スルモ天然木ハ  
九一〇米ヲ最高限トスル小喬木ト見ラルヘシ  
胸高直径モ二〇Cm以下ヲ普通トシ びろー、ひめつば  
きニ限り二〇一三〇Cmニ達ス  
五米以上ノ本數ハもくたちばな三五% ひめつばき、  
やろーど等カー〇%ヲ超越ス  
材積ハもくたちばな、ひめつばき、びろー各二〇%余  
やろーど、しやりんばい約一〇%ヲ占ム  
一ha當リ三〇七三本 六〇 $m^3$ ニシテ未タ幼林ナリ  
灌木本數ハ喬木ヨリ多ク四三八〇本ヲ算フ(材積一三 $m^3$   
餘)

第二號地 向島 面積 〇・一八五一ha

最高樹高一〇米 普通高限六一七米ナリ  
胸高直径モやろーど、はつばき、びろーノ三種ハ二〇Cm

(樹種別)

ニ達ス 五米以上四〇四本 内やろーど五〇% 之ニ次  
キしやりんばい、しろてつ各一〇%ヲ占ム  
材積ハやろーど六〇%ヲ占メ其他一〇%以上ニ達スル  
モノナシ  
一ha當リ二一八三本 三四五 $m^3$ ニシテ 材積尠キコト  
全標準地中 文島 Ba 群叢ニ次キ下ヨリ第二位ニアリ  
第一號地ニ比シもくたちばなへ全欠ニひめつばき、び  
ろー少ク しやりんばい、しろてつ増加シやろーどハ著  
シク増シ過半ヲ占ムルニ至リ 本數、材積共ニ七〇%ニ  
當ル

リ Be もくたちばな、しやりんばい群叢

標準地面積 〇・一一七五

本林ニテハ一、二一〇米ヲ越スモノアルモ多ク九米ヲ



以テ最高限トシ 中六米ヲ最高トスル樹種少カラス  
 胸高直径ノ限界ハ三。一四。Cmニ達ス  
 五米以上ノ本數ハ六ニ五本 中もくたちばな六。% し  
 ましやりんばい、しろてつ一。%ニ近シ  
 材積ヨリスレハもくたちばな五。% しやりんばい、  
 びろー一。%ニ近シ

ha當り五、五四九本 一四一、九m<sup>3</sup>アリ

### 三、 灌木階ニ關スル調査

第20表

群叢	島名	面積	灌木階		林木階		灌木階	
			種數	本數	種數	本數	材積	材積

A c	父島	0.2722	9	6852	8	1426	392	7.968
A d	母島	0.3135	15	2571	12	2051	214	7.298
A f	中疏島	0.0030			6	545	343	
B a <sup>I</sup>	父島	0.2500	28	6756	21	3352	86	23.144
"	"	0.2500			32	4728	175	
B a <sup>II</sup>	"	0.1801	30	12182	19	1571	23	31.943
B b	母島	0.1502	17	3442	16	3302	336	8.255
"	"	0.1775	18	4265	21	4918	328	6.276
"	"	0.8317	19	1944	28	2615	407	3.758
B c	"	0.2030	13	5187	16	5079	298	8.182
B d	弟島	0.1975	14	4380	18	3068	60	13.042
B d	向島	0.1851	18	7223	17	2183	35	18.536
B e	母島	0.1175	18	6451	20	5549	142	27.072
平均			18.1	5568.4	18	3107	218	14.134



第21表

群 叢	直 徑 級					樹 高 級	
	總本數	2cm —6	8 —10	12 —20	22 —30	32 —40	2m 3 4
Ac 父島	6852	6819	22	11			3461 2597 794
Ad 母島	2571	2415	108	48			1126 906 539
Ba <sup>I</sup> 父島	6756	6456	204	88	8		1980 2616 2160
Ba <sup>II</sup> "	12182	11349	755	78			5286 2920 3976
Bb 母島	3442	3316	107	13	6		1072 1431 939
Bb "	4265	4242	23				1994 1251 1020
Bb "	1944	1914	16	14			825 678 441
Bc "	5187	5143	39	5		9314	2882 1305 1000
Bb 弟島	4380	3975	116	41	25	223	1276 1408 1696
Bb 向島	7223	6822	58	43			2420 2447 2356
Bc 母島	6451	5957	332	85	68	9	2102 2416 1932

(柳橋村)

← 本 數 ・ 種 數

一ヶ所ノ灌木調査ノ平均ハ五五六八本 一八種トナ  
リ 林木階(五米以上)一八種 三一〇七本ニ比シ種  
數ハ同數 本數ハ七九・二%ノ増加ヲ見ル 最少ハ母島ノ  
Adはすのばざり群叢ノ二五七一本 最多ハ父島<sup>II</sup>Ba  
群叢あかてつ、しやりんばい區ノ一二・〇〇〇本餘  
ニシテ四七・四一一・〇ノ割合ヲ示ス

灌木層繁多ノ植生ハ海岸林中ノAcてりはばく、は  
すのばざり群叢 山岳林ニテハ Ba<sup>I</sup> — Ba<sup>II</sup> Bd Be  
群叢等ノ小喬木林ナリ

Bd — Bc群叢ノ如キ原生林ニ近似セル林相ニ於テハ、  
林木階、灌木階同數ナルカ 林木階超過ス 中最モ林木  
階比率大ナル Bb第三號地原生林ハ 灌木階ニ比シ三



四、五%、超過ヲ見ル

然共材積ハ相當リ三七五八 $m^3$ ——三一、九四三 $m^3$ ノ間ニアリ 平均一四、一三四 $m^3$ ニ過キス 其材積多キハ小喬木林ニ見ラレ 同林相ニ於テハ林木階材積ニ對シ二〇——一〇〇%餘ヲ占ム

即チ $Ba$ 區ハ林木階二三 $m^3$  灌木階ハ三一 $m^3$ 餘ニシテ約四〇%ノ超過ヲ見ル 之ニ反シ喬木植生ニ於ケル灌木階ノ材積ハ 林木階材積ニ比シ 少キハ一一二%ニ過キス 海岸林又喬木林ニ類シテ二一三%ニ當ル

灌木階ニ就テハ内地山岳林ニ調査尠ク 適當ノ比較例ヲ求ムルコト困難ナルモ二、三ノ調査ヲ引用比較スルニ

第22表

總本數	各階本數百分率			全材積
	優喬木	從喬木	灌木	

房總方面調査區						
Aa. たぶ、とべら 群叢	4889	21	5	ニミ以上	74	294,886
カシ類、ミウまつ、モチ Cc. おかまつ、こなり群叢一號	4355	4	9	"	87	586,495
Ca. 全上 幼林 二號	18377		22	78	"	122,522
妙高戸隠山系 40米平方				一米以上		
標準地 14例平均	1012	15	202	79.5		
越後村上地方 40米平方				"		
標準地 8例平均	2041	14	13.2	18.95		

(續前表)

房總地方ノ例ハ小笠原地方以上ニ 灌木階優勢ニシテ全本數ノ八〇%ノ本數ヲモテ 林木階ノ四倍ニ當ル 妙高 村上兩地方亦 八〇—九〇%ニ當ル………(但シ兩地方ハ一米以上測定)

## 二) 灌木階ノ構成

本階ハ別表ノ如ク胸高直径二—六 $cm$ ノ間ニ九〇%以上ヲ占メ 八 $cm$ 以上ノモノハ極メテ僅ナリ



樹高ヨリ見レハ二、三、四米ニ對スル本數比ハ三、二、一ノ割合ヲナスモノ多キモ（Ac、Ad、Bb一號、Bb二號、Bb三號、Bc各群叢）中ニハ各階トモ同數ナルモノアリ（Ba<sup>I</sup> Ba<sup>I</sup> Bd<sup>I</sup>（向島） Be群叢） Ba群叢ハ三、一、一、二ノ如ク、四米ニ於テ本數増加シ Bd<sup>I</sup> 弟島ニテハ漸次高階ヲ上ルニ隨ヒ本數増加スル傾向ヲ示ス コノ後例ハ次第ニ發育シツツアル喬木性樹林ノ途中相期ヲ示ス  
以上群叢別ニ樹種ノ關係ヲ見ルニ

Ac てりはばく、はすのはぎり群叢

てりはばく九〇% はすのはぎり一〇%等ヨリナリ  
後者ハ比較的三米一四米ノ高級ノモノ多シ  
本數稍々多キモ種數ハ九種ニシテ平均ノ半數ナリ

Ad はすのはぎり群叢

（柳橋納）

はすのはぎり六五% もくたちばな一五%ヲ主ナルモノトス はすのはぎりハ二一四Cm級ノモノ多ク 中ニ大ナルモノニ〇Cmニ達ス  
總計一五種 ニ五七一本ニシテ共ニ平均ヨリ少シ

Ba<sup>I</sup> びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢

### 基準組成區

本林ニテハ特ニ夥多ナル樹種ヲ見ス 一〇%以上ノ種類ヲ掲クルニくろてつ、こぶがし、あかてつ、ねずみもちノ四種アリ 中あかてつハ二〇%ニ達ス 種類ハ最も多クニ八種ヲ算ス

本數六、七。〇本餘ニシテ亦多キ方ニ屬ス

本林ノ喬木階主木ハひめつばき、こぶがし、ねずみもち等ニシテ 其内灌木階ニハこぶがし、ねずみもち等カ多生スルモひめつばきは僅カニ四%ヲ占ムルニ過キス



Ba<sup>II</sup> あかてつ、いすのき優勢方區

本林ハ又前者 Ba<sup>I</sup>ニ酷似シ灌木種數 本數 材積多キ部ニ屬シ 其最極端ナルモノナリ

一〇%以上ノモノハあかてつ、いすのき、しやりんばい、ねずみもちノ四種ヲ數へ 中あかてつカ最も多ク 二五%許リアリ

喬木階主木ト對照スルニ主木ニ多キちぎ、ひめつばき、あぶろーど、くろてつハ減少シ 右記ノ如ク あかてつ以下三種ノ繁生著シ

灌木本數、種數最多ニシテ 其材積 喬木材積ヲ凌駕ス 即チ共ニ平均ノ二倍餘ニ當ルヲ知ル

Bb もくたちばな、うどのき群叢

第一號地

(柳橋納)

本林ノ材積ハもくたちばなハ〇%ヲ占メ 次ノうどのきハ一〇%ニ過キス 之ヲ本數比率ニ比較スルニ 喬木本數ヨリモもくたちばなハ二〇%増シ うどのきハ反對ニ五%ノ減少ヲ見ル

總種數ハ一七種ニシテ少カラサルモ 本數ハ可ナリ少キ方ナリ (三三。二本)

第二號地

本林モ亦前者ニ類シもくたちばなハ六〇%ヲ占メ 第一位ナルモ 次キハしまぎよくしんくわ、くろてつ、うどのき(以上ハ一〇%以上)ノ順ニシテ うどのきハ減少ス 喬木樹種%ニ比シもくたちばなハ一〇%ヲ減少シしまぎよくしんくわ、くろてつノ發展著シキヲ見ルヘシ 本數 種數共ニ平均狀態ニ近似ス 材積ハ喬木材積ノ二%ニ過キスシテ 次ノ第三號地ト



共ニ最少ノモノナリ

### 第三號地

本林ノ灌木ハ一九種ニ上リ種類多キモ其本數ハ二〇〇本ニ未タスシテ甚タ少シ其材積亦最少ナリ主ナル種類ハもくたちばな六〇%ヲ占メ其他ハ一〇%ニ達スルモノナクうどのき八%ヲ占メ第二位ニアリ共ニ喬木主要種ト同様ナリ

Bc もくたちばな群叢

第一位もくたちばなカ八五%ヲ占メしまぎよくしんとわセ%ニシテ第二位ニアリ

喬木階ト比較スルニ上ノ主要種ノ比率ハ若干低下ス總種ハ一三種ニシテ少ク本數ハ普通ナリ

Bd もくたちばな、やろーど群叢

### 第一號地 弟島

本林ハ一四種 四三八〇本ノ灌木ヲモテ 普通ヨリ尠シ もくたちばなハ七〇% やろーどカー〇%ヲ主ナルモノトス 之ヲ喬木階ニ比較スレハ もくたちばなハ二倍トナリ 又喬木階ニ著シキひめつばきハ殆ント數ヲルニ足ラス 漸次もくたちばなニ變遷スルノ傾向察知セラル 未タ幼林ナルタメ 灌木材積ハ喬木材積ノ二〇%ノ大多數ニ當ル

### 第二號地 向島

本林灌木ハやろーど(二〇%) やぶにくけい(三〇%) しやりんばい(二五%)ヲ主トス 本數ハ七二〇〇本ヲ數ヘ 多キコト Ba區ニツキテ第一位ナリ



喬木階ト比較スルニヤローどハ五〇%ヨリ二〇%餘ニ低下シヤぶにくげい、くろてつハ著シク増加スヤぶにくげいハ寧ろ灌木階ニ多キ性アルニヨル右ノ主灌木ハ二—三—四米ニ略々同本數配置セラル而シテ群叢ヲ標記セルもくたちばなハ喬木階ニ引續キ灌木階ニモ現ハレス（特殊植ノ位置ヲ占ム）

Be もくたちばな、しやりんばい群叢

本灌木ハ種及本數共ニ多シ主ナルモノハ九〇%ヲ占ムルもくたちばなニシテ此種ハ喬木階ニ於テハ遙カニ尠ク六〇%ニ當ル又しやりんばい、しろてつ等ハ喬木階ニ於テ一〇%以上ノ種類ナルモ灌木階ニテ僅カニ一三%ニ凋落ス

即チ漸次もくたちばなノ勢力増大ノ傾向アルヲ認ム

#### 四、地表草類ニ關スル調査

一〇米平方標準地ニヨル地表草類階（一米以下）ニ關スル調査ハ海岸林内四ヶ所山岳林一〇ヶ所選定ス種數平均ハ一八、六種（内草本ハ四、八二種ニ過キス）本數ハ三三四一本（内草本ハ二七本）アリ最多、最少ノ間ニハ一七〇、一一ノ割合ヲ保ツ同シク種數ハ四六一、〇ノ關係ニアリ

海岸林四ヶ所平均一一種五〇〇本ニシテ遙カニ山岳林ニ及ハス

山岳林中Bbもくたちばな、うどのき群叢Bdもくたちばな、ヤローど群叢ハ平均以下ナリ但シ最大密度

ヲ有スルモノ亦Bb群叢中ニアリテ三三、〇〇〇本ニ達ス斯ノ如キ夥多ノ例ヲ内地山岳林ニ求ムレハ一〇、〇〇〇本ヲ超過セシ次ノ數例ニ過キス



阿武隈地方ノあかまつ林（Db群叢）日光地方高山林こめつが林（Fa群叢）ノまいづるさう叢生地 同地方みづなら林（Bg群叢）くまざさ叢生地ニシテ最後ノモノハ三一〇〇〇本ヲ算セリ

第23表

群 叢	種 数			本 数			百 分 率			
	草 本	木 本	全	草 木	木 本	全	種 数	木 本	草 本	木 本
Ac <sup>1</sup>		10	10		893	693		100		100
Ac <sup>2</sup>	1	6	7	2	193	195	140	86.0	1.0	99.0
Ad	6	11	17	129	184	313	35.0	65.0	41.0	59.0
Af	5	4	9	743	69	812	56.0	44.0	92.0	8.0
Ba <sup>1</sup>	6	14	20	225	151	376	30.0	70.0	60.0	40.0
" <sup>2</sup>	6	18	24	295	238	533	25.0	75.0	55.0	45.0

(原簿)

各群叢第一種ノ本数百分率ハ

" <sup>ハ</sup>	7	16	23	262	145	407	290	71.0	64.0	36.0
Ba <sup>6</sup>	7	25	32	410	460	870	220	78.0	47.0	53.0
Bb-1號地	3	20	23	12	1521	1533	13.0	87.0	0.8	99.2
Bb=2號地	7	14	21	37	33095	33132	33.0	67.0	0.1	99.9
Bb=3號地	1	13	14	86	519	605	7.0	93.0	14.0	86.0
Bc	10	19	29	788	443	1231	34.0	66.0	64.0	36.0
Bd	4	9	13	115	153	268	31.0	69.0	43.0	57.0
Be	4	13	17	55	5748	5803	24.0	76.0	0.9	99.1
平均	4.8	13.8	18.6	227	3114	334	30.0	70.0	7.0	93.0

Ba<sup>I</sup> Ba<sup>I</sup> Ad Ac  
ちちみざさ (三〇) たましだ (三〇)  
たましだ、しらたまかづら (二〇)  
はすのはざり (五〇)  
おほたにあたり (八〇)



Ad はすのはぎり林 Bb もくたちばな (二五)  
内一部ニテ 第一位とろてつ 稚樹セ。ー二〇%ナルハ  
下層部ニハ本種カ最主要木ニアラス  
草本ノ著シキ種類ハ羊齒類及ちぢみざさ等ナリ

Ba<sup>6</sup> もくにんなきりすげ (二五)  
Bb<sup>6</sup> とろてつ (七〇)  
Bb<sup>6</sup> とろてつ (三〇)  
Bd きんもうおので(四〇)  
Be もくたちばな (九〇)  
Bc もくのばりしだ (二〇)  
Bb もくたちばな (一〇〇)  
Bb もくたちばな林ニテ  
ハ主木稚樹 九〇%ー一〇〇%ニ達スルモノアリ 少キ  
ハ Bc 群叢ニ於ケル如キニ〇%ニ過キサルモノ存ス

一) 種別 常現度

Ac テリハボク、ハスノハギリ群叢

イ) 總計 一〇種 六九三本

種名	本数	常現度	種名	本数	常現度
タマナ	五九四	五	ハスノハギリ	四五	四
モクセイ	一五	二	モクタマナ	六	一
ヤブニツケイ	一	一	シロダモ	一	一
モクタチバナ	三	一	クロテツ	三	一

Ac テリハボク、ハスノハギリ群叢

ロ) 總計 七種 一九五本

種名	本数	常現度	種名	本数	常現度
ハスノハギリ	一〇	五	タマナ	七	三
モクタマナ	一	一	モクタチバナ	五	一
ハマチモト	二	一	ヤブニツケイ	一	一

Ad ハスノハギリ群叢



## 總計 一七種

三一三本

クロテツ	六九	五	シロテツ	三九	四	ソクズ	五四	三
オホタニワタリ	三三	三	ハダシダ	一九	二	トキハイヌビハ	九	二
オニヤブソテツ	四	一	ハスノハギリ	七	一	モクタチバナ	一	一
センニンソウ	二	一	コウゾリナ	一	一	モモタマナ	一	一
ネヅミモチ	一	一	ビロウ	七	一	オホバシムラサキ	四	一
ムニンホウズキ	三	一						

Af テリハボク、チギ群叢

## 總計 九種

八一二本

オホタニワタリ	六六	五	テリハボク	六	五	タマシダ	九	四
ハダシダ	三	二	タコノギ	四	一	シロテツ	四	一
マツバラ	四	一	チギ	一	一	シダ	二	一

Ba<sup>I</sup> ビロー、タコノギ、クロテツ、シヤリンバイ群叢

## 基準組成區 1 總計 二〇種 三七六本

ムニンナキリスゲ	六九	五	タマシダ	七五	五	シラタマカズラ	七五	五
エダウチチゲミササ	四	二	ヒメツバキ	一	二	フサシダ	一	二
シヤリンバイ	一	二	トキハサルトリイハラ	八	一	ケホシダ	二	一
コブガシ	一	一	ムバヤブニツケイ	四	一	ネヅミモチ	一	一
テイカカズラ	一八	一	モクタチバナ	二	一	オホバシムラサキ	一	一
アカテツ	三	一	ビロ	三	一	キンマウヅノデ	二七	一
不明	一	一	クロテツ	二	一			

Ba<sup>I</sup> ビロー、タコノギ、クロテツ、シヤリンバイ群叢

## 基準組成區 2 總計 二四種 五三三本

テイカカズラ	一〇五	五	エダウチチゲミササ	一三九	四	ムニンナキリスゲ	七七	四
シラタマカズラ	六四	三	タマシダ	六七	三	シヤリンバイ	二三	三
マルバヤブニクケイ	一〇	二	クロテツ	九	二	モクセイ	一	一
オホバシムラサキ	三	一	フサシダ	三	一	トキハイヌビハ	一	一



モチノキ	ニ	一	コブガシ	一	一	モクタチバナ	九	一
マツバラシ	五	一	ビロ	一	一	イスノキ	一	一
キンマウヅノデ	四	一	アチガシ	三	一	アカテツ	一	一
ネズミモチ	二	一	ヤロード	一	一	廣葉杉	一	一

<sup>I</sup>Ba

ビロー、タコノキ、クロテツ、シヤリンバイ群叢

基準組成區ハ總計ニ三種 四〇七本

ムニンナキリスゲ	六	三	四	タマシダ	一	六	四	シラタマカズラ	五	二	四
ビロウ	三	二	三	シヤリンバイ	一	七	三	エダタチヂミザサ	二	二	二
ヒメツバキ	二	一	一	オホバシマムラサキ	八	一	一	アチガシ	五	一	一
マルバヤブニクケイ	六	一	一	イチケビ	四	一	一	アプロード	二	一	一
テイカカズラ	三	一	一	モチノキ	二	一	一	ネズミモチ	二	一	一
オノタニワタリ	一	一	一	フサシダ	九	一	一	クロテツ	四	一	一
キンマウヅノデ	五	〇	一	モクタチバナ	三	一	一	マツバラシ	一	一	一
アカテツ	二	一	一	タコノキ	一	一	一				

テイカカズラ	七	二	五	アカテツ	六	三	五	ムニンナキリスゲ	一	九	六	五
シヤリンバイ	二	八	四	マルバイスノキ	二	五	四	フサシダ	四	五	四	
ムニンタツナミサウ	九	六	四	シラタマカズラ	六	一	三	オホバシマムラサキ	二	二	三	
アチガシ	一	四	三	マツバラシ	八	二	二	ムニンアチガンピ	八	二		
ヒメツバキ	五	二	二	タコノキ	一	二	二	イシカグマ	一	一	一	
クリハラン	一	一	一	トキハイヌビハ	一	一	一	シマギョクシンクワ	五	一	一	
マルバヤブニクケイ	三	一	一	シマホルトノキ	三	一	一	シロテツ	五	一	一	
シロトベラ	三	一	一	クロテツ	二	一	一	トキハサルトリイバラ	四	一	一	
ムニンシロダモ	五	一	一	ビロ	二	一	一	モクセイ	二	一	一	
イチケビ	一	一	一	オガサハラシスラン	三	一	一	ネヅミモチ	三	一	一	
不明	六	三	一	ムニンイヌツゲ	二	一	一					

<sup>II</sup>Ba

ビロー、タコノキ、クロテツ、シヤリンバイ群叢

アカテツ、イスノキ優勢力區

總計 三二種

八七〇本



Bb

モクタチバナ、ウドノキ群叢

一號地

總計 二三種

一五三三本

モクタチバナ	ニニ	五	クロテツ	三九	五	ヤロード	三二	三
マルバヤブニクケイ	八	二	セキモンノキ	一四	二	オバフウトウカヅラ	八	二
シロテツ	一七	二	シヤリンバイ	六	二	チクセツラン	七	一
オハタニワタリ	四	一	シマギョクシンクワ	二	一	トキハイヌビハ	五	一
オガサ <sup>サ</sup> ビロー	四	一	マツバラ	一	一	ムニンヤツデ	一	一
オバシラタマカヅラ	二	一	ワダンノキ	一	一	オバタイカカヅラ	一	一
オハマイチゲク	一	一	マサキフジ	三	一	ウドノキ	二	一
ムニンビヤクダン	一	一	ハツバキ	三	一			

Bb

モクタチバナ、ウドノキ群叢

二號地

總計 二一種

三三、一三二本

オホバタイカカヅラ	四三	五	モクタチバナ	三三	五	クロテツ	一三	三
ムニンシユスラン	一七	二	オハタニワタリ	三	二	シマギョクシンクワ	一〇	二
オガサ <sup>サ</sup> ラボチヤウジ	三	一	オバシラタカヅラ	三	一	シロテツ	五	一
トキハイヌビハ	四	一	セキモンノキ	六	一	マルバナハシログミ	一	一
ミヤマシケシダ	三	一	アチガシ	一	一	ムニンネヅミモチ	一	一
N. 〇 3	二	一	オバフウトウカヅラ	二	一	ムニンホ、ヅキ	一	一
イシカグマ	一	一	ケホシダ	二	一	マツバラ	二	一

Bb

モクタチバナ、ウドノキ群叢

三號地

總計 一四種

六〇五本

クロテツ	一七八	五	ムニンネヅミモチ	三四	四	ムニンシユスラン	八六	四
ハツバキ	四二	四	モクタチバナ	九七	四	オバタイカカヅラ	一〇三	四
ヤロード	二	三	シマギョクシンクワ	二	三	マルバヤブニクケイ	一四	二
アカテツ	一	一	ムクロゲ	五	一	オバシラタマカヅラ	一	一
シロテツ	一	一	△	一	一			



Bc

モクタチバナ、ウドノキ群叢

總計 二九種

一、二三一木

モクタチバナ	二九	二五	八丈シダ	一四〇	五	シロテツ	三四	四
クロテツ	六三	三	ミヤマシケシダ	九六	三	キノボリシダ	三〇	三
セキモンノキ	一〇	二	ケホシダ	二三	二	シマギョクシンクワ	九	二
ウドノキ	七	一	オ、タニワタリ	五	一	ムニンホボツキ	五	一
マルバヤブニクケイ	二	一	シマホルトノキ	五	一	N. 4 D	二	一
ムニンシユスラン	六	一	トキハイヌビハ	二	一	N. 4 A	四	一
イシカグマ	六	一	チガサ、ボチヤジ	三	一	N. 4 C	一	一
シマシヤリンバイ	一	一	N. 4 E	二	一	ハツバキ	一	一
マルバナハシログミ	四	一	アゼタウガラシ	一	一	ヘ	一	一
ムニンネズミモチ	二	一	アチガシ	一	一	ゴ	一	一

Bd

モクタチバナ、ヤロード群叢

モクタチバナ	五六	三	ムニンシロダモ	四六	三	キンマウヅノデ		
ネズミモチ	一六	二	八丈シダ	六	一	マルバヤブニクケイ		
ヤロード	八	一	エダウチヂミザサ	七	一	タマナ		
ヒロハハナヤスリ	二	一	タコノキ	六	一	クロテツ	一	一

總計 一三種

二六八本

Be

モクタチバナ、シヤリンバイ群叢

總計 一七種

五、八〇三本

モクタチバナ	五五	八	五	チガサハラビロ	六	四	オバフウトウカツラ	一三	七	四
クロテツ	一六	五	三	ムニンネズミモチ	八	三	ニ	イシカグマ	二六	二
シマシヤリンバイ	一〇	二	ニ	チヂミザサ	二〇	一	一	ケホシダ	二	一
アチガシ	二	一	一	ヤロード	四	一	一	シマギョクシンクワ	三	一
ホタニワタリ	七	一	一	オバシラタマカズス	五	一	一	マルバヤブニクケイ	一	一
タコノキ	一三	一	一	シロテツ	一	一				



二) 草木本ノ種數及本數歩合

草本種數百分率ハ〇一三四%ノ間 平均三〇%ニシテ  
 木本ハ著シク多ク平均七〇%(六六%一〇〇%)ヲ示  
 ス 然シテ此ノ數字ハ日本内地諸地方 山岳林ニ比シ  
 敢テ格段ニ多數ト見ラレス  
 本數%ハ草本平均七%(〇一九%) 木本九三%(  
 ハ一〇〇%)ニシテ 木本%ノ範圍ハ内地山岳林ニ其  
 例ヲ見ルモ 内地ニテハ本數五〇%ニ充サルモノ可ナリ  
 多ク 平均九三%ハ著シク多數ナリ  
 小笠原ニテ木本% 五〇%未滿ノ地ハおゝたにわたり  
 、たましだ等羊齒類ノ繁茂地ニ該當ス  
 草本(木本ハコノ逆)ノ種數平均ハ總種數ノ三〇%ニ

シテソノ本數カ七%ニ過キサルヲ以テ各地トモ本數率  
 減少ス 然シテ實地ハ Ac、Bb、Be 群叢ノ四ヶ  
 所ニテ激減セルノミニシテ 他ノ九ヶ所ハ何レモ多少宛  
 増加セルヲ見ル  
 之ヲ内地山岳地方ノ數例ニ比較スルニ左ノ如シ

各地地表草類階ニ於ケル木本率表

第24表

地方別	地方別平均			全種中	種數% (%)
	調査所數	全本數(100m <sup>2</sup> )	全種數	木本種數%	全本數%
小笠原	14	3341	18.6	70.0	93.0 (+) 23.0
阿武隈高原	34	3395	44.8	51.5	44.0 (-) 7.5
日光鬼怒川	13	6212	36.7	56.0	58.0 (+) 2.0
關東西部	12	3419	55.0	63.6	37.8 (-) 25.8



妙高戸隠	15	3160	34.1	57.9	69.7	(+)11.8
越後村上	8	3314	37.2	74.1	50.5	(-)23.6
平均		3807	37.7	62.2	58.8	

之ニヨレハ各地ヲ通シ木本種數ハ過半ヲ占メ 五一  
 七四% = アルヲ示ス 其ノ本數%ハ可ナリ減少シ三八%  
 一 九三%ノ間ニアリ 内地山岳林ニテハ 妙高戸隠山系  
 テ除キ七・五一二六%丈種數%ヨリ少シ  
 妙高戸隠山系カ除外例タル原因ハつばき、ねまがりだ  
 け密生地區カ多キコトニ歸セラル如シ  
 小笠原ハ木本ノ種數%大ニシテ 且ツ本數%ハ内地山  
 岳林ト異ナリ尚一層激増ノ傾向アリ  
<sup>I</sup>Ba びろー、たこのき、くろてつ、しやりんばい群叢  
 基準組成區中ニ調査シタルハ 第一號地ひめつばき多キ  
 地 第二號地「木麻黄」植栽地 第三號地びろー多キ所ニ

シテ 此ノ三者ヲ比較スルニ種數、本數ハ共ニ多カラス  
 第一號地ニテハなきりすぎ、たましだ、しらたまかづ  
 らカ三種常現種トナリ  
 第二號地ニテハていかかづら、ちぢみざさ、なきりす  
 げ常現種トナリ 特ニちぢみざさノ繁生カ注目セラル  
 第三號地ハ第一號地ト同シク三種常現種ナル  
 然シテ第二號地ニアリテモしらたまかづら、たましだハ  
 常現度3トナリ 又第一、三號地ニモちぢみざさ多ク之  
 テ以テ見レハ以上三調査地ハ極メテ相似タル地表草類型  
 テモツトイフヘシ  
 Acてりばばく、はすのはぎり群叢中 一號地ハてり  
 はばく多キ處 第二號地ハはすのはぎり多キ處ヲトル  
 前者ハ種數多ク 且ツ本數ハ第二號地ニ三倍ス  
 即チ小木密生地區(喬木、灌木階トモ)ニアタル 之ニ  
 反シ第二號地ハ地表草類階ノ疎生地ニシテ 斯ノ如キ密



度ノ差カ稚樹相ノ（てりはばくとはすのはざり）變化チ  
來セシモノナリ

### (三) 常現種

第25表

常現度別 群衆	常現度 (5)	常現度 (4)	計
A c	タマナ。	ハスノハギリ。 シヤリンバイ。	3
A c	ハスノハギリ。	タマナ。	2
A d	クロテツ。	シロテツ。	2
A f	オホタ=ワタリ。 テリハボク。	タマシダ。	3
B a'	ムニンナキリスダ。 シラタカヅラ。	エダウカケミササ。 ムニンナキリスダ。	3
B a'	タイカカヅラ。	ムニンナキリスダ。 タマシダ。	3
B a'	タイカカヅラ。	ムニンナキリスダ。 シラタカヅラ。	3
B a'	タイカカヅラ。アカテツ。 ムニンナキリスダ。	シヤリンバイ。カスバノキ。 フサシダ。ムニンナキリスダ。	7

(續前表)

第26表

常現度別 群衆	常現度 (5)	常現度 (4)	計
A c	テリハボク。		1
A c			
A d			
A f	オホタ=ワタリ。		1
B a'			
B a'			



Ba'			
Ba'		A=シナキリスゲ。	1
Bb	ノロチツ。	モクダバタ。	2
Bb	オホバチアカカヅラ。		2
Bb		ノロチツ。	1
Bc		モクダバタ。	1
Bd			
Be	モクダバタ。		1

一。〇。〇平方米調査ヲ小區分スルニ一米平方 即チ一。  
 〇。區分スル法ヲ探レハ常現種ハニ六表ノ如ク半數ノヶ所  
 ニ。然カモ一種 時ニ二種之ヲ見出スノミナリ  
 二米平方即チニ五區分法ニ從ヘハ各箇所ニ現ハレニ一  
 七種平均三種ノ常現種ヲ見出シ得 (ニ五表)  
 之ニヨレハ一米平方ニテハ各群叢共未タ 群叢最小面積

ニ達セサルモノニシテ 日本内地山岳林ト同様 四平方  
 米ノ領域ヲ以テ群叢構造ノ一單位面 即チ最小面積ニ近  
 キモノト認メラル

唯 Bb もくたちばな、うどのき群叢ノ一部ニテハ兩者  
 共ニもくたちばな、おぐばていかかづらニ種常現種トナ  
 リ 區劃カ擴大スルモ常現種ノ増加認メラレス  
 既ニ一平方米ニテ最小面積ヲ充タス 其處ハ草本合セ  
 テニ一種 總本數三三。〇。〇。本生シ一四ヶ所平均ノ密度  
 一。〇。倍ニ達ス

#### 四) 常現度級ニ對スル種數配分

常現度級一、二、三、四、五ニ對スル種數ノ關係ニ  
 ツキ「ラウンキール」ノ法則



$A \succ B \succ C \equiv D \succ E$     アリ  
 (1)    (2)    (3)    (4)    (5)

從來各地調査ニ際吟味スル所アリシカ    ソノ結果ハ大部分コノ法則ニ合致シ全般傾向トシテ此法則ヲ是認シ得タリ

嘗テ北海道野幌ニ於テ研究セル松江氏ハ同地方ニテハ  $A \succ B \succ C \succ D \succ E$  ノ型式ナリトイフ

小笠原ニテハ別表ノ如ク「ラウンキール」氏法則ニ從フハ一四ヶ所中僅カ數例ヲ認ムルニ過キス    平均ニ於テハ  $A \succ B \succ C \succ D \succ E$  型式ナリ    何レヲ見テモ單調ニ常現度高次トナルニ從ヒ遞減シ  $A \succ B \succ C \succ D \succ E$  型式ヲ示サス    B—D ノ間ニ於テ一旦%降ルテ常トス

群 叢	常現度	A (1)	B (2)	C (3)	D (4)	E (5)	合計種數
Ac		60.0	10.0		20.0	10.0	10
Ac		71.4			14.3	14.3	7
Ad		58.8	17.6	11.8	5.9	5.9	17
Af		55.6	11.1		11.1	22.2	9
Ba'		65.0	20.0		15.0		20
Ba'		66.7	8.3	12.5	8.3	4.2	24
Ba		73.9	4.4	8.7	13.0		23
Ba'		53.4	13.3	10.0	13.3	10.0	30
Bb		65.2	21.7	4.4		8.7	23
Bb		71.4	14.3	4.8		9.5	21
Bb		35.7	7.2	14.2	35.7	7.2	14
Bc		68.9	10.3	10.3	3.5	6.9	29
Bd		69.2	7.7	23.1			13

第27表



Be	58.8	17.6	5.9	11.8	5.9	17
平均	62.4	11.7	7.6	10.9	7.5	18.4

又最高次常現度 (5) = 於テ種數%大ニシテ 最低級  
 (1) = 於テ%少ナルハ等質安定 植物社會ナリトセラル  
 ルカ 小笠原ニテハ Af、Bb (三號地) 兩地ニ於テ特ニ  
 安定等質ニ近ク 次テ Ba、AC 群叢等 此傾向強ク 他  
 ハ之ニ反ス

既往調査例ニ比較スルニ (何レモ多数調査平均) 左ノ  
 如ク 小笠原ハ他ノ何レノ地方ニ比スルモ不安定、不等  
 質植生ト見ラル

唯シ北海道ニ比スルニ著シク等質化ス

第28表

	A (1)	B (2)	C (3)	D (4)	E (5)	樹種數	箇所
--	-------	-------	-------	-------	-------	-----	----

小笠原地方	62.4	11.7	7.6	10.9	7.5	18.4	14
越後村上地方	56.2	14.3	12.8	7.8	8.9	3.7	8
妙高戸隠山系	62.0	15.0	9.8	4.4	8.8	34.1	15
關東西部地方	60.6	17.2	9.3	5.8	7.1	54.3	12
日光鬼怒川地方	58.4	16.9	9.8	5.9	9.0	36.8	13
北海道 野幌	62.0	17.0	10.0	7.0	4.0		

## 五 摘要

一 各階ニ於ケル主木 從屬木ノ生態



樹種及全材材積%	優喬木%	從喬木%	灌木%	地表草類% (1) 常緑度
Ac	7	36.9	89.4	85.7(5) 36.5(4)
はすのはぎリ	14.3	60.3	7.7	2.0(1) 50.0(5)
Ad		83.0	63.9	0.3(1)
もくたちばな	1.1	5.1	14.9	7.4(5)
Af				0.1(1)
てりはぼく	81.1			0.1(1)
ち	16.6			0.1(1)
Ba <sup>I</sup> 號	29.1	16.5	4.0	2.9(1) 0.2(1)
こぶがし	9.2	14.8	11.4	0.1(1) 0.2(4) 7.9(3)
バ <sup>I</sup> ー	25.1	3.7	1.0	
Ba <sup>I</sup> 號	35.8			
ひめつばき	33.7			
あかてつ	3.1	5.7		
こぶがし	2.9	1.0		
B <sup>II</sup>	20.6	2.1	4.9	0.6(1)
ひめつばき				

	あかてつ	8.1	5.7	22.5	7.2(5)
	いすのき	12.0	10.0	18.0	2.9(4)
	しやりんばい	8.5	0.7	11.3	3.2(4)
Bb 號	もくたちばな	19.9	63.5	80.9	18.2(5)
	うどのき	57.4	14.3	11.6	0.1(1)
Bb 號	もくたちばな	40.0	71.5	63.3	98.4(5)
	うどのき	19.0	5.5	5.7	0.0(1)
Bb 號	もくたちばな	20.4	63.7	59.4	16.0(4)
	うどのき	33.2	7.0	9.2	
	はちやうじ	8.8	8.5	6.3	
Bc	もくたちばな	76.3	87.1	80.8	23.7(5)
	はちやうじ	6.7	3.5	2.2	2.4(1)
Bd 號	もくたちばな	23.3	33.1	65.2	6.0(1)
	ひめつばき	19.4	13.0	2.3	
	バ <sup>I</sup> ー	24.1	1.8	1.5	



	やろーど	13.0		15.7	11.2	3.1 (1)
Bd 二號	やろーど	50.0		50.2	21.8	
	しゃりんばい	5.4		16.9	22.5	
	やぶにくけい	7.9		8.2	22.8	
Be	もくたちばな	51.7		62.4	84.4	90.6 (5)
	しゃりんばい	6.2		8.7	1.6	0.2 (1)

(二) 標準地調査 = ヨル特徴植物

第30表

群叢	優喬木階	従喬木階	灌木階	地表草類階
Ac	てりはぼく	はすのはぎり、てりはぼく	てりはぼく、はすのはぎり	てりはぼく、はすのはぎり、しゃりんばい
Ad		はすのはぎり	はすのはぎり、もくたちばな	くろてつ、しろてつ

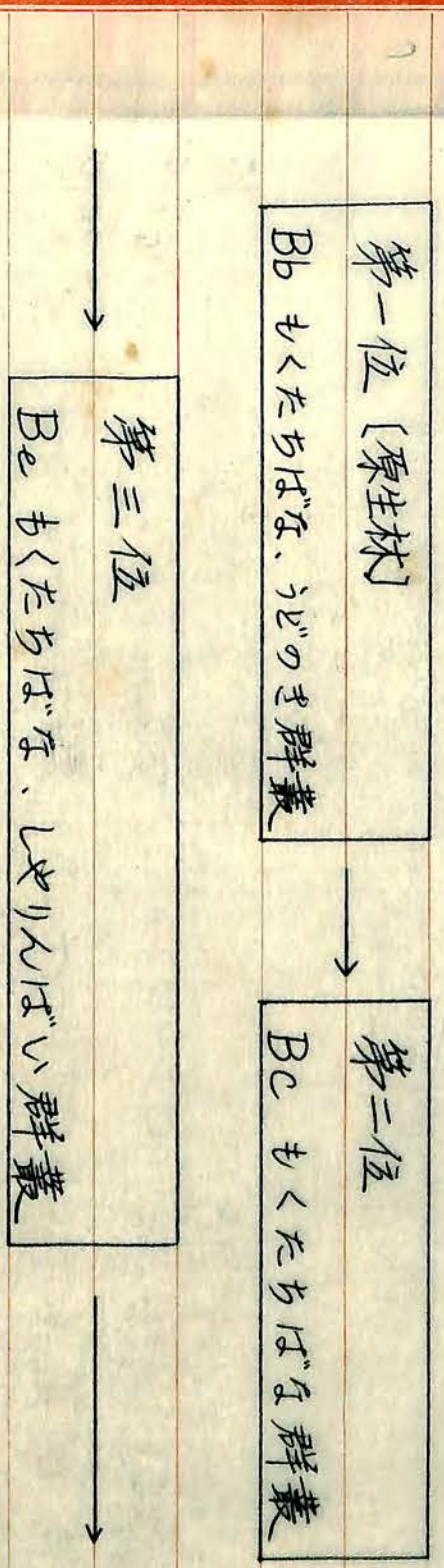
(標準地)

Af	てりはぼく	ちぎ		あいたにわたり、 てりはぼく、たました なきりすげ、ちぢみささ、 たました、しろたまかつら ていかかつら、あかてつ、 いすのさ、ふさした もくたちばな、くろてつ、 ていかかつら もくたちばな
Ba <sup>1</sup>		ひめつばき、ひカー こぶがし、	ねずみもち、あかてつ、 くろてつ、しゃりんばい	
Ba <sup>II</sup>		ちぎ、 ひめつばき		
Bb		もくたちばな、 うどのき、	もくたちばな	
Bc		もくたちばな		
Bd 二號		もくたちばな やろーど		
		やろーど やぶにくけい	やろーど、しゃりんばい、 やぶにくけい、	
Be		もくたちばな しゃりんばい	もくたちばな	もくたちばな



第五章 植生連続ニ關スル考察

各群叢分布ノ水濕 土壤條件及ニ 群叢相互間ノ位置 更ニ植生構成調査ヨリ考察シ 本島ニ於ケル植生連續ハ左ノ如クナルヲ推察セラル



(續前)

此所ニ掲ケサル Bf ちぎ、しろてつ群叢 Bg やつでひさかき、いわうとうきいちご兩群叢ハ硫黄島特産ニシテ又びろー純叢 Bj つるあだん群叢ハ極メテ限ラレタル地域ニ現ハル、植生ナリ Bk へごまゐるはち群叢モ亦同様ナリ

但シ本群叢モ北硫黄島ニテハ分布普通トス Bd もく



たちばな、やろーど群叢ハ  $Bc$  もくたちばな群叢或ハ  $Ba$  群叢中ニ現ルシタル部分的ノ特殊植生ニ列シセシメテ可ナリ

然シテ右ノ位相順位ト各島植生ヲ對照スルニ 賀島弟島ニハ第三位ノ  $Be$  もくたちばな、しやりんばい群叢迄現ハレ 兄島ニ於テハ第四位ノ  $Ba$  或ハ第二位ノ  $Be$  群叢迄指摘セラル

父島本島ハ僅少乍ラ第二位  $Bc$  もくたちばな群叢迄ヲ認め得

母島ニハ完全ニ全植生ヲ認めラレ 却テ第四位相以下ノ小喬木林 乾燥性小喬木ハ減少シ其ノ或物ハ痕跡ヲ認ムルカ缺如スルニ至ル

向島ニハ第四位相ヲ以テ最モ進歩的ナル植生トス即チ同島ハ兄、弟島ニ匹敵セル或ハ夫以上ノ後退位相ヲ示ス植生連續ニ關係アル諸因中土壤淺ク 岩石ニ富ミ

乾燥性環境ナレハ後退植生ヲ現ル等 本地方植生連續ハ地況トノ關係ニ甚タ密切ナルヲ認めラル

海岸林ニツキテハ前ニ概説セシ如ク  $Aa$  はまごころ群叢  $Ab$  くさどべら群叢  $Ag$  かいがんいちび群叢(

北硫黄産)ノ三群叢ハ  $Ac$   $Af$  喬木群叢ノ先行性ヲ

ナス  $Af$  テリはぼく、ちぎ群叢ハ中硫黄島ニ於ケル特異ノモノニシテ海岸林ト山岳林トノ混生植生ニ當ル

次テニ本地方極盛相ヲ繰返シ本稿ヲ結ハントス

現在遺存セル母島石門山原生林ハ過去ニ於テモもくたちばな、うどのき、ちぎ等(  $Bb$  群叢)ヲ主構成種トセシモノト信セラル

コノ原生林ハ父島、母島列島ノ極盛相トシ 若干悪地、岩石地ヲ除キ上記  $Bb$  群叢其物カ 其ノ類似群叢トシ存在セシト推定サル

然シ乍ラコノ事實ヲ全硫黄列島迄 適用シ得ルヤニ



ツキテハ既ニ各所ニ言及セシ如ク頗ル疑問トス 同列島ニハ母島、父島列島ニ尠キまるばち繁生シ 山上（七。一八。米）ニハ ひさかきいちご、やつでヨリナル灌木原カ現ハレ 一般森林地ハちぎ、しろてつ群叢ニヨリ形成セラル等 何レモ父、母島ニ於テハ之ヲ特殊植生ト見做サレルモノノミニシテ 今日ノ植物分布調査ヨリ推スニ同地原生林ニハ、うどのキ、もくとちばなヲ含マサルコト明カナリ

從テ同列島極盛相ハちぎヲ主トシ しろてつ或ハまるばちヲ混スル群叢ニシテ 其ノ林相構成ハ不完全乍ラ現在所生ノ老林ヨリ大略ヲ把握シ得ラル

依是觀之小笠原諸島ニハ端的ニ二種類ノ原生林ヲ認メ得 兩者ヲ比較スルニもくとちばな、うどのキナル最主要種ハ硫黄列島ニハ之ヲ欠クヲ以テ二者合セテ一トナスコト得サルニ ちぎハ共通的ニ分布シ 且ツ母島ノ原生

林ノ一部ニハ多生セル所アリ

父島、母島兩列島ヨリ硫黄列島ト同様ナル Bf ちぎ、しろてつ群叢ヲ多少ナリト檢出シ得ルヤ否ヤハ 尙詳查ノ要アルモ單ニ老ちぎ林ヲ指ス時ハ 兩列島間共通ナリト言ヘサルニアラス

斯クニ原生林ノ差異ノ程度ハ明ニスルコト得ルモ 其ノ発生原因ハ果シテ氣候差異ノミニ歸セラルヘキカ 或ハ植物移動ノ厂史性ニ因由スルモノナルヤ確言スルヲ得ス

硫黄列島ニハひめつばき、しやりんばい、あかてつ、びろーノ分布ヲ見ス 之等ノ問題ヲ含ム區系成立ノ研究ヲ完了スルカ先決問題ナリ



本業務ニ從事セシ職員左ノ如シ

年次	業務別	官 氏 名
昭和十年	監督	營林局技師 山内倭文夫
同	實 查	營林局技手 栗田 勲
同	〃	〃
昭和十三年	内務及報告書調製	〃
	製 圖	高橋松尾
	雇 用	杉浦 喬

昭和十四年四月二十日 了。

参 考 文 献

小笠原島所生植物調査 --- 東京府小笠原支廳

昭和十三年三月

硫黄列島ノ概況ト植物調査 --- 岡 部 正 義

昭和十一年

小笠原島ノ植物 --- 東 京 府

昭和十一年

小笠原島ニ於ケル木本植物ノ開花結實期並ニ種子結實期並ニ種子ニ関スル調査 --- 岡 部 正 義

昭和十一年

林業試験彙報第三十七號 --- 林業試験場

(硫黄島ノ植生ニ就テ)

昭和九年

小笠原國有林植物概観 --- 東京營林局



林業試驗報告 第三十六號

林業試驗場

昭和四年

小笠原島ノ植生並熱帶有用植物ニ就テ

昭和十三年

日本生物地理學會報 第卷第號

日本生物地理學會

昭和五年

東亞植物

中井猛之進

昭和十年



